

平成 25 年度

# 専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科  
口腔保健工学専攻

## まえがき

この教育要項は、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の授業を受ける学生の皆さんに、平成25年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんに、本学における口腔保健工学専攻教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成25年4月

歯学部口腔保健学科教育委員会

# 口腔保健学科

## 基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

## 一般教育目標

口腔保健学科では、次のような一般教育目標の基に教育を行っています。

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。
8. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
9. QOLの向上に関わるものづくりの専門職として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。

## 口腔保健学科のディプロマポリシー

口腔保健学科では、教養部および各専攻における、基礎から臨床、実践に統合する体系的学習を行い、進級要件（東京医科歯科大学全学共通科目履修規則及び東京医科歯科大学専門科目履修規則）を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

### 1. 幅広い教養と豊かな感性

全学共通科目から専門の臨床・臨地実習に至る全教育課程を通して、口腔保健・医療・福祉領域の専門職に必要とされる幅広い教養ならびに人々の心情と行動を理解できる豊かな感性と高い倫理観を身につけている。

### 2. 問題提起、解決能力

口腔保健・医療の急速な進歩ならびに口腔保健・医療・福祉への多様なニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づいた論理的思考力と、主体的に問題を提起、解決する能力を有している。

### 3. 国際性

口腔保健・医療・福祉分野における国際貢献への高い関心を有し、国際活動・協力を実践するための基礎力を備えている。

歯科衛生および歯科技工の領域において指導的役割を担えるよう、専門職としての高度な知識と技能を有していることが求められる。また、近年は関連多職種と連携した口腔保健の実践が求められており、チームとしての保健・医療・福祉活動に専門職として参加できる基礎力を修得していることが必須である。

## 口腔保健工学専攻のカリキュラムポリシー

東京医科歯科大学の教育理念、および歯学部口腔保健学科の教育理念に基づき、口腔保健工学専攻の教育目標をふまえて、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1. 全学共通科目の人文・社会科学、専門科目の技術倫理、コミュニケーション論、PBLテュートリアルで行うヘルスプロモーション等の履修を通して、歯科医療人としての倫理観ならびにコミュニケーション能力を育てる。
2. 全学共通科目の自然科学、専門課程の基礎歯科医学を学び、さらに統合力を必要とする卒業研究、再建工学包括臨床実習等の履修を通して、学際的科学的視点と問題提起、解決能力を育成する。
3. 歯科医療の進歩に応じた歯科技工に関する知識と技術を基礎から応用まで段階的に学ぶことにより、最新の情報工学を駆使した歯科技工物製作の理論と実際への理解を深め、新たな技術開発への基礎力を培う。
4. 口腔リハビリテーション工学等の履修を通して、疾患により失われた機能回復を促し、患者のQOL向上に寄与できる能力を育成するとともに、人々の健康を支援する使命感を養う。
5. 全学共通科目の外国語、専門科目の科学英語等の履修により、国際協力に関心をもち、海外の文化、社会への理解を深め、国際貢献への姿勢と能力を培う。

## 歯学部長あいさつ

歯学部長 田 上 順 次

口腔保健学科口腔保健工学専攻では、「造形と製作加工の技術を科学的に裏付けされた匠の技として発展させ、人々の健康に寄与する」ことを謳っています。口腔保健工学専攻は、平成23年4月に歯学部附属歯科技工士学校を改組して新設されました。新時代の歯科技工士の未来を拓く、世界のリーダーとなりうる人材の輩出を目指し、歯科技工の技術だけに偏るのではなく、幅広い知識と専門的技能を有し、多方面で活躍できる人材の育成を図っています。

本専攻の歴史は、昭和4年、本学の前身である東京高等歯科医学校に設置された技工士養成科にまで遡ります。この間、多くの人材を輩出し、国内はもとより、国際的に活躍する諸先輩も多く、歯科技工士養成校として本学は高く評価されています。皆さんはすでに業界での地位の確立された大学に入学し、専門教育を受けるのですから、卒業時には当然、皆さんに対する社会的な期待も大きなものになります。その期待にこたえるべく、教育内容は十分に検討したものです。世界中どこと比較しても、胸を張れる教員組織、環境、設備、そして教育内容です。ひとつひとつの科目に真剣に取り組み、達成すべき項目をすべて修得すれば、本学科の卒業生として、どこに出ても自信を持って活躍できるはずです。

グローバル化する社会においても、皆さんに対する期待は増すばかりです。社会の期待にこたえて専門職業人として、歯科医療に貢献する、歯科保健工学に貢献する、そして業界のリーダーとして、業界の未来を築いていってくれることを願っています。皆さんの将来は輝かしい可能性に満ちています。どうか先生方を信頼し、同胞とともに助けあいながら、力いっぱい勉学に励み、自分の人生を切り開く基盤を形成してください。

# 目 次

まえがき

基本的理念

一般教育目標

歯学部長あいさつ

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則 ..... 1

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規 ..... 8

東京医科歯科大学試験規則 ..... 9

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規 ..... 12

学生周知事項等

歯科技工士国家試験について ..... 13

学生周知事項 ..... 15

台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置（湯島地区） ..... 19

スチューデントセンターについて ..... 19

保健管理センターについて ..... 20

図書館について ..... 20

国立美術館キャンパスメンバーについて ..... 21

1号館・2号館・7号館の管理、使用について ..... 21

歯学部附属病院の機構 ..... 26

湯島キャンパス案内 ..... 28

1号館西6～8階平面図 ..... 29

2号館平面図 ..... 30

7号館平面図 ..... 31

1号館の配置 ..... 32

2号館の配置 ..... 33

7号館の配置 ..... 33

10号館の配置 ..... 34

M&Dタワーの配置 ..... 34

歯科棟の配置 ..... 35

平成25年度歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻専門科目授業計画表 ..... 36

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻科目責任者連絡先一覧 ..... 37

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻平成25年度1年次専門科目授業時間割 ..... 38

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻平成25年度2年次科目授業時間割 ..... 39

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻平成25年度3年次科目事業時間割 ..... 40

第1学年履修科目

口腔保健工学概論（口腔保健工学概論A） ..... 41

早期臨床体験実習 ..... 43

技術倫理 ..... 45

形態認識造形学	47
形態認識造形学実習（形態認識造形学実習A）	49
メディア情報学基礎	51
口腔保健材料力学（口腔保健材料力学A）	53
人体の構造と機能 I	55

## 第2学年履修科目

口腔保健工学概論（口腔保健工学概論B）	59
感染予防	61
形態認識造形学実習（形態認識造形学実習B）	63
コミュニケーション論	65
科学英語 I	67
ヘルスプロモーション	69
人体の構造と機能 II	71
口腔保健理工学	75
口腔保健理工学実習	78
精密鋳造学	81
精密鋳造学実習	83
咬合学	86
咬合学実習	88
有床義歯工学（全部床義歯工学）	90
有床義歯工学（部分床義歯工学 A）	93
有床義歯工学実習（全部床義歯工学実習）	96
有床義歯工学実習（部分床義歯工学実習 A）	99
保存修復工学	103
歯冠修復工学（歯冠修復工学 A）	105
歯冠修復工学実習（歯冠修復工学実習 A）	108
プロセステバイス工学	112

## 第3学年履修科目

口腔保健材料力学（口腔保健材料力学B）	115
口腔保健材料力学実習	117
科学英語 II	119
咬合学実習	121
有床義歯工学実習	123
欠損再建工学	127
歯冠修復工学（歯冠修復工学B）	129
歯冠修復工学実習	132
CAD/CAMシステム工学	135
CAD/CAMシステム工学実習	137

先進修復工学実習	139
セラミック加工学	141
セラミック加工学実習	143
口腔外科工学	145
人間工学デザイン論	148
バイオデザイン学	150
発育口腔工学	152
小児歯科工学	154
小児歯科工学実習	157
矯正歯科工学	160
矯正歯科工学実習	163
頸補綴工学	167
頸補綴工学実習	169
口腔リハビリテーション工学	171
キャリアマネージメント学	173
再建工学包括臨床実習（再建工学包括臨床実習A）	175

# 東京医科歯科大学学部専門科目履修規則

〔平成22年3月30日  
規則第41号〕

## (趣旨)

第1条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

## (専門科目の履修)

第2条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

## (授業)

第3条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

## (1単位当たりの授業時間)

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義 15時間
- (2) 演習 30時間
- (3) 実習 45時間

2 前項第3号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- (1) 看護学専攻 45時間
- (2) 検査技術学専攻 30時間

## (編入学者、転入学者の単位認定)

第5条 学則第12条から第18条の2までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）において

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

- 2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。
- 3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。
- 4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。
- 5 学習の評価は、別表2のとおりとする。
- 6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。
- 7 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

(卒業認定)

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第11条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。
- 4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成22年3月31日において現に歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附 則（平成23年3月4日規則第15号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成24年2月3日規則第19号）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1

(1)～(5)省略

(6) 口腔保健学科(口腔保健工学専攻)教育課程

区分	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
口腔基礎科学	人体の構造と機能 I	2			○						
	人体の構造と機能 II	5				○	○				
	メディア情報学基礎	1			○						
	科学英語 I	1					○				
	科学英語 II	1						○			
	技術倫理	1		○							
口腔保健工学統合学	口腔保健工学概論	2		○		○					
	キャリアマネージメント学	1						○			
	形態認識造形学	1			○						
	形態認識造形学実習	2		○	○	○					
	コミュニケーション論	1				○					
	ヘルスプロモーション (PBL)	2			○						
口腔臨床科学	人間工学デザイン論		1						○		
	口腔外科工学	1						○			
	発育口腔工学	1							○		
	保存修復工学	1				○					
	欠損再建工学	1						○			
	口腔リハビリテーション工学	1							○		
口腔保健機材工学	口腔保健理工学	3				○					
	口腔保健理工学実習	2				○					
	早期臨床体験実習（共）	1		○	○						
	感染予防	1				○					
	口腔保健材料力学	2			○				○		
	口腔保健材料力学実習	1						○			
口腔保健機材工学	画像解析学概論		1							○	
	画像解析学概論実習		1							○	
	CAD/CAMシステム工学	1						○			
	CAD/CAMシステム工学実習	1						○			
	オーラルインストゥルメント工学		1							○	
	バイオデザイン学		1						○		
精密铸造工学	プロセスデバイス工学		2				○				
	精密铸造学	1				○					
	精密铸造学実習	1			○						

歯冠修復技工学	咬合学	1				○				
	咬合学実習	1				○	○			
	小児歯科工学	1						○		
	小児歯科工学実習	1						○		
	セラミック加工学	1					○			
	セラミック加工学実習	1					○			
	歯冠修復工学	4				○	○			
	歯冠修復工学実習	8				○	○			
口腔保健再建工学	先進修復工学実習	1					○			
	矯正歯科工学	2						○		
	矯正歯科工学実習	1						○		
	有床義歯工学	4				○	○			
	有床義歯工学実習	8				○	○	○		
	スポーツ歯科工学	1							○	
	顎補綴工学	1						○		
	顎補綴工学実習	1						○		
口腔機能再建技工学	オーラルアプライアンス工学	1						○		
	再建工学包括臨床実習	14						○	○	○
	特論Ⅰ（卒業研究）	3						○	○	
	特論Ⅱ（卒業作品）	3						○	○	
計		97	7							

※選択科目から3単位以上修得する。

別表2

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合 格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

**別表3**

(1)～(4)省略

**(5) 口腔保健学科（口腔保健工学専攻）**

- |                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 第1学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第2学年に進級することができない。<br>人体の構造と機能Ⅰ、メディア情報学基礎、技術倫理、形態認識造形学、早期臨床体験実習（共）<br>(第1学年次に実施される授業を対象とする)<br>口腔保健工学概論、形態認識造形学実習、口腔保健材料力学                                                                            |
| (2) 第2学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年に進級することができない。<br>人体の構造と機能Ⅱ、科学英語Ⅰ、口腔保健工学概論、形態認識造形学実習、コミュニケーション論、ヘルスプロモーション（PBL）、保存修復工学、口腔保健理工学、口腔保健理工学実習、感染予防、精密铸造学、精密铸造学実習、咬合学、有床義歯工学<br>(第2学年次に実施される授業を対象とする)<br>咬合学実習、歯冠修復工学、歯冠修復工学実習、有床義歯工学実習 |
| (3) 第3学年の前期までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。<br>CAD/CAMシステム工学実習、咬合学実習、セラミック加工学実習、歯冠修復工学実習、先進修復工学実習、有床義歯工学実習                                                                                                           |
| (4) 第3学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第4学年に進級することができない。<br>科学英語Ⅱ、キャリアマネジメント学、口腔外科工学、発育口腔工学、欠損再建工学、口腔リハビリテーション工学、口腔保健材料力学、口腔保健材料力学実習、CAD/CAMシステム工学、小児歯科工学、小児歯科工学実習、セラミック加工学、歯冠修復工学、矯正歯科工学、矯正歯科工学実習、顎補綴工学、顎補綴工学実習                            |

# 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規

平成23年12月7日  
歯 学 部 長 制 定

## (趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第11条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (学習の評価)

第2条 定期試験及び追試験の成績については、担当教員が100点満点で採点し、授業科目ごとに履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

2 第1項の学習の評価に、平常の学習の成果を加味することができる。

## (必修科目及び仮進級)

第3条 履修規則別表3(4)(5)に掲げる科目は、必修科目とする。

2 必修科目に係る試験の不合格者については、仮進級を認めない。

## (G P)

第4条 G P (Grade Point) で成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0
成績区分	90点以上	89~80点	79~70点	69~60点	59点以下

2 選択科目の履修を届け出た後、単位を認定されなかった科目については、未履修科目とし、G P A (Grade Point Average) の計算式には算入しない。

## (補則)

第5条 この内規に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

## 附 則

1 この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。  
2 平成23年3月31日において現に歯学部口腔保健学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

# 東京医科歯科大学試験規則

平成23年4月1日  
規則第1号

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

## (試験の種類)

第2条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

## (試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

## (本試験)

第4条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

## (定期試験)

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第3項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

## (共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（C B T）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（O S C E）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

- 4 共用試験の結果は、公示する。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

- 2 追試験を受験しようとする者（以下「追試験申請者」という。）は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長（以下「学部長等」という。）に願い出て、許可を受けなければならない。
- 3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。
- 4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。
- 5 試験の結果は、公示する。
- 6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

- 2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。
- 3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。
- 4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。
- 5 試験の結果は、公示する。
- 6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

(試験の成績)

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

- 2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。
- 3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

(成績の報告)

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

- 2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において不正行為があったときは、学則第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成16年規則202号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成16年規則214号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成23年3月31日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

# 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規

〔平成23年12月7日  
歯学部長制定〕

## (趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則（平成23年規則第1号。以下「試験規則」という。）に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (試験の種類)

第2条 試験規則第5条に規定する定期試験とは、期末試験及び中間試験とする。

## (期末試験及び中間試験)

第3条 期末試験とは、履修を修了した授業科目及び授業科目を構成するユニット（以下「ユニット」という。）について定期的に行う試験をいう。  
2 中間試験とは、履修中の授業科目及びユニットについて適宜行う試験をいう。  
3 期末試験及び中間試験の実施時期については、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻（以下、「各専攻」という。）において別に定める。

## (追試験)

第4条 追試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

## (再試験)

第5条 定期試験に係る再試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

## (補則)

第6条 この内規に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

## 附 則

1. この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。
2. 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学科の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

# 学生周知事項等

## 歯科技工士国家試験について

東京都歯科技工士国家試験（東京都福祉保健局）

【試験の概要】

（試験科目）

（1）学説試験

歯科理工学、歯の解剖学、顎口腔機能学、有床義歯技工学、歯冠修復技工学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学、関係法規

（2）実地試験

歯科技工実技

（受験資格）

- （1）文部科学大臣の指定した歯科技工士学校を卒業した者
- （2）厚生労働大臣の指定した歯科技工士養成校を卒業した者
- （3）歯科医師国家試験又は歯科医師国家試験予備試験を受けることができる者
- （4）外国の歯科技工士学校若しくは歯科技工士養成所を卒業し、又は外国で歯科技工士の免許を受けた者で、厚生労働大臣が前記（1）（2）（3）に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者（出願前に東京都に申し出る必要があります。）

（試験期日）

例年、2月の第2週に行われます。

平成25年の東京都歯科技工士国家試験は、学説試験が平成25年2月12日（火）午後1時から午後5時まで、実地試験が2月14日（木）または2月15日（金）のうち指定するいずれかの日の午前9時から午後4時30分まで行われました。

（試験手数料）

受験手数料の額は36,000円です。

ただし、東京都福祉保健局関係手数料条例（平成12年東京都条例第87号）第5条に基づき、次のアに掲げる者については試験手数料を免除、イに掲げる者については試験手数料の2分の1の額を減額されます。

ア 生活保護法（昭和25年法律第144号）による扶助を受けている者

イ 身体障害者福祉法（昭和24年法律第383号）による身体障害者手帳を受けている者

該当する場合は、所定の様式に当該事項を証する書類の写しを添付して申請し、出願の際に原本を持参し、照合を受ける必要があります。

(受験手続)

1. 必要書類

ア 受験願書

イ 受験資格を証する書類（受験資格の（1）、（2）に該当する者は卒業証明書、卒業見込証明書）

ウ 受験写真用台紙（写真貼付）および受験票（領収証書貼付）

エ 連絡用住所・氏名シール

2. 出願について

大学で必要書類をとりまとめ、東京都福祉保健局に提出します。

なお、出願に必要な書類は、東京都福祉保健局から毎年12月に各学校・養成所に送付されます。

(その他)

1. 視覚、聴覚、音声機能又は言語機能に障害を有する者で受験を希望するものは、例年11月末までに東京都福祉保健局まで申し出る必要があります。申し出た者については、受験の際にその障害の状態に応じて必要な配慮を講じることができます。

2. 書類作成のために、戸籍抄本の写しが必要です。

## 学生周知事項

### 1. 掲示について

学生への告知、通知、連絡はすべて掲示板に掲示します。掲示の見落としがないよう十分注意すると共に、1日に1度は掲示を見て不利益をこうむらないように心がけましょう。  
(口腔保健工学専攻掲示板は2号館2階にあります。)

### 2. 学生証について

- (1) 学生証は常に携帯すること。
- (2) 学生証を紛失または破損等したときは、学務企画課（1号館西1階）に届け出て再交付の手続きをしてください。再交付費用（2,200円）は学生本人の負担とします。
- (3) 学生証は卒業、退学または除籍のときには直ちに学務企画課へ返納すること。返却できない場合は、費用を負担することとします。

### 3. 学生旅客運賃割引証

- (1) 課外活動または帰省等でJR線を利用し、乗車区間が片道100kmを超える場合、旅客運賃の割引（2割）を受けることができます。
- (2) 学割証の不正使用（第三者への貸与等）は絶対にしないこと。
- (3) 年間使用限度枚数は1人10枚（1回につき2枚まで）です。
- (4) 私鉄、バス等の利用において通学証明書を必要とする場合は、所定の用紙をもらい、教務課歯学系教務掛（1号館西1階）に問い合わせてください。
- (5) 学割証が必要なときは5号館3階談話室にある証明書自動発行機を使用すること。

利用日時：月曜日～金曜日、8:30～21:00

問い合わせ先：学生支援課（内線5077）

### 4. 証明書等

証明書等は、教務課および証明書自動発行機にて発行します。

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/procedure/shigaku/index.html>

- (1) 次に掲げるものは、教務課歯学系教務掛（1号館西1階）で発行します。歯学部証明書交付願を記入し提出してください。（受付時間 8:30～17:15）

(①と②の交付は、原則として交付願を受理した日から1週間程度要します。)

①成績証明書

②調査書

③英文の在学証明書

④通学証明書（交通機関から請求された場合に限る）

通学証明書が必要な場合は、歯学系教務掛に問い合わせてください。

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

(2) 次に掲げるものは、5号館3階談話室にある自動発行機で発行します。

(利用日時：月曜日～金曜日、8:30～21:00)

(問い合わせ先：学務企画課企画調査掛（内線5074）)

①在学証明書

②卒業見込証明書（第4学年在学者のみ）

## 5. 住所・氏名等の変更について

本人または保証人の住所、氏名、電話、本籍等（電話番号を含む）に変更が生じたときは、速やかに教務掛へ申し出て所定の手続きをしてください。

## 6. 欠席、休学、復学、退学

### (1) 授業の欠席

病気その他の事由により欠席した場合は、欠席届を教務課歯学系教務掛（1号館西1階）へ提出すること。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。）

### (2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3か月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。）

休学を許可される期間は、通算して2年以内です。（特別の事情があるときは、さらに1年以内の休学が許可されることがあります。）

### (3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付すること。）

### (4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談すること。

## 7. ネームプレート着用について

歯学部学生であることを明示するために、歯学部・同附属病院実習中は必ずネームプレートを着用すること。

プレートは貸与とし、紛失または破損した場合は、再交付を受けるものとします。この場

合は実費を負担すること。

学科専攻名と氏名の間のスペースに学年を表示するシール（例「OE2」）を貼ること。シールは歯学系教務掛で配布しているので、汚損したら適宜貼りかえること。

#### 8. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学陪）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

問い合わせ先：学生支援課（1号館西1階）内線（5077）

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/support/insurance-regime/index.html>

#### 9. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

（1）講義室、実習室、ロッカー室：学務部教務課（1号館西1階：内線5411）

学部防災センター（歯科棟北1階）

口腔保健工学専攻事務室（2号館2階：内線5780）

（2）上記（1）以外：歯学部総務課（歯科棟南2階：内線5406）

#### 10. 授業料の払込について

金融機関の預金口座振替により、授業料が引き落とされます。

前期分授業料は4月中に、後期分授業料は10月中に納付すること。

#### 11. 湯島キャンパスにおける講義受講に際しての注意事項

（1）授業中のパーソナルコンピュータ、スマートフォンなどの機器使用の制限について

授業中におけるパーソナルコンピュータ、タブレット端末、スマートフォンなどの携帯電話等の使用に関して以下のように定められています。

1) 当該授業に関係のない機器を使用することを禁止します。

2) 授業担当者あるいは授業補助者が、学生が当該授業に関係のない機器を使用していると認めたときは、次のように使用を制限することができます。

① 当該機器の電源を強制的にOFFにする。

② 当該授業終了時まで授業担当者あるいは授業補助者が当該機器を保管することができる。

③ 当該学生を退出させる。再入室にあたっては当該機器を持ち込んでいないことを条件とする。

（2）カードリーダーの設置について

2号館2階第4講義室内、3階第1講義室・リフレッシュルーム内、4階第3実習室前の廊下には、カードリーダーが設置されています。教員からの指示があった場合には、必

ずカードリーダーに学生証をタッチして出席登録をすること。

(3) 平日の午前 8 時 30 分から午後 5 時まで歯学部附属病院玄関から出入りすることを原則禁止します。

(4) 歯学部建物内へは、以下のように出入りすること。

1) 聖門 ⇄ 1 号館、2 号館、7 号館

2) 正門 ⇄ 1 号館、2 号館、7 号館

3) 御茶ノ水門あるいは丸の内線出口 ⇄ 1 号館、2 号館、歯学部附属病院防災センター（歯学部時間外通用口）

(5) 白衣または実習着を着用していない学生は、歯学部附属病院の聖橋側エレベーターを使用すること。

(6) 臨床実習履修中の学生以外がやむを得ない理由で歯学部附属病院内を移動するときは、私語を慎むこと。

(7) 白衣または実習着を着用したまま学外に出ないこと。

(8) 校舎内は禁煙です。

## 12. 附属病院内の注意事項

(1) 附属病院内の通行に際しては、特に患者さんに配慮すること。

(2) 附属病院内の患者待合室での休憩は禁止します。

(3) 附属病院内では、つっかけ・スリッパ等の使用を禁止します。

## 13. その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管しているので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。

(2) 事務の窓口

教務事務：学務部教務課歯学系教務掛（1号館西 1 階、内線 5411）

授業料の納入：財務施設部財務管理課収入管理掛（1号館西 3 階、内線 5048）

奨学金、授業料免除：学務部学生支援課学生支援総括掛（1号館西 1 階、内線 5077）

奨学金：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/scholarship/index.html>

授業料免除：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/exemption/index.html>

## 台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置（湯島地区）

台風等の自然災害や交通機関運休に伴う湯島地区で行う授業の休講、試験の延期の措置等を決定した場合は、下記により本学のホームページ「学部・大学院」ニュース欄に掲載します。

URL : <http://www.tmd.ac.jp/faculties/index.html>

### ○台風などで首都圏に直接災害が予想される場合

- ・午前の授業を休講、午前の試験を延期とする場合は、午前6時30分までに公示する。
- ・午後の授業を休講、午後の試験を延期とする場合は、午前10時までに公示する。
- ・夜間（午後6時以降）の授業を休講、夜間（午後6時以降）の試験を延期とする場合は、午後4時までに公示する。

### ○首都圏における交通機関（JR及び大手私鉄・地下鉄など）が全面的に運転を休止している場合

- ・午前の授業を休講、午前の試験を延期とする場合は、午前6時30分までに公示する。
- ・午後の授業を休講、午後の試験を延期とする場合は、午前10時までに公示する。
- ・夜間（午後6時以降）の授業を休講、夜間（午後6時以降）の試験を延期とする場合は、午後4時までに公示する。

## スクーデントセンターについて

1. 場所：5号館2階
2. 開室時間：9:00～17:00
3. 主な業務：生活、修学、就職、メンタルヘルス及びハラスメントに関することなど、キャンパスライフ全般に渡り全学的に支援を行い、学生支援活動の充実を図ることを目的として設置されています。
  - ・生活に関する相談…家族の問題・経済的な問題・恋愛問題など
  - ・修学に関する相談…勉強の進捗状況・進学・研究室の人間関係など
  - ・就職に関する相談…卒業後の進路・就職活動など
  - ・メンタルヘルスに関する相談…健康の問題・ストレス・心の問題・対人関係など
  - ・ハラスメントに関する相談…アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントなど
4. 個別相談時間：10:30～17:00（ご予約ください。予約なしでも可能な限り対応します。）
5. 就職・キャリア支援に関する情報の提供（学務部学生支援課と共同企画・運営）  
ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/career/index.html>
6. 問い合わせ先：内線4959  
ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/cmn/stdc/index.html>

## 保健管理センターについて

1. 場所：5号館2階
2. 利用可能時間：8:45～12:00、13:00～17:00
3. 主な業務：(詳細は「保健管理センター案内」を参照してください。)
  - 健康相談、処置（担当医による相談：10:00～12:00、13:00～15:00）
  - 健康診断書の発行：事前申し込みが必要です。必ず学生一般定期健康診断を受けていなければなりません。保健管理センター窓口で相談してください。
  - 健康診断（5月）と各種検査、ワクチン接種（年間予定により実施）
4. 問い合わせ先：内線 5081

ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/cmn/hsc/hsc.htm>

## 図書館について

1. 場所：M&Dタワー3階（カウンター、閲覧席等）、4階（閲覧席、情報検索室等）
2. 利用可能時間：

開館時間	平日	8:30～22:00
	土日祝	8:30～17:00
(情報検索室)	平日	9:00～21:00
	土日祝	9:00～16:00
休館日		年末年始
3. 利用方法：(詳細は「図書館利用案内」を参照してください。)
  - 図書館の利用には、利用証が必要です。ICカードタイプの学生証が利用証になります。
  - 貸出を希望される資料と利用証を持って、カウンターへお越しください。自動貸出機もご利用いただけます。
  - 引き続き資料を利用したい場合、貸出期間を延長することが出来ます。My Library もしくはカウンターで延長手続きをしてください。
  - 本館・分館間で週に一度、資料の取り寄せを行っています。カウンターで申込手続きを行ってください。
  - 本館・分館の資料は、どちらの図書館でも返却できます。

開館時：カウンターに返却してください。

閉館時：入り口に設置されたブックポストに返却してください。

- 製本雑誌は自動書庫に保管されています。あらかじめ予約をしてご利用ください。
- 電子ジャーナルは出版社との契約により、学内 LAN からの利用のみになります。
- 本学の資料を著作権の範囲内で複製することができます。コピーはセルフサービスです。図書館に設置されているコピー機をお使いください。現金またはプリペイドカードでお支払いください。料金：モノクロ1枚 10円 カラー1枚 50円
- 情報検索室では備付のPCが利用できます。ネットワークの利用にはアカウントとパスワード

ードが必要です。プリンターは情報検索室を出て左手奥に 2 台設置されており、有料となります。

- 館内は無線 LAN 対応です。各自で持ち込まれるパソコンからインターネット、学内 LAN に接続する場合は、アカウントとパスワードが必要となります。印刷は自動書庫傍に印刷専用の PC が設置されています。USB メモリー等によりデータを移し、印刷してください。印刷物は PC 左手のプリンター（有料）から出力されます。
- 利用したい資料が学内（講座・電子ジャーナル含む）になく、他大学や研究機関の図書館で所蔵している場合、複写を申し込む、または図書を取り寄せることができます。複写と貸借のお申込みは、My Library か図書館カウンターで受付けています。
- 他大学の図書館を利用する場合、身分証の他に紹介状が必要です。訪問先で利用したい資料の所在を確認し、カウンターでお申込みください。なお、明治大学の図書館は本学の学生証で利用することができます。
- 館内での飲食は原則禁止です。（本館では、3 階の図書館入口前に、飲食ラウンジがあります。）

4. 問い合わせ先：内線 5596 e-mail: info-serve.lib@ml.tmd.ac.jp

ホームページ: <http://www.tmd.ac.jp/lib/guide/top.html>

### 国立美術館キャンパスメンバーズについて

「国立美術館キャンパスメンバーズ」とは、学校教育において美術館を有効に活用することと、学生や教職員の美術に親しむ機会をより豊かにすることを目的とした、大学等を対象とする制度です。本学でもこのキャンパスメンバーズに加入しています。

1. 対象：本学の学部学生・大学院生・歯科技工士学校生・教職員
2. 特典：所蔵作品展の「無料観覧」（所蔵作品を持たない国立新美術館を除く）  
特別展・共催展の「割引観覧」（学生は大学生団体料金・教職員は一般団体料金）
3. 利用方法：各館の券売所または改札で学生は学生証、教職員は身分証明書を提示し、キャンパスメンバーズの利用の旨を伝え、入館または観覧券を購入してください。
4. 利用機関：以下の 5 館

国立西洋美術館、東京国立近代美術館、国立新美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館

5. ホームページ：[http://www.tmd.ac.jp/campuslife/campus\\_members/index.html](http://www.tmd.ac.jp/campuslife/campus_members/index.html)  
<http://www.campusmembers.jp/>

### 1号館西・2号館・7号館の管理、使用について

1. 1号館西・2号館・7号館の出入口の施錠（平日）について

1号館西出入口

1号館西 正面玄関 終日出入可（防災センター管理）

1号館西 東側出入口 解錠 6:00 施錠 18:30

## 2号館出入口

2階正面玄関 解錠 7:30 施錠 18:00

2階外階段 解錠 7:30 施錠 18:00

(施錠後はカードリーダーに学生証をタッチすることで外から入ることが可能です。)

2階歯科棟接続口 終日出入可

## 7号館出入口

1階聖門側 (1か所) 解錠 7:30 施錠 18:00

歯科棟北接続口 (東側6か所) 解錠 7:30 施錠 18:00

1号館東接続口 (2階、3階2か所) 解錠 7:00 施錠 20:00

消防法の規定により、歯科棟側と2階外階段出入口は避難口のため、施錠しても建物内から外へは常に出られます。

ただし、7号館の1号館東接続口 (2階、3階) は施錠すると出入りできません。

## 2. 1号館西・2号館・7号館内各室の施錠について

1号館西講義室 解錠 7:30 施錠 18:00

2号館講義室 隨時 (口腔保健工学専攻教員が解・施錠)

7号館講義室 解錠 7:30 施錠 17:00

2号館学生ロッカー室 番号ロック制

## 3. 1号館西・2号館・7号館における講義室の目的外使用について

講義室は、原則として目的外使用は許可しません。

## 4. 学生ロッカー室 (2号館3階) について

(1) ロッカー室は、更衣のほか、休憩室として使用できます。

(2) 各人にロッカーが貸与されるので、丁寧に使用してください。

男子学生は学生ロッカー室1、女子学生は学生ロッカー室2を使用します。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状回復してください。

(3) ロッカーの使用にあたって、各人で暗証番号を設定し、ロッカーには必ず鍵を閉め、盗難に注意しましょう。ロッカーでの盗難が多発しているので、特に貴重品等の管理は厳重にしてください。

(4) ロッカーの上部に私物を置かないこと。放置された私物は、適宜、予告なしに処分されます。

(5) ロッカーの内外部にシール、ポスター等を貼らないこと。

(6) 飲食後の空容器、紙くず等は必ず分別してごみ箱に捨て、ロッカー室に放置しないこと。

(7) ロッカー室でサークルの集会をしたり、マージャン等をしたりしないこと。

## 5. リフレッシュルーム（2号館）の使用について

- (1) リフレッシュルームは、食事、休憩、歯磨きなどの目的で使用します。
- (2) 口腔保健学科口腔保健工学専攻学生の共用であるとともに、歯学部附属歯科技工士学校の学生が使用します。
- (3) 周囲に迷惑がかからぬよう、お互いに協力して、節度をもって使用すること。
- (4) リフレッシュルームの棚にある図書、雑誌は、口腔保健工学専攻学生の共用とします。一部の学生が独占的に利用することができないようにしましょう。図書、雑誌の管理は学生に任されています。紛失や破損等については、各人の負担により原状回復してください。
- (5) 注意事項
  - ・私物を保管・放置したり、特定の場所を占拠したりしないこと。放置された私物は、適宜、予告なしに処分されます。
  - ・エアコンの設定温度に留意し、誰もいないときにはエアコンを消すこと。
  - ・飲食した空容器、紙くず等は放置せず、必ず分別してごみ箱に捨てること。
  - ・洗面台の排水が詰まるので、食べ物のカス等を流さないこと。
  - ・全員退出する際には電源を全て消すこと。
  - ・掲示板およびホワイトボードは全学年共用で、学生間の連絡のほか、教員からの連絡にも使用することができます。不要になった書き込みや掲示物は書いたものや掲示したもののが責任を持って消し、撤去してください。
- (6) リフレッシュルームは平日に使用できますが、長期休暇中は平日も施錠されるので、その期間中に使用したい学生は、口腔保健工学専攻教員に申し出て解・施錠してもらうこと。

## 6. 歯学部リフレッシュルーム（7号館）の使用について

7号館1階および6階には、学生の休息、自己学習等での使用を目的としたリフレッシュスペースが設けられています。この施設では、無線LANを利用して学内LANへの接続も可能になっています。施設を利用する場合は、下記の注意事項を厳守してください。

### (1) 利用時間

平日 午前8時30分から午後7時30分まで

### (2) 利用する上での注意事項

- 1) きれいに、清潔に利用すること。
- 2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
- 3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任になります）。
- 4) 禁煙です。
- 5) 本学学生としてあるまじき行為を行った場合、大学の懲戒規定にかかるとともに、他の学生を含め、当施設の利用を全面的に禁止することが有り得ることを念頭に置き、使用してください。
- 6) 他に使用している学生を考慮し、騒がないこと。

7) ごみの始末は各自で行うこと。

#### 7. 学生用ホワイトボード（リフレッシュルーム）の使用について

- (1) 掲示物の内容については閲知しないが、良識をもって掲示すること。
- (2) 掲示期間を過ぎることのないよう、自主的に撤去すること。

#### 8. 講義室・実習室の使用について

- (1) 講義室・実習室における飲食は原則として禁止します。
- (2) 講義室の机の上に腰をかけないこと。
- (3) 7号館7階以上は動物実験施設なので、感染予防等のため関係者以外の出入りを禁止します。
- (4) 講義室・実習室においては、紙くず等を散らさないようにし、必ず分別してごみ箱に捨てること。
- (5) 参考書・ノート等の私物は講義室の中に放置しないこと。放置された私物は、適宜、予告なしに処分されます。
- (6) 室内は学生用ホワイトボード・掲示板以外に掲示物の添付を禁じます。
- (7) 講義室・実習室等においては、下駄ばきを厳禁します。

#### 9. 非常時の避難経路について

学内で地震や火災などの非常事態が起こった場合、あわてずに教員の指示に従って行動してください。講義室や実習室等、2号館内にいる場合、教員の指示によりいったん2号館正面玄関前の駐車場に集合してから、M&Dタワー前の避難場所に移動します。詳細は、大規模地震ポケットマニュアルを参照してください。

#### 10. 災害等への対応について

##### (1) 「大規模地震ポケットマニュアル」

本学の学生及び教職員を対象に、大規模地震（震度5強以上を想定）が発生した場合の初動対応を掲載した、「大規模地震ポケットマニュアル」を配布しました。

このマニュアルは、常時携行し、大規模地震が発生した場合の安全確保や避難及び安否確認等に役立ててください。なお、マニュアルがお手元に届かない場合或いは破損・紛失した場合は教務課窓口に取りに来てください。

なお、このマニュアルは、ホームページからも確認できます。

(教職員学生向け情報サイト 危機管理に関する情報)

<https://www1.tmd.ac.jp/others/soumusoumu/soumu/20110405/index.html>

## (2) 「安否確認システム」の導入

大規模地震はもとより、風水害等による本学の学生及び教職員の安否確認のため、携帯電話・スマートフォン・パソコンから安否情報を入力できる安否確認システムを導入しました。

大規模地震や風水害の際には、配付しました「大規模地震ポケットマニュアル」の「安否確認システムによる報告」をご覧いただき、ポケットマニュアルに掲載のQRコード又は、URL (<https://anpi.tmd.ac.jp/>) を直接入力することにより安否確認システムにアクセスし、ID（学籍番号）とパスワード（初期値はIDと同じ）によりログインして自身の安否を入力していただくことになります。大規模地震や風水害の際には、本システムにより大学からの情報を探し、安否情報の入力を願いします。

なお、このシステムの操作方法等については、ホームページから確認してください。

（教職員学生向け情報サイト 危機感覚に関する情報）

<https://www1.tmd.ac.jp/others/soumusoumu/soumu/20110405/index.html>

## 歯学部附属病院の機構

歯学部附属病院は患者の診療を通じて歯学の教育と研究を行う場です。しかし、最近では社会の要請にも答える必要から、歯科医療における模範的診療機関としての使命も課せられています。

### 1. 診療科

歯科病棟	8階
歯科麻酔外来	7階
インプラント外来	
口腔外科外来	6階
顎顔面外科外来	
顎義歯外来	
言語治療外来	
むし歯外来	5階
歯周病外来	
第一総合診療室	4階
第二総合診療室	
歯科心身医療外来	
顎関節治療部	
快眠歯科（いびき・無呼吸）外来	
義歯外来	3階
歯科アレルギー外来	
スポーツ歯科外来	
クリーンルーム歯科外来	
矯正歯科外来	2階
小児歯科外来	
ペインクリニック	
口腔ケア外来	
歯科総合診療部	1階
スペシャルケア外来（高齢者）	
スペシャルケア外来（障がい者）	
摂食リハビリテーション外来	
息さわやか外来	
セカンドオピニオン外来	
歯科放射線外来	地下1階

クリーンルーム歯科外来（3階）は、院内感染のリスクを分散しないために、血液・唾液・その他を媒体として院内感染を引き起こす可能性のある病原微生物（肝炎ウィルス、HIV、MRSA

など) を有する患者のうち、内科主治医等により疾患の管理がなされ、外来診療に耐え得る患者の一般歯科診療を行う施設として設けられています。

第1総合診療室(4階)は歯学科学生臨床実習の場として、一口腔単位の総合歯科診療が行われています。学生は歯科診療用ユニットと技工机(5階)が配当されます。また、第2総合診療室(4階)は臨床研修医の総合研修が行われています。口腔保健学科口腔ケア実習北2診療室(4階)では口腔保健学科口腔保健衛生学専攻学生の臨床実習が行われます。

## 2. 病棟(8階)

入院患者のために、60床のベッドとそれに必要な処置室、記録室等付帯施設が完備され、基準看護のもとに、日夜にわたる診療体制が敷かれています。

## 3. 中央診療施設

検査部、歯科技工部、医療安全管理室、感染対策室、診療情報管理室、歯科臨床研修センター、地域歯科医療連携センター、歯科医療情報センター、歯科器材・薬品開発センター、中央手術室、中央器材室が設置されています。

歯科技工部は、歯学部附属病院3階にあり、約27名の歯科技工士が全診療科で扱う補綴物の製作等の歯科技工業務を行っています。附属歯科技工士学校および口腔保健工学専攻の学生の臨床実習では歯科技工部を通して患者のための歯科技工を実際に行います。

## 4. 薬剤部(1階)

数名の薬剤師が配置されており、薬剤に関する業務(調剤、製剤、処方、薬品の管理、薬品の情報の収集・伝達など)および歯学科臨床実習を行う学生に対する処方箋の取り扱いその他の教育を行っています。

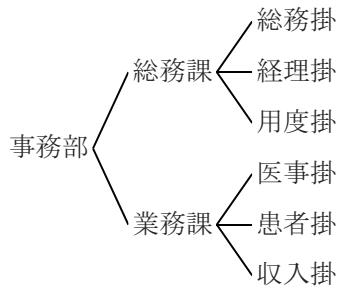
## 5. 看護部

約80名の看護師が各診療科や病棟に配置されており、病院の看護業務を行っています。

## 6. 歯科衛生保健部

約30名の歯科衛生士が口腔ケア外来や関係診療科に配置されており、歯科診療における歯科健康教育、歯科予防処置、歯科診療補助を行っています。口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生の教育を行っています。

## 7. 事務部



学務部 — 教務課 — 歯学系教務掛

歯学部の事務業務は、総務課と業務課によって行われています。また、学生は学務部教務課歯学系教務掛を通じて病院内で勉学できるようになっています。患者は全て業務課を経て受診する

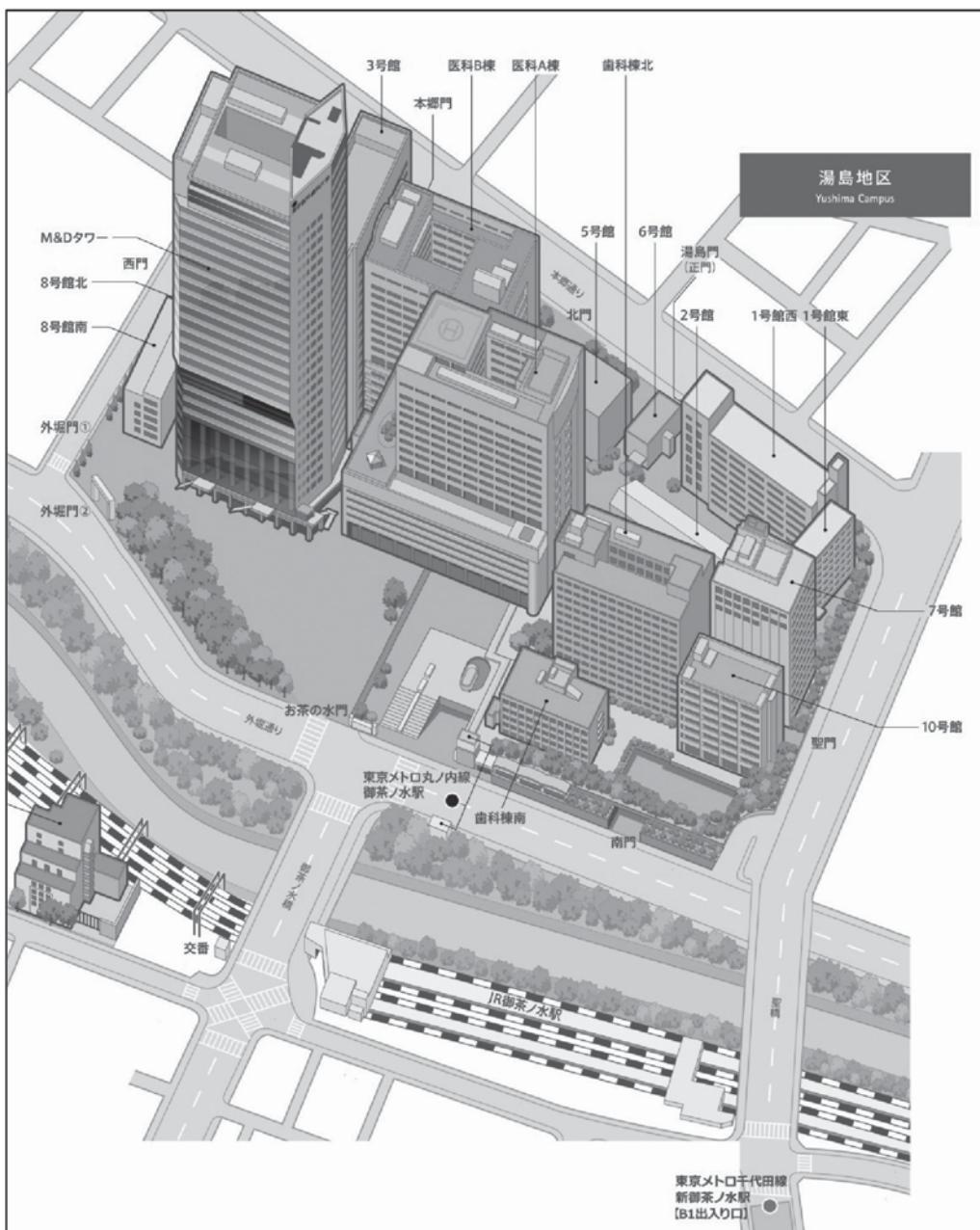
ように決められています。

患者の歯科技工に用いる歯科材料は、医事掛材料室から給付されます。

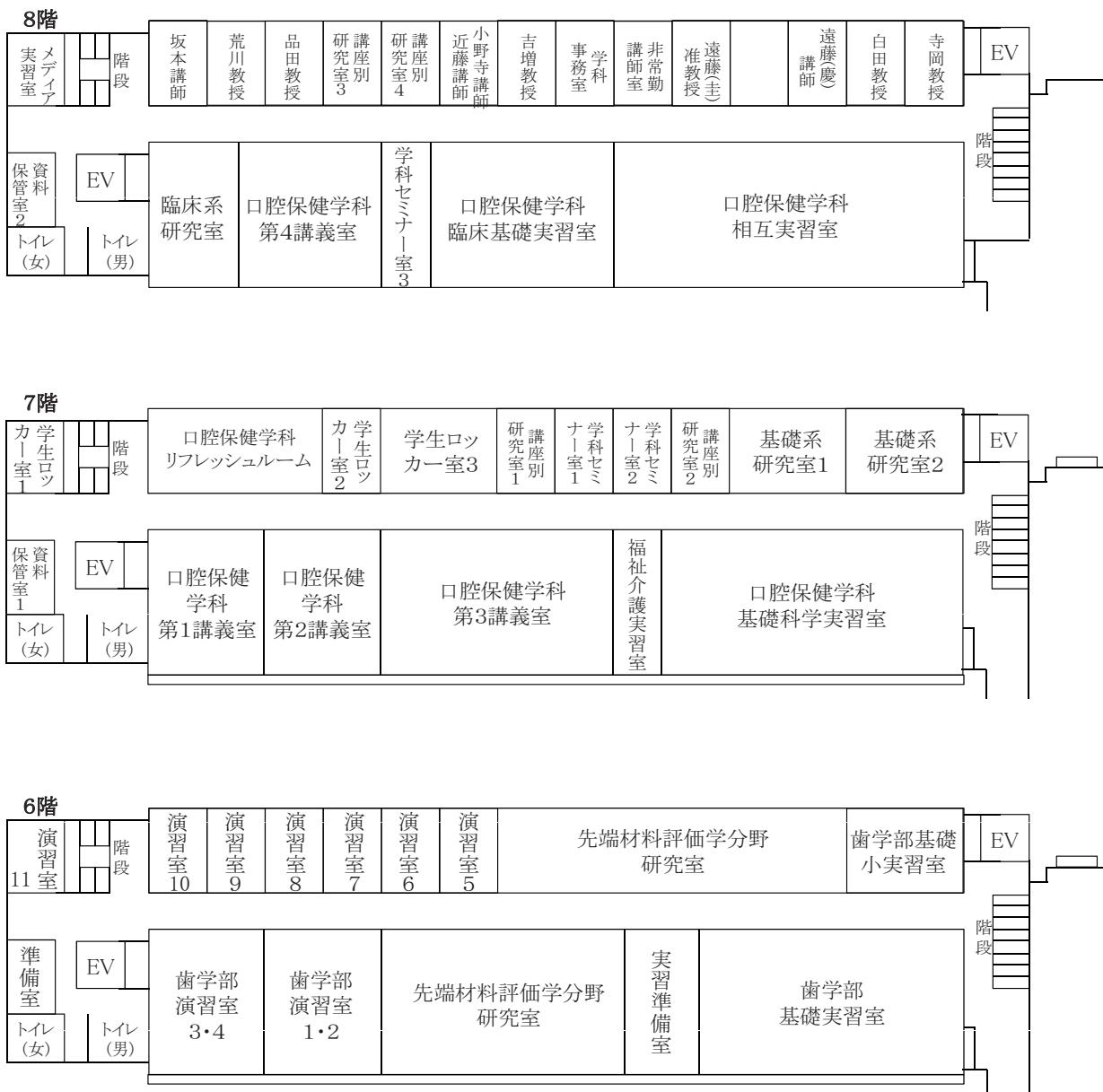
#### 8. 病院の管理運営

病院長が病院の管理運営を統括します。病院は、病院長、各科長、各部長によって構成される病院運営会議によって運営されます。また、学生の臨床教育については、各臨床教授で構成される臨床教育会議および歯学科、口腔保健学科教育委員会において討議されています。

#### 湯島キャンパス案内

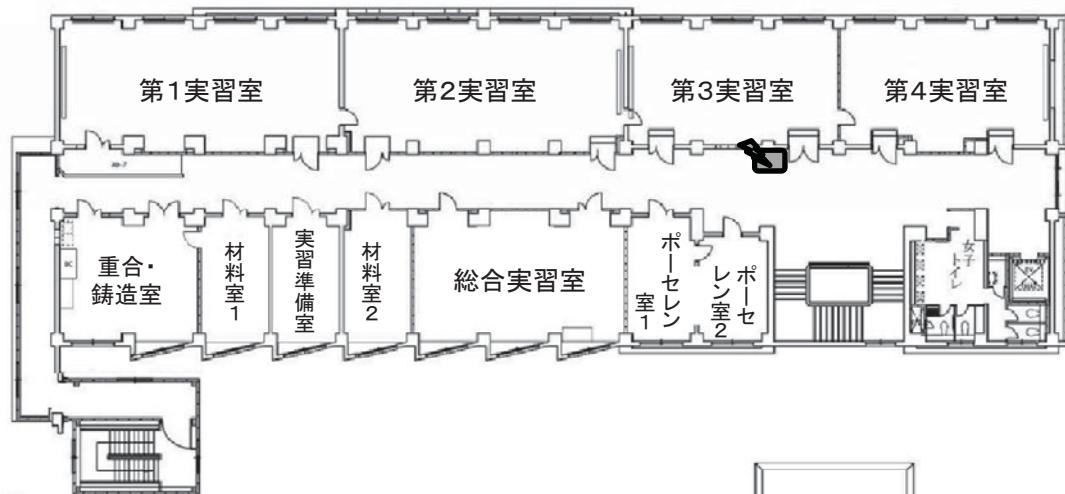


## 1号館西 6～8階平面図

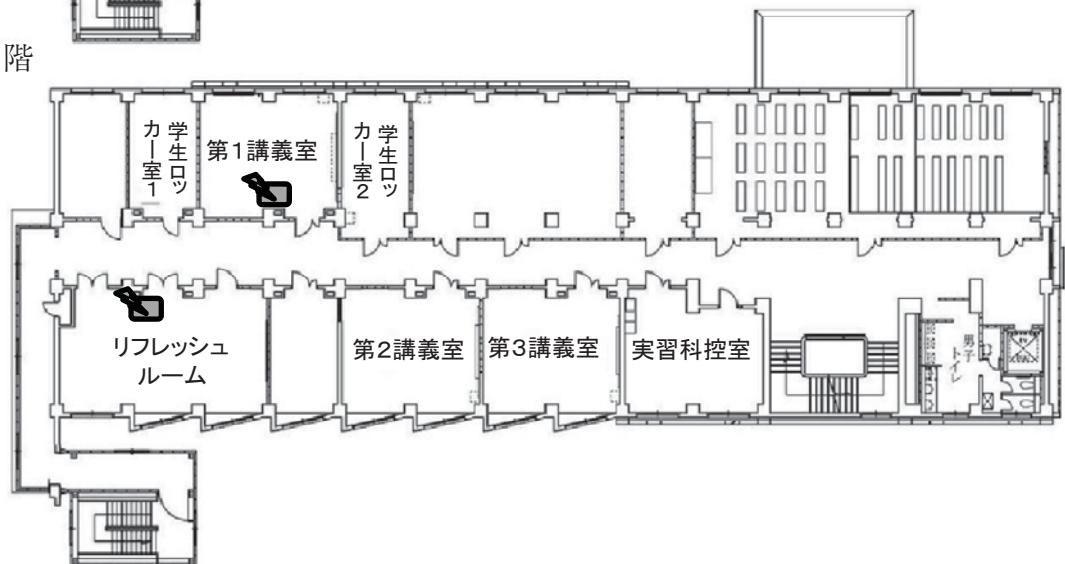


## 2号館平面図

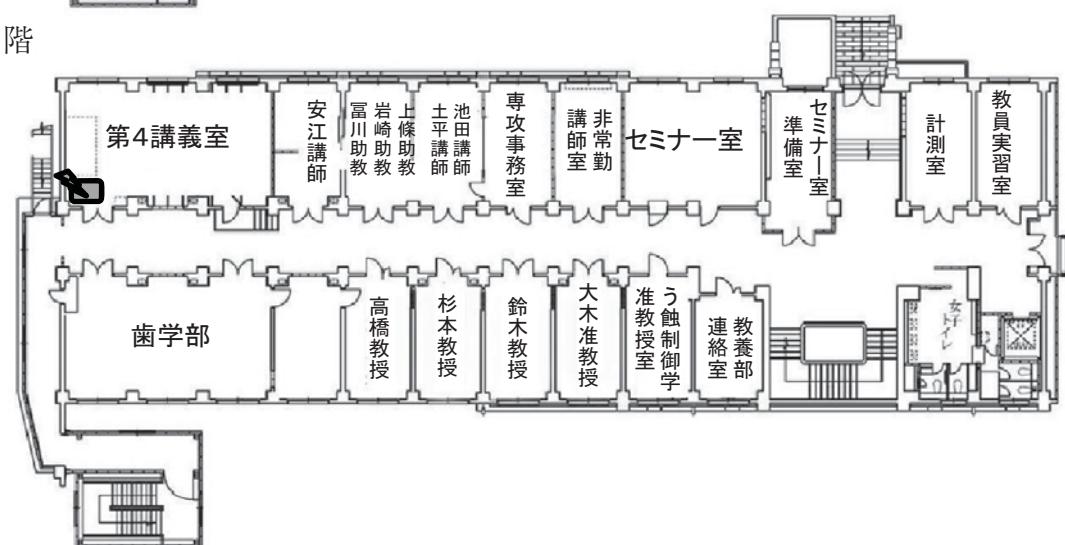
4階



3階

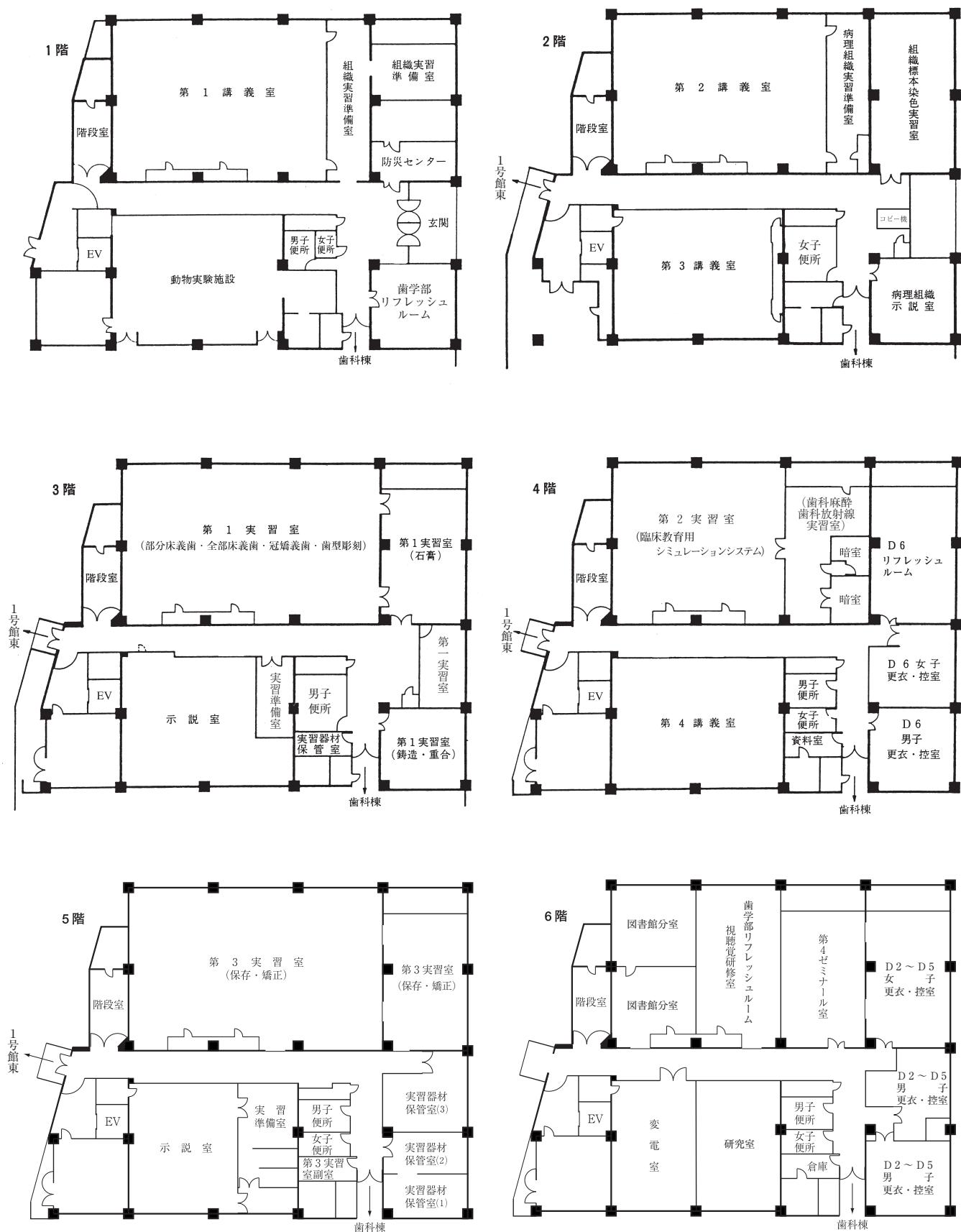


2階



: カードリーダー設置場所

7号館平面図



1号館の配置

階	1号館西				1号館東	
	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他	研究室等	教授室
9	特別講堂			歯科同窓会事務室 特別第1会議室		
8	口腔保健衛生学専攻 第4講義室 臨床基礎実習室 相互実習室 メディア実習室	口腔保健衛生学専攻 学科セミナー室3 講座別研究室3, 4 臨床系研究室	口腔保健衛生学 専攻 教 授 室 准 教 授 室 講 師 室	口腔保健衛生学専攻 学 科 事 務 室 非常勤講師室 資料保管室2		
7	口腔保健衛生学専攻 第1～3講義室 基礎科学実習室 福祉介護実習室 学生ロッカー室1～3 リフレッシュルーム	口腔保健衛生学専攻 学科セミナー室1, 2 講座別研究室1, 2 基礎系研究室1, 2		口腔保健衛生学専攻 資料保管室1	歯学部会議室 第1, 2ゼミナール室	
6	歯学部演習室1～11 基礎実習室	先端材料評価学	宇尾		第3ゼミナール室 インプラント・ 口腔再生医学	
5	スキルスラボⅡ	医歯学教育システム 研究センター 生命倫理研究センター	荒木	女性研究者支援室	インプラント・ 口腔再生医学 口腔病理学	春日井
4				学術国際部 国際交流センター	口腔病理学	山口
3				財務施設部	全部床義歯補綴学 歯学部	水口 下山 石川
2				総務部総務企画課	監査法人室 全部床義歯補綴学	
1				学務企画課 学生支援課 学務課歯学系教務掛 入試課 総務部人事課		

## 2号館の配置

階	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他
4	第1~4 実習室			
3	第1~3 講義室			学生ロッカー室 1,2 リフレッシュルーム
2	第4 講義室	教員実習室 計測室 セミナー室 セミナー室準備室	教授室 准教授室 講師室 口腔保健工学専攻・ 歯科技工士学校教員室 非常勤講師室 う蝕制御学分野准教授室	歯学部物品管理室 教養部連絡室 口腔保健工学専攻・ 歯科技工士学校事務室
1				和同会事務室 実験施設

## 7号館の配置

階	講義室・実習室	その他
7~11		動物実験施設
6	第4 ゼミナル室	D2~D5 男子更衣・控室 D2~D5 女子更衣・控室 リフレッシュルーム 変電室
5	第3 実習室 示説室	
4	第4 講義室 第2 実習室 歯科麻酔歯科放射線実習室	D6 男子更衣・控室 D6 女子更衣・控室 D6 リフレッシュルーム
3	第1 実習室 示説室	
2	第2, 3 講義室	コピーマシン
1	第1 講義室	リフレッシュルーム 動物実験施設

## 10号館の配置

階	研究室	教授室等
7	歯周病学	和泉
6	顎顔面外科学	原田
5	高齢者歯科学 疼痛制御学	嶋田
4	疼痛制御学 麻酔・生体管理学 スポーツ医歯学	深山
3	スポーツ医歯学 障害者歯科学 歯科医療行動科学	上野 篠塚 俣木
2	顎顔面補綴学 歯科心身医学 総合診療歯科学	谷口 豊福

## M&Dタワーの配置

	階	研究室	教授室等		階	研究室	教授室等
北側	8	硬組織構造生物学 分子情報伝達学	高野	南側	8	細菌感染制御学	中川
	7	硬組織病態生化学 歯学教育開発学 口腔放射線腫瘍学 硬組織再生学	森尾 三浦(雅) 篠村		7	硬組織薬理学 認知神経生物学	大谷 泰羅
	6	分子発生学 ナノメディシン(DNP) 分子細胞機能学	井関 森田		6	医療経済学 顎顔面解剖学 分子免疫学	川渕 柴田 東
階		講堂・図書館			研究室・その他		教授室等
4	図書館				情報検索室 図書館情報メディア機構 教育メディア開発学		
							木下
2	鈴木章夫記念講堂				共用講義室1, 2		

## 歯科棟の配置

(歯科棟北)

階	分野	教授室等	外来等	医局	その他
12	咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	小野 森山			歯科衛生保健部
11	部分床義歯補綴学 摂食機能保存学 小児歯科学	三浦(宏)			
10	う蝕制御学 歯髄生物学 健康推進歯学	田上 須田 川口			歯科衛生保健部
9	顎口腔外科学 口腔放射線医学 顎関節咬合学	小村 倉林 木野			
8			病棟		医員当直室(男)
7			歯科麻酔外来 インプラント外来 手術室	麻酔・生体管理学	医員当直室(女) 滅菌材料室
6	口腔病態診断科学		口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来 言語治療外来 検査部	顎口腔外科学 顎顔面外科学 検査部	
5			むし歯外来 歯周病外来	う蝕制御学 歯髄生物学 歯周病学	総合技工室
4			第1総合診療室 第2総合診療室 顎関節治療部 歯科心身外来 快眠歯科外来		ヘッドライター室 器材準備室
3			義歯外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 クリーンルーム歯科外来 技工部	部分床義歯補綴学 全部床義歯補綴学 摂食機能保存学 高齢者歯科学	大会議室 小会議室 看護部 研修医技工室
2	歯学教育システム 評価学		小児歯科外来 矯正歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	小児歯科学 咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	歯学部総務課 歯学部国際交流室
1			歯科総合診療部 スペシャルケア外来 息さわやか外来 薬剤部	歯科総合診療部	電算室 防災センター 器材薬剤センター 和同会売店 研修医控室
B1			歯科放射線外来		低温室 ボイラ室
B2					食堂

(歯科棟南: 外来事務棟)

平成 25 年度 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 専門科目授業計画表

第 1 学年

学部専門科目		期間
前 期	「口腔保健工学概論 A」	H25.4.16(火) ~ H25.5.7(火) 4 週 毎週火曜日
	「早期臨床体験実習」	H25.9.25(水) ~ H25.9.27(金)
後 期	「早期臨床体験実習」 「技術倫理」 「人体の構造と機能 I」 「形態認識造形学」 「形態認識造形学実習 A」 「メディア情報学基礎」 「口腔保健材料力学 A」	H25.10.1(火) ~ H26.1.28(火) 16 週 每週火曜日
	定期試験	H26.2.4(火)

第 2 学年

区分		期間
前 期	春 季 休 業	H25.4.1 (月) ~ H25.4.4 (木)
	専 門 課 程 ガ イ ダ ン ス	H25.4.5 (金)
	入 学 式 (編 入 学 生 のみ)	H25.4.8 (月)
	授 業 1 7 週	H25.4.8 (月) ~ H25.7.31 (水)
	夏 季 休 業	H25.8.1 (木) ~ H25.9.6 (金)
	補 講 お よ び 定 期 試 験	H25.9.9 (月) ~ H25.9.27 (金)
後 期	授 業 1 2 週	H25.9.30 (月) ~ H25.12.20 (金)
	創 立 記 念 日	H25.10.12 (土)
	お 茶 の 水 祭 準 備 の た め 休 講	H25.10.18 (金)
	お 茶 の 水 祭	H25.10.19 (土) ~ H25.10.20 (日)
	特 別 研 修 期 間	H25.11.25 (月) ~ H25.11.29 (金)
	冬 季 休 業	H25.12.24 (火) ~ H26.1.3 (金)
	授 業 6 週	H26.1.6 (月) ~ H26.2.12 (水)
	補 講 お よ び 定 期 試 験	H26.2.13 (木) ~ H26.3.5 (水)
春 季 休 業		H26.3.6 (木) ~ H26.3.31 (月)

\*特別研修は専門必修科目の一貫として実施する。

\*全学共通科目履修編入生のみ H25.4.9 および H25.4.12 の教養部ガイダンス・オリエンテーションに出席する。

第3学年

区分				期間
前期	春	季	休	業
	専門課程	ガイダンス		H25.4.1 (月) ~ H25.4.4 (木)
	授業	1	7	週
	夏	季	休	業
	補講	および	定期	試験
後期	授業	1	2	週
	創立記念日			H25.10.12 (土)
	解剖体追悼式			H25.10.17 (木) 午後予定
	お茶の水祭準備のため休講			H25.10.18 (金)
	お茶の水祭			H25.10.19 (土) ~ H25.10.20 (日)
	特別研修期間			H25.11.11 (月) ~ H25.11.14 (木)
	補講			H25.11.15 (金)
	冬	季	休	業
	授業	7	週	H25.12.24 (火) ~ H26.1.3 (金)
	補講	および	定期	試験
	春	季	休	業
				H26.3.20 (木) ~ H26.3.31 (月)

\*特別研修は専門必修科目の一貫として実施する。

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 教員連絡先一覧

講座名	分野名	氏名	メールアドレス
口腔保健基礎工学 講 座	口腔基礎科学	杉本 久美子	ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp
	口腔保健工学統合学	大木 明子	moki.mfoe@tmd.ac.jp
	口腔臨床科学	池田 正臣	ikeda.csoe@tmd.ac.jp
口腔保健機材工学 講 座	生体材料加工学	高橋 英和	takahashi.bmoe@tmd.ac.jp
		岩崎 直彦	iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp
	情報歯科医療工学	上條 真吾	s-kami.joh.itoe@tmd.ac.jp
口腔保健再建工学 講 座	口腔機能再建技工学	鈴木 哲也	suzuki.peoe@tmd.ac.jp
		土平 和秀	tsuchihira.peoe@tmd.ac.jp
		富川 紘一	fukawa.peoe@tmd.ac.jp
	歯冠修復技工学	安江 透	yasue.fpoe@tmd.ac.jp

# 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 平成25年度1年次専門科目授業時間割

前期

日時		8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40	は湯島地区
4/16	火	化学基礎-1 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	化学基礎-2 (澤野・宮園) OH第3講義室/歯学科演習室1・2	(12:00~ 抗体検査・保健管理センター) 13:20~14:50 口腔保健工学概論A-1 (大木・遠藤) 1号館7階 南学部演習室	15:00~16:30 口腔保健工学概論A-2 (口腔保健学科教員) 1号館7階 南学部演習室		
4/23	火	化学基礎-補習 (澤野)第4セミ室	化学基礎-3 (澤野・宮園)OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健工学概論A-3 (口腔保健学科教員) 1号館6階 歯学部演習室	口腔保健工学概論A-4 (口腔保健学科教員) 1号館6階 歯学部演習室		
4/30	火	化学基礎-補習 (澤野)第4セミ室	化学基礎-4 (澤野・宮園)OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健工学概論A-5 (口腔保健学科教員) 1号館6階 歯学部演習室	口腔保健工学概論A-6 (口腔保健学科教員) 1号館6階 歯学部演習室		
5/7	火	化学基礎-補習 (澤野)第4セミ室	化学基礎-5 (澤野・宮園)OH第3講義室/歯学科演習室1・2	口腔保健工学概論A-7 (口腔保健学科教員) 1号館7階 口腔保健衛生学生専攻第3講義	口腔保健工学概論A-8 (口腔保健学科教員) 1号館7階 口腔保健衛生学生専攻第3講義		
5/14	火	健診	健診	健診	教養総合講座 (全教員)5号館4階 特別講堂	教養総合講座 (全教員)5号館4階 特別講堂	
日時		9:10~10:40	10:50~12:20	13:10~14:40	14:50~16:20	16:30~18:00	
5/21	火	化学基礎-補習 (澤野)8 (澤野・勝又)8/9	化学基礎-6 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
5/28	火	化学基礎-補習 (澤野)8 (澤野・勝又)8/9	化学基礎-7 (澤野・勝又)8/9	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
6/4	火	化学基礎-8 (澤野・勝又)8/9	化学基礎-9 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
6/11	火	化学基礎-10 (澤野・勝又)8/9	化学基礎-10 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
6/18	火	化学基礎-11 (澤野・勝又)8/9	化学基礎-11 (澤野・勝又)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
6/25	火	化学基礎-12 (澤野・奈良)8/9	化学基礎-12 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
7/2	火	化学基礎-13 (澤野・奈良)8/9	化学基礎-13 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
7/9	火	化学基礎-14 (澤野・奈良)8/9	化学基礎-14 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
7/16	火	化学基礎-15 (澤野・奈良)8/9	化学基礎-15 (澤野・奈良)8/9		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
7/23	火				教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室	
7/30	火			月曜授業			

夏季休業 平成25年8月1日~9月6日

前期試験 平成25年9月10日~9月13日

9/17	火		教養総合講座 (全教員) 全教室				
9/24	火		教養総合講座 (全教員) 全教室				
9/25	水			早期臨床体験実習-1~15 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等) 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所			
9/26	木						
9/27	金						

後期

日時		8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40	
10/1	火	技術倫理-1 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-1 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室		早期臨床体験実習-16~18 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等) 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所		
10/8	火	技術倫理-2 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-2 (田畠)口腔保健工学専攻第2講義室		早期臨床体験実習-19~21 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等) 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所		
10/15	火	技術倫理-3 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-3 (田畠)口腔保健工学専攻第2講義室		早期臨床体験実習-22~23 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員) 口腔保健工学専攻第2講義室		
10/22	火	技術倫理-4 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-4 (田畠)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-1 (伊藤)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-1 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-2 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	
10/29	火	技術倫理-5 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-5 (田畠)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習-3 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-2 (伊藤)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-4 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	
11/5	火	技術倫理-6 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-6 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-1 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-1 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-5 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-6 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/12	火	技術倫理-7 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-7 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-2 (大谷)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-2 (大谷)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-3 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-7 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/19	火	技術倫理-8 (皆吉)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-8 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-3 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-3 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-8 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-8 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/26	火	口腔保健材料力学A-1 (岩崎)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-9 (木下)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-4 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-4 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-4 (伊藤)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習-10 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
12/3	火	口腔保健材料力学A-2 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-9 (杉本)口腔保健工学専攻第3講義室	人体の構造と機能 I-10 (杉本)口腔保健工学専攻第3講義室	人体の構造と機能 I-10 (杉本)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-11 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-12 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
12/10	火	口腔保健材料力学A-3 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-11 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-6 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-6 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-5 (伊藤)口腔保健工学専攻第3講義室	形態認識造形学実習-13 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
12/17	火	口腔保健材料力学A-4 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-12 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-7 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-7 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-14 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-15 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
1/7	火	口腔保健材料力学A-5 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-13 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	メイア情報学基礎-8 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	メイア情報学基礎-8 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学-6 (伊藤)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-16 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
1/14	火	口腔保健材料力学A-6 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-14 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習-17 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-17 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-7 (伊藤)口腔保健工学専攻第2講義室	
1/21	火	口腔保健材料力学A-7 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	人体の構造と機能 I-15 (杉本)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習-19 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-19 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学-20 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-21 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
1/28	火	口腔保健材料力学A-8 (高橋)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学-8 (伊藤)口腔保健工学専攻第2講義室	形態認識造形学実習-22 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-22 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-23 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	
2/4	火			専門科目試験			

春季休業 平成26年2月19日~3月28日

# 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 平成25年度2年次科目授業時間割

月曜日													火曜日							水曜日							木曜日							金曜日										
1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8					
1	4/1 - 4/5																																											
2	4/8 - 4/12	入学式	理工実習	人体 II	全床講義	全床実習		英 I	概論 B	人体 II							全床講義	全床実習	咬合		理工講義	理工実習																						
3	4/15 - 4/19	人体 II	理工講義	理工実習	人体 II	全床講義	全床実習	英 I	概論 B	感染							全床講義	全床実習			理工講義	理工実習																						
4	4/22 - 4/26	人体 II	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	英 I		感染							全床講義	全床実習	咬合		理工講義	理工実習																						
5	4/29 - 5/3	昭和の日		形態実習	全床講義	理工実習				補講							全床講義	全床実習	感染																									
6	5/6 - 5/10	振替休日		形態実習	全床講義	全床実習		英 I	概論 B	感染							全床講義	全床実習	咬合		理工講義	理工実習																						
7	5/13 - 5/17	人体 II	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	英 I	概論 B	感染							全床講義	全床実習	咬合		铸造講義	理工実習																						
8	5/20 - 5/24	人体 II	铸造講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	英 I	概論 B	ヘルプロ							全床講義	全床実習			铸造講義	铸造実習(1)																						
9	5/27 - 5/31	人体 II	铸造講義	铸造実習(1)	形態実習	全床講義	全床実習	英 I	概論 B	ヘルプロ							全床講義	全床実習			铸造講義	铸造実習(1)																						
10	6/3 - 6/7	人体 II		铸造実習(1)	形態実習	全床講義	全床実習	保存	英 I	ヘルプロ							全床講義	咬合	全床実習		铸造講義	铸造実習(1)																						
11	6/10 - 6/14	人体 II		铸造実習(1)	形態実習	全床講義	全床実習	保存		ヘルプロ							全床講義	咬合	全床実習		理工講義	理工実習																						
12	6/17 - 6/21	铸造実習(2)	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	保存		ヘルプロ							全床講義	全床実習			铸造講義	铸造実習(2)																						
13	6/24 - 6/28	人体 II	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	保存		ヘルプロ							部床講義	咬合	全床実習		理工講義	理工実習																						
14	7/1 - 7/5	人体 II	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	保存		ヘルプロ							部床講義	(全床 養生)	補講			補講																						
15	7/8 - 7/12	人体 II	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	全床実習	保存		ヘルプロ							部床講義	咬合	全床実習		理工講義	理工実習																						
16	7/15 - 7/19	海の日		形態実習	全床講義	部床実習	保存		ヘルプロ								部床講義	咬合	部床実習		理工講義	理工実習																						
17	7/22 - 7/26	人体 II	理工講義	理工実習	形態実習	全床講義	部床実習	保存	概論 B	ヘルプロ							部床講義	咬合	部床実習		理工講義	理工実習																						
18	7/29 - 8/2	人体 II		理工実習		理工実習				全床実習(救 命急救実習)							全床実習	大掃除																										
19	8/5 - 8/9																																											
20	8/12 - 8/16																																											
21	8/19 - 8/23																																											
22	8/26 - 8/30																																											
23	9/2 - 9/6																																											
24	9/9 - 9/13																																											
25	9/16 - 9/20	敬老の日																																										
26	9/23 - 9/27	振替休日																																										
27	9/30 - 10/4	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
28	10/7 - 10/11	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
29	10/14 - 10/18	体育の日		形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	休講 (お茶の水祭準備)																																	
30	10/21 - 10/25	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
31	10/28 - 11/1	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
32	11/4 - 11/8	振替休日		形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
33	11/11 - 11/15	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
34	11/18 - 11/22	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
35	11/25 - 11/29																																											
36	12/2 - 12/6	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
37	12/9 - 12/13	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
38	12/16 - 12/20	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
39	12/23 - 12/27	天皇誕生日																																										
40	12/30 - 1/3																																											
41	1/6 - 1/10	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
42	1/13 - 1/17	成人の日		形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	部床実習	プロデ	部床講義	概論 B																																	
43	1/20 - 1/24	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
44	1/27 - 1/31	人体 II	冠修実習	形態実習	部床実習	冠修講義	冠修実習	プロデ	部床実習	部床講義	概論 B																																	
45	2/3 - 2/7	人体 II	冠修実習		咬合実習			冠修講義	冠修実習	プロデ	咬合実習																																	
46	2/10 - 2/14	人体 II	冠修実習		建国記念の日			冠修講義	冠修実習	プロデ	咬合実習																																	
47	2/17 - 2/21																																											
48	2/24 - 2/28																																											
49	3/3 - 3/7																																											
50	3/10 - 3/14																																											

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 平成25年度3年次科目授業時間割

略称	科目No	正式名称	略称	科目No	正式名称	略称	科目No	正式名称
材料力学	9-2	口腔保健材料力学B	CAD/CAM	29	CAD/CAMシステム工学	発育口腔	38	発育口腔工学
材料力学実習	10	口腔保健材料力学実習	CAD/CAM実習	30	CAD/CAMシステム工学実習	小児歯科	39	小児歯科工学
英 II	12	科学英語 II	先進修復	31	先進修復工学実習	小児歯科実習	40	小児歯科工学実習
咬合実習	21	咬合学実習(2)	セラ加工	32	セラミック加工学	矯正歯科	41	矯正歯科工学
部床実習	23	有床義歯工学実習(3)	セラ加工実習	33	セラミック加工工学実習	矯正歯科実習	42	矯正歯科工学実習
欠損再建	25	欠損再建工学	口外	34	口腔外科工学	頸補綴	43	頸補綴工学
修冠講義	26-2	冠冠修復工学B	人間工学	35	人間工学デザイン論	頸補綴実習	44	頸補綴工学実習
冠修実習	27	冠修復工学実習(2)	ハイオデ	36	ハイオデデザイン論	口腔リハ	45	口腔リハビリテーション工学
キャリマネ	50	キャリアマネージメント	臨床実習	51	再建工学包括臨床実習A			

# 第1学年 履修科目

科目名	口腔保健工学概論
ユニット名	口腔保健工学概論A
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也・大木明子
授業担当者	遠藤圭子(口腔疾患予防学分野)、大木明子、口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健衛生学専攻 第3講義室、歯学部 演習室

口腔保健工学概論は、ユニット「口腔保健工学概論 A」および「口腔保健工学概論 B」(2年次)により構成される。本授業では、口腔保健衛生学専攻と合同の問題基盤型学習(PBL)を実施する。

### 学習目標(GIO)

自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習(PBL)や演習をとおして、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。

### 到達目標(SBOs)

1. 口腔保健の概要を説明する。
2. 保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明する。
3. 保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明する。
4. 保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明する。

### 授業計画 1学年前期・8回・必修1単位 (1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	16	オリエンテーション	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法(PBL テュートリアル)	1	遠藤、大木
2	4	16	シナリオ1	シナリオ提示、学習項目の検討	1-4	口腔保健 学科教員
3	4	23	学習項目の発表	グループディスカッション	1-4	"
4	4	23	シナリオ2	シナリオ提示、学習項目の検討	1-4	"
5	4	30	学習項目の発表	グループディスカッション	1-4	"
6	4	30	全体発表準備	全体発表項目、発表内容の検討	1-4	"
7,8	5	7	全体発表、まとめ	グループ課題発表・討論、まとめ	1-4	"

### 評価方法

- ・授業内レポート、グループディスカッションの状況、全体発表の内容で総合的に評価する。

- ・ユニット「口腔保健工学概論 B」(2 年次開講)の成績と合わせて科目「口腔保健工学概論」の評価を行う。

### **参考図書等**

授業中に配布する資料。

### **留意事項**

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### **担当教員のオフィスアワー**

鈴木哲也 教 授 随時 suzuki.peoe@tdm.ac.jp

遠藤圭子 准教授 随時 usagi.pvoh@tdm.ac.jp

大木明子 准教授 火 16:00-18:00 moki.mfoe@tdm.ac.jp

科目名	早期臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1学年前期・30時間・必修 1学年後期・15時間・必修 } 1単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	口腔保健工学専攻教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2講義室・第1実習室、歯学部附属病院、歯科技工所、歯科材料メーカー

### 学習目標(GIO)

今後の学習への強い動機を獲得するため、臨床の現場を体験することで歯科医学ならびに歯科医療の現状を認識するとともに、医療人としての基本的態度を修得する。また、歯科技工士に求められる資質は技工物をつくるだけではなく、人の健康の維持・増進に関わる職業であることを認識する。

### 到達目標(SBOS)

1. 歯科医療従事者に求められる基本的態度を身につける。
2. 歯科医療が人々の健康の維持増進に果たす社会的役割を認識する。
3. 歯科医療のなかでの歯科技工士の役割を認識する。
4. 歯科材料、器械の扱いを学ぶ。

### 授業計画

#### 1学年前期・15回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	9	25	オリエンテーション	実習についての講義、課題	1-3	鈴木、安江、池田
6-10	9	26	実習、資料室見学	ミニチュアの入れ歯製作 過去の技工物などの見学	4	安江、富川、岩崎
11-15	9	27	病院見学、歯科技工部見学	歯学部附属病院における治療および技工物製作現場の見学	1-3	鈴木、大木、上條

#### 1学年後期・8回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
16-18	10	1	歯科技工所見学	外部の歯科技工所における臨床現場の見学	3	池田

19-21	10	8	企業見学	歯科材料メーカーにおける体験実習	3,4	杉本、高橋、池田、富川
22,23	10	15	学習結果発表	見学、実習を通しての課題に対する学習結果発表	1-3	杉本、高橋、安江、池田、富川、岩崎

### 評価方法

出席、実習態度、提出物、学習結果発表、レポート等から総合的に評価する。

### 参考図書等

必要に応じ、適宜資料の配布を行う。

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp

科目名	技術倫理
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	皆吉淳平(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2講義室

**学習目標(GIO)**

人間の身体・生命にかかわる技術者として求められる「技術倫理」について理解し、洞察を深める。

**到達目標(SBOs)**

1. 技術倫理の特性についての概要を理解する。
2. 事故の社会的要因と技術との関係性について初步的な理解を得る。
3. 専門職論における「専門職」の要件について理解する。
4. 専門職にとっての倫理綱領が有する社会的意味について理解する。
5. 医療におけるインフォームド・コンセントの歴史的展開を理解する。
6. 医療におけるインフォームド・コンセントの哲学・倫理学的な議論の概略を理解する。
7. 技術者にもとめられる説明責任の倫理的・社会的な基礎づけを理解する。
8. 製造物責任の考え方、および、製造物責任法(PL法)の概要を理解する。
9. 健康被害を生じさせた事例から、法と社会・倫理との関係について理解する。
10. 知的財産権の考え方の概要を理解する。
11. 人々の健康・生命がかかる分野における知的財産権が孕む問題について理解する。
12. エンハンスマントと呼ばれる倫理的問題群について概要を理解する。
13. 医療技術の存在意義について、「願望実現医療」の事例から考察できるようになる。
14. 人間の身体・生命にかかわる技術について、倫理的・社会的に考える視点を習得する。

**授業計画 1学年後期・8回・必修1単位(1回の授業時間:90分)**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	1	技術倫理とは何か、なぜ必要か	チャレンジャー号爆発事故をめぐる技術・社会・倫理	1, 2	皆吉
2	10	8	プロフェッショナルとしての倫理	倫理綱領の社会的意味	3, 4	"
3	10	15	インフォームド・コンセントと説明責任(1)	医療におけるインフォームド・コンセント	5, 6	"
4	10	22	インフォームド・コンセントと説明責任(2)	技術者にとっての説明責任	7	"

5	10	29	製造物責任	カネミ油症事件をめぐる技術・社会・倫理	8, 9	皆吉
6	11	5	知的財産権と人々の健康	医薬品・医療機器の特許と社会	10, 11	"
7	11	12	人体改造の技術と倫理	エンハンストメント・願望実現医療と技術・倫理	12, 13	"
8	11	19	歯科技工と技術倫理	歯科技工士にとっての医療倫理・技術倫理と社会	14	"

### 評価方法

- ・レポートに、平常点(コメントペーパーの内容など)を加味して、総合的に評価する。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「JABEE対応 技術者倫理入門」小出泰士 丸善 2010
- ・「科学技術倫理を学ぶ人のために」新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二編 世界思想社 2005
- ・「生命倫理とは何か」市野川容孝編 平凡社 2002
- ・「命は誰のものか」香川知晶 ディスカヴァー携書 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2009
- ・「医療技術と器具の社会史」山中浩司 大阪大学出版会 2009
- ・その他、書籍や参考になるWebサイトなどは、適宜、紹介する。

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 隨時 [yasue.fpoe@tmd.ac.jp](mailto:yasue.fpoe@tmd.ac.jp)

科目名	形態認識造形学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	伊藤恵夫(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2講義室

**学習目標(GIO)**

口腔保健工学の基礎となる形態の認識と造形に関する知識を習得し、「観察力」、「認識力」、「造形力」を養う基盤とする。

**到達目標(SBOs)**

1. 形態認識造形学で学ぶ内容と、その理由・目的を理解し、説明する。
2. 形態を客観的に見るとはどういうことか、理論的背景を含めて理解する。
3. 形態の意味を読み取る力、すなわち認識力について理解する。
4. 自分の意図した形態を作る力、すなわち造形力について理解する。

**授業計画 1学年後期・8回・必修1単位(1回の授業時間:90分)**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	22	概論	概論	1	伊藤
2	10	29	観察力	見えるということ	2	"
3	11	12	"	「かたち」と「いろ」	2	"
4	11	26	認識力	「かたち」と「しくみ」	3	"
5	12	10	"	歯と系統進化	3	"
6	1	7	造形力	「線」と「面」	4	"
7	1	14	"	「面」と「立体」	4	"
8	1	28	まとめ	まとめ	1	"

**評価方法**

授業への積極的な参加状況、提出物、レポートを総合的に判断し、評価する。

**参考図書等**

必要に応じてプリントを配布する。

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

安江 透 講師 隨時 [yasue.fpoe@tmd.ac.jp](mailto:yasue.fpoe@tmd.ac.jp)

科目名	形態認識造形学実習
ユニット名	形態認識造形学実習A
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1学年後期・45時間・必修1単位
科目責任者・ユニット責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、富川紘一、伊藤恵夫(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4実習室

**学習目標(GIO)**

形態認識造形学で学ぶ理論的背景を基に、口腔保健工学の基本的技術力の基礎となる「観察力」、「認識力」、「造形力」を養い培う。

**到達目標(SBOS)**

1. 形態認識造形学実習で学ぶ内容と、その理由・目的を理解し、説明する。
2. 現時点での自分の理解力・表現力を知り、ステップアップのための方法を考える。
3. 自分の意図した形態を作ることができるよう、造形力を向上させる。
4. 形態を客観的に見る力、すなわち観察力の向上をはかる。
5. パースペクティブの概要を理解する。
6. 色の三要素の理論を理解し、実際に活用する。
7. その形態に適した色彩を考え、表現する力をつける。
8. これまでに学んだ内容を基礎に、総合的に表現する。

**授業計画 1学年後期・23回・必修1単位(1回の授業時間:90分)**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	22	概論	概論、自画像	1, 2	伊藤、安江、富川
2	10	22	表現と構成	幾何形体による構成	3	"
3,4	10	29	観察と表現 (平面)	プロポーション	2, 4	"
5	11	5	観察と表現 (立体)	幾何形体	2, 4	"
6	11	5	"	立体の見え方(パース)	2, 4, 5	"
7	11	12	線の観察	大顔面	2, 3	"
8,9	11	19	面の観察	アグリッパ	2, 3	"

10	11	26	面の観察	アグリッパ	2, 3	伊藤、安江、富川
11	12	3	色彩	色の三要素	6	"
12	12	3	"	色による表現	6, 7	"
13	12	10	"	"	6, 7	"
14	12	17	"	"	6, 7	"
15	12	17	明度の表現	グレースケールの作成	7	"
16	1	7	造形(平面)	描写(自画像)	8	"
17,18	1	14	"	"	8	"
19-21	1	21	造形(立体)	粘土による模刻	8	"
22	1	28	"	"	8	"
23	1	28	まとめ	まとめ	1	"

#### 評価方法

- ・毎回の提出物(作品)を総合的に判断し評価する。
- ・ユニット「形態認識造形学実習 B」(2 年次開講)と合わせて科目「形態認識造形学実習」の評価を行う。

#### 参考図書等

必要に応じてプリントを配布する。

#### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

#### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 隨時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp  
 富川 紘一 助教 隨時 fukawa.peoe@tdm.ac.jp

科目名	メディア情報学基礎
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	木下淳博・須永昌代(図書館情報メディア機構)、大谷啓一(硬組織薬理学分野)、佐々木好幸(う蝕制御学分野)、徳永伸一(教養部)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

- ・コンピューターによるメディア情報処理、コンテンツ作成の基礎を修得する。
- ・インターネットとコンピューターを利用した口腔保健活動および研究活動に必要な情報検索の方法を修得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 学内無線 LAN に各自持ち込み PC を接続する。
2. インターネットにおけるセキュリティ管理、著作権保護を実践する。
3. PC 上で静止画像・プレゼンテーションファイルを作成する。
4. PC 上で動画像を編集する。
5. インターネットからの情報を適切に収集し、吟味する。

**授業計画 1学年後期・8回・必修1単位(1回の授業時間:90分)**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	11	5	オリエンテーション	コース概説、無線 LAN 概要・扱い、各自持参パソコンの無線 LAN 接続、インターネットとセキュリティ、著作権、e-learning 基礎	1, 2	木下、徳永、須永、メディア情報掛
2	11	12	プレゼンテーション入門 (MS Power Point®) メディアコンテンツ作成 1	研究発表に必要なプレゼンテーション実習、静止画像処理	3	大谷、木下、須永、メディア情報掛
3	11	19	インターネット情報検索 1	インターネットからの情報の収集と吟味 1	5	佐々木
4	11	26	メディアコンテンツ作成 2	動画像処理	4	木下、須永、メディア情報掛
5	11	26	インターネット情報検索 2	インターネットからの情報の収集と吟味 2	5	佐々木

6	12	10	メディアコンテンツ作成 3	動画像処理	4	木下、須永、メディア情報掛
7	12	17	インターネット情報検索 3	課題発表	5	佐々木
8	1	7	まとめ	メディアコンテンツ作成(動画像)課題発表、ネットワーク上で試験	1-5	木下、佐々木、須永、メディア情報掛

### 評価方法

提出課題および第 8 回に行うネットワーク上での試験で総括的評価を行う。

### 留意事項

- ・入学時の案内・ガイダンス等で指定した推奨ノートパソコンに指定のソフト(Microsoft 社製 Power Point は必須)をインストールして持参すること。
- ・1、2、4、6、8 回の授業は、各自、ノート PC、USB フラッシュメモリーおよびステレオイヤホンを持参すること。

### 担当教員のオフィスアワー

木下淳博 教授 金 16:00-17:00 kinoshita.emdv@tdm.ac.jp

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp

科目名	口腔保健材料力学
ユニット名	口腔保健材料力学A
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者・ユニット責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2講義室

**学習目標(GIO)**

材料に引張、圧縮を加えたときに内部で生じる応力と変形について理解し、歯科で用いられている材料の特徴を説明する。

**到達目標(SBOs)**

1. 基本単位を説明し、長さを測定する。
2. 材料力学に必要な基礎知識を説明する。
3. 応力ーひずみ線図を説明する。
4. 引張、圧縮応力を受けた時の棒の変形を説明する。
5. 高分子材料の特徴を説明する。
6. 金属材料の特徴を説明する。
7. セラミック材料の特徴を説明する。
8. 複合材料の特徴を説明する。
9. 歯科材料の機械的性質の評価方法を説明する。

**授業計画 1学年後期・8回・必修1単位(1回の授業時間:90分)**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	11	26	基本単位と基本的な測定機器	SI 単位、長さの測定	1	岩崎
2	12	3	材料力学概説	材料力学を学ぶ目的、力のモーメントのつり合い	2, 4	高橋
3	12	10	材料力学で使う数式	よく使う数学公式、荷重の種類	2, 4	"
4	12	17	応力ひずみ線図	応力とひずみの定義、応力ひずみ線図	3, 4	"
5	1	7	許容応力と安全率 高分子材料概論	許容応力と安全率の考え方 歯科で用いられている高分子材料	2, 4	"

6	1	14	金属材料概論 セラミック材料概論 複合材料概論	歯科で用いられている金属材料概論 歯科で用いられているセラミック材料 歯科で用いられている複合材料	6-8	高橋
7	1	21	歯科材料の特性比較 歯科材料の基礎的性質	歯質と歯科材料の特性の比較 歯科材料の機械的資質	5-9	"
8	1	28	機械的性質の評価方法	粘弾性、物理的性質	1, 9	"

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・ユニット「口腔保健材料力学B」(3年次開講)の成績と合わせて科目「口腔保健材料力学」の評価を行う。

### 教科書

- ・「スタンダード歯科理工学 一生体材料と歯科材料」第4版 鈴木一臣、榎本貢三、岡崎正之、中島 裕、西山典宏編 学研書院、2011

### 参考図書等

- ・「コア歯科理工学」 小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「JSME テキストシリーズ 材料力学」 日本機械学会編 丸善 2007
- ・「JSME テキストシリーズ 演習:材料力学」 日本機械学会編 丸善 2007
- ・「よくわかる材料力学」 辻 智章 講談社 2002

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

高橋英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tdm.ac.jp  
 岩崎直彦 助教 月、火 16:00-18:00 iwasaki.bmoe@tdm.ac.jp

科目名	人体の構造と機能Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1学年後期・30時間・必修2単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、田畠 純(硬組織構造生物学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2講義室

**学習目標(GIO)**

人体の構造と機能ならびにその分子的基盤を学ぶことにより、生命が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで理解する。さらに、機能の異常と疾患、使用される薬物について概要を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素とその働きを説明する。
2. 人体の構成ならびに構造、機能の概要を理解する。
3. 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能の概要を理解する。
4. 骨格系の構成と骨の代謝について理解する。
5. 全身の筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解する。
6. 末梢神経系および中枢神経系の構造と機能、ならびに関連疾患について説明する。
7. 運動器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
8. 循環器系の構造と機能、およびその疾患について理解する。
9. 血液成分と働きおよびその疾患について理解する。
10. 呼吸器系の構造と機能、およびその疾患について説明する。
11. 感覚器系の構造と機能、およびその疾患について説明する。
12. 泌尿器系の構造と機能、尿の生成機序とその疾患について説明する。
13. 生体の恒常性維持機構(体温調節、体液組成および体液量の調節)を概説する。
14. 内分泌系の構造、機能、およびホルモンの作用とその異常について説明する。
15. 様々な疾患に使用される薬物について概要を理解する。

**授業計画 1学年後期・15回・必修2単位(1回の授業時間:90分)**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	1	はじめに、細胞の構造と機能	人体の構成、細胞小器官、細胞の基本的機能	1, 2	杉本
2	10	8	組織学概論 1	四大組織(上皮組織、支持組織)	3	田畠
3	10	15	組織学概論 2	四大組織(筋組織、神経組織)	3	"
4	10	22	解剖学概論 1	骨学、筋学	4, 5	"

5	10	29	解剖学概論 2	脈管学、神経学	6, 8	田畠
6	11	5	神経系の構成と機能 1	神経系の構成、末梢神経系、自律神経系の機能、興奮伝導のメカニズム	6	杉本
7	11	12	神経系の構成と機能 2	中枢神経系、神経伝導路、反射のしくみ、神経系の疾患と薬物	6	"
8	11	19	筋の機能	筋の種類、筋の収縮と代謝、骨格筋収縮のタイプ、筋電図	5	"
9	12	3	運動器系	運動(反射と随意運動)、運動器系の疾患	7, 15	"
10	12	3	循環器系の構造と機能	心臓と血管の構造と働き、心電図、心機能の調節、心臓疾患	8, 15	"
11	12	10	血液	血液の成分と働き、血液の疾患	9, 15	"
12	12	17	呼吸器系	呼吸器の構成、外呼吸と内呼吸、呼吸運動、ガス交換、呼吸の調節、肺の疾患と薬物	10, 15	"
13	1	7	感覚器系の構造と機能	感覚器の構造、感覚の基本的性質、体性・内臓感覚、特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚)	11	"
14	1	14	排泄 体温調節	尿の生成と排尿 体熱の産生と放散、体温調節、発熱と解熱	12, 13, 15	"
15	1	21	内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌異常と薬物	14, 15	"

### 評価方法

- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂 2003
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院 2000
- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院 1999
- ・「標準生理学」第7版 小澤灝司・福田康一郎監修 医学書院 2009
- ・「基礎歯科生理学」 第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版 2008
- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会監修

医歯薬出版 2010

・「新解剖学」改訂第6版 加藤征監修 日本医事新報社 2011

・「新組織学」改訂第5版 野上晴雄監修 日本医事新報社 2011

#### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

#### 担当教員のオフィスアワー

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

田畠 純 准教授 隨時 tabatamj.bss@tmd.ac.jp

# 第2学年 履修科目

科目名	口腔保健工学概論
ユニット番号	口腔保健工学概論 B
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期後期・15時間・必修1単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、池田正臣、岩崎直彦、上條真吾、山下勘二・高橋勝美(非常勤講師)、J. Moross(国際交流センター特任助教)、国際交流センター非常勤講師
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室(前期)・第1講義室(後期)

口腔保健工学概論は、ユニット「口腔保健工学概論 A」(1年次)および「口腔保健工学概論 B」(2年次)により構成される。

### 学習目標(GIO)

歯科技工士の専門性を考えるための基本的事項に接し、併せて海外の歯科技工関係者との交流を通じて専門課程へのモチベーションを高める。そのために必要とされる英語力の向上に努める。

### 到達目標(SBOs)

1. 歯科保存学を構成する分野を説明する。
2. 歯科技工士を職業とする団体の活動を知る。
3. 歯科補綴学の意義と診療内容を説明する。
4. 歯科技工材料に関する最新のトピックを知る。
5. 歯学部附属病院における歯科技工部の役割と現状を知る。
6. 歯科技工士の可能性について先達の意見を聞く。
7. 海外の歯科技工士について知る。
8. 英語で自分の環境、立場を説明する。

### 授業計画

#### 2学年前期・7時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	10	歯科保存学概論	歯科保存学を構成する分野の概要	1	池田
2	4	17	歯科技工士会、同窓会の役割	歯科技工士会、同窓会の役割と意義、活動内容	2	山下
3	5	8	歯科補綴学概論	歯科補綴学を構成する分野の概要	3	鈴木
4	5	15	歯科技工と材料	歯科材料の最新のトピック	4	岩崎
5	5	22	歯科技工部の現状	附属病院歯科技工部の役割と現状	5	上條

6	5	29	歯科技工士の可能性	資格にとらわれない歯科技工士の可能性	6, 7	高橋(勝)
7	7	24	Choose presentation topics	Talk about topics and what needs to be done during the summer.	7, 8	J. Moross

## 2学年後期・8時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
8	10	4	English conversation & presentation check	Practice talking about life at TMDU, culture in Japan. Check progress on presentation script, PP slides.	8	国際交流センター教員
9	10	11	"	"	8	"
10	10	25	"	"	8	"
11	11	1	"	"	8	"
12	11	8	"	"	8	"
13,14	11	15	Presentation practice	Presentation with critique by instructors and students. Practice Q&A.	8	"
15	11	22	Formal presentation	Presentation with Q&A by audience	8	"

## 評価方法

レポートおよび毎回の課題への取り組みに出席状況、授業態度を加味し、総合的に評価を行う。

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

## 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 隨時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

池田正臣 講師 隨時 ikeda.cscoe@tmd.ac.jp

岩崎直彦 助教 隨時 iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp

上條真吾 助教 隨時 s-kamijoh.itoe@tmd.ac.jp

科目名	感染予防
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	東 みゆき(分子免疫学分野)、齋藤良一・加藤優子(生体防御検査学分野)、砂川光宏(クリーンルーム歯科外来)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

病原微生物による口腔および全身の感染症について学び、病因と感染成立の機序を理解する。さらに、感染に対する対処法、特に、薬剤による消毒・滅菌の実際から感染予防について理解する。

**到達目標(SBOs)**

- 細菌、ウィルス等による感染について、微生物の病原性を構造、機能、遺伝的因子から理解する。
- 感染への生体防御機構を微生物の特性に基づき理解する。
- 感染の予防と治療の基礎について理解する。
- 口腔に存在する微生物の特徴と感染症について理解する。
- 感染予防の方法と限界について理解する。

**授業計画 2学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	17	微生物と疾病	微生物の特徴、病原性	1	齋藤
2, 3	4	17	病原性微生物	細菌、ウィルス、真菌	1	"
4-6	4	24	病原微生物と感染症	グラム陽性菌・陰性菌と感染症、 ウィルス感染症	1, 2	加藤
7-9	5	2	感染と免疫、化学療法	宿主防御機構と免疫、化学療法 薬	2, 3	東
10	5	8	口腔の微生物	口腔細菌叢、プラークほか	4	砂川
11, 12	5	8	口腔感染症	う蝕、歯髓炎、歯周病、その他	4	"
13	5	15	滅菌、消毒法	洗浄、消毒、滅菌	3, 5	"
14, 15	5	15	感染対策	歯科における感染対策	1, 3, 5	"

**評価方法**

出席状況、授業態度および筆記試験を総合的に評価し、合否を判定する。

## **参考図書**

- ・「口腔微生物学・免疫学(第3版)」 浜田茂幸ほか編 医歯薬出版 2010
- ・歯科衛生士教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011
- ・「歯科医院の感染管理 常識非常識」 前田芳信監修 クインテッセンス 2009

## **留意事項**

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

## **授業担当者のオフィスアワー**

- 東 みゆき 教授 随時(必ず事前に連絡を入れること) miyuki.mim@tdm.ac.jp  
斎藤良一 准教授 随時(必ず事前に連絡を入れること) r-saito.mi@tdm.ac.jp  
加藤優子 助教 随時(必ず事前に連絡を入れること) k.yuko.mi@tdm.ac.jp  
砂川光宏 准教授 随時(必ず事前に連絡を入れること) m.sunakawa.endo@ tdm.ac.jp  
杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp

科目名	形態認識造形学実習
ユニット名	形態認識造形学実習 B
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2学年前後期・45時間・必修 1単位
科目責任者・ユニット責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、池田正臣、富川紘一
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1実習室

形態認識造形学実習は、ユニット「形態認識造形学実習 A」(1年次)および「形態認識造形学実習 B」(2年次)により構成される。

### 学習目標(GIO)

口腔保健工学の実践に必要な天然歯牙の形態を把握して彫刻再現できる技術力を養い、数々の修復物製作における基本的造形能力を身につける。

### 到達目標(SBOs)

1. 模刻による歯型彫刻法を習得する。
2. 歯冠から歯根への移行形態の重要性を説明する。
3. 上顎切歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
4. 上下顎犬歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
5. 上下顎小臼歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
6. 天然歯の形態的特徴を記憶し、短時間の彫刻で精密に再現する。

### 授業計画

#### 2学年前期・15時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1, 2	4	23	1.2 倍歯模刻	上顎中切歯	1-3	安江、池田、富川
3, 4	4	30	"	"	"	"
5, 6	5	7	"	"	"	"
7, 8	5	14	"	上顎側切歯	"	"
9, 10	5	21	"	"	"	"
11, 12	5	28	"	上顎犬歯	1, 2, 4	"
13, 14	6	4	"	下顎犬歯	"	"
15	6	11	"	上顎第一小臼歯	1, 2, 5	"

## 2 学年後期・30 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
16-17	10	1	天然歯模刻	上顎中切歯	6	安江、富川
18-19	10	8	"	上顎側切歯	6	"
20-21	10	15	"	上顎犬歯	6	"
22-23	10	22	"	下顎中切歯	6	"
24-25	10	29	"	下顎側切歯	6	"
26-27	11	5	"	下顎犬歯	6	"
28-29	11	12	"	上顎第一小臼歯	6	"
30-31	11	19	"	上顎第二小臼歯	6	"
32-33	12	3	"	上顎第一大臼歯	6	"
34-35	12	10	"	上顎第二大臼歯	6	"
36-37	12	17	"	下顎第一小臼歯	6	"
38-39	1	7	"	下顎第二小臼歯	6	"
40-41	1	14	"	下顎第一大臼歯	6	"
42-43	1	21	"	下顎第二大臼歯	6	"
44-45	1	28	予備日	予備日	6	"

### 評価方法

- ・彫刻作品、カービングコンテストの成績、出席状況および授業態度によって総括的評価を行う。
- ・形態認識造形学実習の成績は、ユニット「形態認識造形学実習 A」および「形態認識造形学実習 B」を総合して評価する。

### 参考図書等

- ・「歯の解剖学」第 22 版 藤田恒太郎 原著、桐野 忠大 共著 金原出版 1995
- ・新歯科技工士教本「歯の解剖学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2009
- ・歯科技工別冊「審美歯科治療のための天然歯フォトギャラリー」Jan Hajtó 著 大畠一成編 医歯薬出版 2009

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 隨時 yasue.fpoe@tmr.ac.jp

池田正臣 講師 隨時 ikeda.csse@tmr.ac.jp

富川紘一 助教 隨時 fukawa.peoe@tmr.ac.jp

科目名	コミュニケーション論
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	池田正臣、口腔保健工学専攻教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

コミュニケーション学の基礎的な事項を学び、国際社会における多様な分野と関わる際の考え方と対応について修得する。また、医療従事者と患者間のより良い関係を構築するコミュニケーション法を身につける。

**到達目標(SBOs)**

1. コミュニケーションの構築について説明する。
2. 日本におけるコミュニケーションを説明する。
3. 文化・習慣の違いによるコミュニケーションのあり方について説明する。
4. 意志・情報の伝達に必要なコミュニケーションスキルについて説明する。

**授業計画 2学年後期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	11	25	コミュニケーション概論	コミュニケーションとは、非言語 コミュニケーションと言語コミュニケーション	1-4	池田、 口腔保健 工学専攻 教員
3, 4	11	26	組織とコミュニケーション	組織における人間関係とコミュニケーションの役割	"	"
5, 6	11	27	歯科医療とコミュニケーション	歯科医療におけるコミュニケーションの重要性、チーム医療と患者とのコミュニケーション	"	"
7, 8	11	28	国際社会におけるコミュニケーション	外国語教育とコミュニケーション、国内外の文化・習慣の違いによるコミュニケーションのあり方	"	"
9-11	11	29	"	"	"	"
12-15	12	6	研修報告会	研修の報告・発表	"	"

## **評価方法**

- ・提出レポート、研修発表で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・海外特別研修は本授業の 11 時間分として認定する。
- ・研修の授業に参加できない場合は、放送大学の受講をもって単位を認める。

## **参考図書等**

- ・「人を動かす」新装版 デール・カーネギー著 創元社 1999
- ・「歯科医のための医療コーチング入門—スタッフ・患者さんの行動力を引き出す」桑田美香著 砂書房 2005
- ・「伝える力」池上彰著 PHP ビジネス新書 2007
- ・「特別講義 コミュニケーション学」藤巻幸夫著 実業之日本社 2010
- ・「コミュニケーション 100 の法則」伊藤守著 ディスクヴァー・トゥエンティワン 1994

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp

科目名	科学英語 I
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	大木明子
授業担当者	鶴田 潤(歯学教育開発学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

歯科界で使われる英語について、基本的な知識を理解する。日常習っている歯科技工関連の専門用語を、英語で自由に表現(読む、聞く、書く、話す)できるように学習する。義歯などの実例を呈示しながら、日本語、英語の同時記憶を目指す。

**到達目標(SBOS)**

1. 英語で、歯科診療の概要を説明する。
2. 英語で、歯／口腔の解剖学的な構造を説明する。
3. 英語で、歯科治療に使われる材料を説明する。
4. 英語で、歯科補綴装置を説明する。
5. 英語で、簡単なコミュニケーションを行う。

**授業計画 2学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	10	歯科診療と歯科技工	歯科診療、歯科診療チーム、歯科技工の重要性	1	鶴田
3, 4	4	17	歯科治療の基礎	各科名称、治療法	1	"
5, 6	4	24	歯科治療の基礎	補綴装置を扱う治療法	1, 4	"
7, 8	5	8	歯／口腔解剖の基礎	歯／口腔解剖、名称、方向表現、歯式	2	"
9, 10	5	15	歯科生体材料	歯科生体材料の名称	3	"
11, 12	5	22	歯科補綴装置	歯科補綴装置の目的、名称、製作方法	4	"
13, 14	5	29	歯科治療の流れ	コミュニケーション演習、課題レポート実施	1-5	"
15	6	5	まとめ	まとめ	1-5	"

## **評価方法**

毎回小テストを実施する(多肢選択問題)。課題レポートを最終回に実施する。授業態度、出席状況を加味して総合的に評価し合否を判定する。

## **参考図書等**

- ・「丸ごと覚える・歯科臨床英会話フレーズ集—治療内容別フレーズ 670 と基本用語 280」 クインテッセンス出版 1997
- ・「Dr.佐藤とりチャードの臨床で使える歯科英会話」 クインテッセンス出版 2010
- ・「新歯科技工士教本 歯科英語」 医歯薬出版株式会社 2006

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning(WebClass)へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

- 鶴田 潤 講師 水 16:00-18:00 turuedev@tmd.ac.jp  
大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	ヘルスプロモーション
授業形態	講義、PBL テュートリアル
開講時期・時間数・単位	2学年前期・30時間・必修2単位
科目責任者	杉本久美子、大木明子
授業担当者	杉本久美子、大木明子、寺岡加代(口腔健康教育学分野)、口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室、歯学部 演習室(PBL テュートリアル) 口腔保健工学専攻 第2-4講義室

**学習目標(GIO)**

ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、活動のプロセスを学び、口腔保健の専門家のヘルスプロモーションにおける役割を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. ヘルスプロモーションの概要を説明する。
2. WHO の健康戦略を説明する。
3. ヘルスプロモーションの展開過程(計画・実施・評価)を説明する。
4. 保健行動の理論とモデルを説明する。
5. 健康保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明する。
6. 人々の健康における問題を自ら発見し、解決する能力を習得する。
7. 健康に関連するデータの集計と統計処理の基本的方法を理解する。

**授業計画 2学年前期・30時間・必修2単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	5	22	オリエンテーション PBL ガイダンス	ヘルスプロモーション概要、WHO の健康戦略 PBL の学習目標、学習方法について	1, 2, 5	寺岡 大木
3	5	22	セッション1	シナリオ1	6	口腔保健 学科教員
4-6	5	29	セッション2	シナリオ1の学習結果発表・討論 再問題提示	6	"
7-9	6	5	セッション3	シナリオ1の学習結果発表・討論 シナリオ2	6	"
10-12	6	12	セッション4	シナリオ2の学習結果発表・討論、全体 発表の準備	6	"

13, 14	6	19	全体発表	各班の学習結果発表・討論	6	口腔保健 学科教員
15	6	19	保健行動の理論・ ヘルスプロモーションの役割	保健行動の理論とモデル、口腔保健政策におけるヘルスプロモーションの役割	3, 4, 5	寺岡
16-18	6	26	セッション5	シナリオ3	6	口腔保健 工学専攻 教員
19-21	7	3	セッション6 まとめ	シナリオ3の学習結果発表・討論、再問題提示	6	"
22-24	7	10	セッション7	シナリオ3の再学習、結果発表、討論、 まとめ	6	"
25-27	7	17	データの入力と集計	MS Excel®を用いた疫学データ・アンケートデータの入力・集計、グラフの作成	7	"
28-30	7	24	データの統計処理	MS Excel®を用いたデータの統計分析、課題	7	"

### 評価方法

- ・PBL: セッションごとにチューターによる形成的評価を行う。
- ・データの入力と集計、統計処理は課題を評価する。
- ・出席状況、授業態度、発表内容、レポートを総合的に評価し合否を判定する。

### 参考図書等

- ・「実践 ヘルスプロモーション」 LW.グリーン、MW.クロイター著 神馬征峰訳 医学書院
- ・「健康教育・ヘルスプロモーションの評価」 武藤孝司、福渡靖著 篠原出版
- ・「やさしく学ぶ統計学 Excelによるアンケート処理」 石村貞夫、加藤千恵子、劉晨著 東京図書 2009
- ・「Excelによる統計入門-Excel2007 対応版」 繩田和満著 朝倉書店 2007

### 留意事項

- ・1～15回の授業は口腔保健衛生学専攻と合同授業を行う。(1号館7階 口腔保健学科第3講義室および1号館6階 歯学部演習室)
- ・PBL テュートリアルブックをよく読んで、グランドルールを厳守すること。
- ・16～24回は口腔保健工学専攻のみでPBLを行う。(2号館3階 口腔保健工学専攻第2、3講義室)
- ・25～30回はデータ入力、集計、統計を行う。(2号館2階 口腔保健工学専攻第4講義室)
- ・事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 科目責任者のオフィスアワー

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tdm.ac.jp

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・30時間 2学年後期・45時間 } 必修7単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、安江透、富川紘一、田畠 純(硬組織構造生物学分野)、寺島達夫(顎顔面解剖学分野)、坂本裕次郎(口腔保健衛生基礎学分野)、土橋なつみ・松川紗都(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室(前期)・第1講義室(後期)、口腔保健工学専攻 第4実習室、医学部解剖実習室

**学習目標(GIO)**

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能およびその発生と成長の過程について学ぶとともに、顎・顔面・口腔領域の疾患について学び、口腔と全身の構造と機能の関連について理解する。

**到達目標(SBOS)**

1. 歯の形態、構成成分と機能およびその疾患について説明する。
2. 歯の発生、成長過程と関連疾患について理解する。
3. 歯周組織の形態、構成成分と機能およびその疾患について説明する。
4. 歯周組織の発生、成長過程と関連疾患について理解する。
5. 口腔諸器官の構造、構成分子と機能および発生と成長について説明する。
6. 口腔領域の体性感覚に関わる構造と機能、ならびに疾患について理解する。
7. 頭頸部の主要な骨の形態、発生と成長およびその異常について説明する。
8. 頭頸部の主要な筋の形態と機能を説明する。
9. 頭頸部の主な神経とその働きを説明する。
10. 口腔領域に分布する脈管系を理解する。
11. 咀嚼運動のしくみを理解する。
12. 顎反射のしくみとその役割について理解する。
13. 噫下・吸引・嘔吐のしくみと関連疾患について説明する。
14. 唾液腺の構造と分泌機構および唾液の成分と作用、ならびに関連疾患について理解する。
15. 胃から腸における消化と吸収のメカニズムについて理解する。
16. 味覚・嗅覚に関わる構造と機能、ならびに疾患について説明する。
17. 発声・構音のしくみを説明する。
18. 口腔と全身の構造と機能の関連について理解する。

**授業計画**

2学年前期・30時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	9	歯の形態 1	歯の定義、歯種と名称、表記法など	1	田畠
3, 4	4	10	歯の形態 2	方向用語、部位用語	1	"
5, 6	4	15	歯の形態 3	上下左右の鑑別	1	"
7, 8	4	16	永久歯の歯型彫刻	切歯・犬歯の歯型彫刻	1	安江、富川
9, 10	4	22	永久歯の形態 1	切歯、犬歯	1	寺島
11, 12	5	13	永久歯の形態 2	小臼歯	1	"
13, 14	5	20	永久歯の形態 3	大臼歯	1	"
15, 16	5	27	永久歯の歯型彫刻	小臼歯・大臼歯の歯型彫刻	1	安江、富川
17, 18	6	3	乳歯の形態 1	乳歯の特色、乳切歯	2	寺島
19, 20	6	10	乳歯の形態 2	乳犬歯、乳臼歯	2	"
21, 22	6	24	歯の発生	歯の発生、歯の異常	2	田畠
23, 24	7	1	歯の組織	エナメル質、象牙質	1	"
25, 26	7	8	歯の構成成分、歯の機能	歯の構成成分、歯髄の働き、歯の感覚	1	杉本
27, 28	7	22	歯の周囲組織	セメント質、歯槽骨	2	田畠
29	7	29	永久歯歯型彫刻	切歯・犬歯の歯型彫刻	1	安江、富川
30	7	29	まとめ	歯の形態と機能のまとめ	1, 2	杉本

## 2 学年後期・45 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
31-33	9	30	歯周組織	歯周組織と加齢変化	3, 4	田畠
34-36	10	7	口腔と口腔付近の組織	口腔前庭(口唇、頬、歯肉)、固有口腔(口蓋、口腔底、舌)、咽頭、喉頭	5	"
37, 38	10	21	歯周組織の機能	歯周組織の構成成分と働き、歯根膜の感覚	3, 18	杉本
39	10	21	口腔の感覚	口腔粘膜の感覚と受容器	6, 18	"
40	10	28	"	"	6, 18	"
41, 42	10	28	頭蓋の骨	頭蓋骨、口腔を構成する骨、頭蓋の全景	7	坂本

43, 44	11	11	頭頸部の筋	顔面筋(表情筋)、咀嚼筋、舌筋、舌骨筋群(舌骨上筋群、舌骨下筋群)、頸部の筋	8	坂本
45	11	11	顎関節	顎関節の構造と機能	7, 8	"
46, 47	11	18	頭頸部の骨と筋肉	頭頸部の骨と筋肉の観察	7, 8	"
48	11	18	頭頸部の神経	脳神経、頭頸部に分泌する脊髄神経、自律神経	9	"
49	12	2	"	"	9	"
50, 51	12	2	口腔付近に分布する脈管系	動脈系、静脈系、リンパ系	10	"
52-54	12	9	顔面と口腔の発生	鰓弓の形成、顔面・口唇・口蓋・鼻腔の形成、舌・腺の形成、癒合不全による先天異常	5	田畠
55, 56	12	16	咬合と咀嚼・吸綴	下顎の運動、顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸綴	11, 12, 18	杉本
57	12	16	"	咀嚼筋筋電図測定、プレスケールによる咬合バランス測定	11, 12, 18	杉本、土橋
58, 59	1	6	嚥下と嘔吐	嚥下・吸引・嘔吐のしくみと関連疾患	13, 18	杉本
60	1	6	嚥下機能評価	嚥下機能評価の実際: RSST、水飲みテストなど	13, 18	杉本、土橋、松川
61, 62	1	20	唾液	唾液腺、唾液の分泌機構、唾液の性状および成分と機能、唾液と疾患	14, 18	杉本
63	1	20	"	唾液量、唾液の性状と成分の測定	14, 18	杉本、土橋、松川
64, 65	1	27	消化と吸收	胃・小腸・大腸における消化と吸収、排便、消化器系の疾患と薬物	15	杉本
66	1	27	味覚	味覚のメカニズム	16, 18	"
67, 68	1	30	味覚・嗅覚	嗅覚のメカニズム、味覚・嗅覚検査	16, 18	杉本、土橋
69	1	30	発声	発声のしくみ、声の生成、言語音の生成、歯・口腔の病態と発音	17, 18	杉本
70-72	2	3	人体解剖の見学 1	人体解剖の見学	18	坂本
73-75	2	10	人体解剖の見学 2	頭頸部解剖の見学	18	"

## **評価方法**

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・前期と後期終了後に行う試験、それぞれに合格しなければならない。
- ・最終的評価は前期と後期の成績を総合して行う。

## **参考図書等**

- ・「基礎歯科生理学」 第5版 森本俊文・山田好秋編 医歯薬出版 2008
- ・新歯科技工士教本「歯の解剖学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2009
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 2011
- ・「歯牙解剖 歯型彫刻」 織田正豊ほか クインテッセンス出版 1986
- ・「歯の解剖学入門」 赤井三千男編 医歯薬出版 1994
- ・「口腔の発生と組織」 第2版 相山薦夫ほか 南山堂 1998
- ・「口腔組織・発生学」 脇田稔ほか 医歯薬出版 2006
- ・「新解剖学」 改訂第6版 加藤征監修 日本医事新報社 2011
- ・「新組織学」 改訂第5版 野上晴雄監修 日本医事新報社 2011

## **留意事項**

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

- 杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp  
田畠 純 准教授 随時 tabatamj.bss@tdm.ac.jp  
寺島達夫 准教授 随時(事前に連絡を取ること) t.terashima.mfa@tdm.ac.jp  
坂本裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tdm.ac.jp  
安江 透 講師 随時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp  
富川紘一 助教 随時 fukawa.peoe@tdm.ac.jp

科目名	口腔保健理工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・45時間・必修3単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦、宇尾基弘(先端材料評価学分野)、本郷敏雄(先端材料評価学分野)、原田直子(う蝕制御学分野)、宮崎 隆(昭和大学)、中島 裕(明海大学)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

歯科技工で必要な歯科材料および器械の知識を修得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 模型用材料の組成と特徴を説明する。
2. 印象材の組成と特徴を説明する。
3. 印象材と模型材の関係を説明する。
4. 歯科用原型材料の種類、用途、特徴を説明する。
5. レジン材料の成形法と特徴を説明する。
6. レジンの種類と組成を説明する。
7. レジン重合時の寸法変化と適合性を説明する。
8. 審美修復で必要な色彩に関する知識を説明する。
9. 硬質レジンの特徴を説明する。
10. 歯科用合金の種類、特徴を説明する。
11. 陶材の種類と成分を説明する。
12. セラミックスの加工法を説明する。
13. 加工硬化と熱処理を説明する。
14. 切削と研磨の原理を説明する。
15. 成形修復材料の特徴を説明する。
16. 接着の機序と接着剤の成分を説明する。
17. 歯科用インプラント材料の特徴を説明する。
18. 補綴物の安定性を説明する。
19. 歯科材料の安全性を説明する。

**授業計画 2学年前期・45時間・必修3単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	4	12	合金の特徴	歯科用合金の種類、特徴	10	高橋
4	4	12	加工硬化	加工硬化の原理	13	"

5	4	15	熱処理	熱処理の原理と処理方法	13	高橋
6-8	4	19	接 着	接着の機序と接着剤	15	"
9, 10	4	22	模型材と石膏	模型材の種類、石膏の種類	1	"
11, 12	4	26	石 膏	硬化機序、硬化膨張、硬化時間	1	"
13	4	30	石 膏	圧縮強さ、硬化に与える因子	1	"
14	5	10	印 象	印象材の種類、特徴	2	"
15, 16	5	10	印 象	ハイドロコロイド印象材、ゴム質印象材	2	"
17	5	13	印象と模型材	非弾性印象材、石膏と印象材の相互作用	2	"
18, 19	6	14	CAD/CAM の基礎	歯科用 CAD/CAM の基礎	12, 14	宮崎
20	6	14	成形修復材料	成形修復材料の種類と特徴	15	高橋
21	6	17	高分子概論	高分子の特徴、種類	6	"
22-23	6	21	加熱重合レジン	加熱重合レジンの成形法と特徴	5-7	"
24-25	6	21	加熱重合レジン	加熱重合レジンの寸法変化	7	"
26	6	24	常温重合レジン	常温重合レジンの成形法と特徴	5-7	"
27-28	6	28	硬質レジン	硬質レジンの摩耗性、コンポジットレジンとの比較	5, 6, 9	"
29	7	1	色彩に関する知識	表色系、視感比色法	8	"
30-32	7	8	セラミックスの基礎	セラミックスの特徴	11	宇尾
33-35	7	12	セラミックスの加工	セラミックスの加工	12	高橋
36, 37	7	19	セラミックスの応用	オールセラミックス	12	中嶌
38	7	19	インプラント用材料	歯科用インプラント用材料の種類と特徴	17	高橋
39, 40	7	22	補綴物の安全性	補綴物の安全性	18	本郷
41, 42	7	23	生体材料の安全性	薬事法と歯科材料	19	原田、 高橋
43-45	7	27	生体材料の安全性	生体材料の安全性	19	本郷

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 教科書

「スタンダード歯科理工学 一生体材料と歯科材料一」第5版 鈴木一臣、榎本貢三、岡崎正之、中嶌 裕、西

山典宏編 学研書院 2013

#### **参考図書等**

- ・「コア歯科理工学」 小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊・榎本貢三・小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」 宮崎 隆・中島 裕・河合達志・小田 豊編 医歯薬出版 2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版 2009
- ・新歯科技工士教本「歯科理工学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2011

#### **留意事項**

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

#### **担当教員のオフィスアワー**

高橋英和 教授 あらかじメールにて面談時間を相談のこと takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健理工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2学年前期・90時間・必修2単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦、中野文夫・竹内理恵子(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室、第1実習室、第4実習室 口腔保健学科 臨床基礎実習室

**学習目標(GIO)**

歯科技工で使用する歯科材料の性質を適切に測定する。

**到達目標(SBOs)**

1. ワイヤの引張試験を行う。
2. 金属材料の硬さを測定する。
3. 各種材料の熱膨張を測定する。
4. 金属の加工硬化と再結晶、時効硬化を測定する。
5. 石膏の硬化時間、温度変化、硬化膨張を測定する。
6. 各種印象材で制作した模型の寸法精度と細線再現性を測定する。
7. 成形修復用材料を適切に取り扱う。
8. 旋盤・ボール盤・フライス盤で加工する。
9. 歯科用レジンの重合時の発熱と寸法変化を測定する。
10. 硬質レジンの光照射量と強さの関係を測定する。
11. 歯科用セラミックスの焼成時の寸法変化と透明性を測定する。
12. 歯科材料メーカーを見学し、技工用材料の製造過程を理解する。

**授業計画 2学年前期・90時間・必修2単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	4	8	引張試験	ワイヤの引張試験、材料試験での特性値	1	高橋、岩崎
5-7	4	12	硬さ試験	硬さ測定、加工による硬さの変化	2	高橋、岩崎、中野
8-11	4	15	熱膨張	各種歯科材料の加熱による寸法変化	3	高橋、岩崎
12-15	4	19	鍛造	炭素鋼の鍛造、焼入れ、焼戻し	4	高橋、岩崎、中野
16-18	4	22	模型材	エポキシ樹脂の支台歯模型製作	6	高橋、岩崎

19-23	4	26	*石 膏	石膏の硬化時間、硬化膨張、発熱	5	高橋、岩崎、中野
24-27	4	30	*石 膏	練和溶液が石膏硬化に及ぼす影響 圧縮試験片の製作	5	高橋、岩崎
28-31	5	10	*印 象	ハイドロコロイド印象材と模型	6	高橋、岩崎、中野
32-35	5	13	印 象	複印象と複模型	6	高橋、岩崎
36-39	5	17	*印 象 石 膏	ゴム質印象材と模型 石膏の圧縮試験	6 5	高橋、岩崎、中野
40-43	6	10	切削加工の基礎	切削機械の種類・使用法	8	高橋、岩崎
44-47	6	14	*成形修復材料	常温重合レジン、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメント、各種合着用セメント	7	高橋、岩崎、中野
48-51	6	17	切削加工の基礎	曲げ試験片作製用金型の作製 旋盤加工	8	高橋、岩崎
52-53	6	21	切削加工の基礎	曲げ試験片作製用金型の作製 フライス盤加工	8	高橋、岩崎
54-57	6	24	加熱重合レジン	餅状期の観察、パターン作製、埋没	9	高橋、岩崎 竹内
58-62	6	28	加熱重合レジン	レジン填入、重合時の発熱測定	9	"
63-64	7	1	加熱重合レジン	割り出し、重合体の寸法測定	9	"
65-66	7	1	硬質レジン	光照射量と硬質レジンの強さ	10	高橋、岩崎
67-68	7	8	セラミックス	セラミックスの焼成収縮測定	10	岩崎
69-73	7	19	セラミックス	セラミックスの焼成収縮測定 曲げ試験片の製作	11	高橋、岩崎、中野
74, 75	7	22	セラミックス	曲げ試験片の研磨	11	高橋、岩崎
76, 77	7	26	セラミックス	セラミックスの曲げ試験	11	"
78-83	7	29	歯科材料の製作	歯科メーカー見学(トクヤマデンタル)	12	"
84-90	7	30	まとめ	口腔保健歯科理工学のまとめ	1-12	高橋

\*:印象、石膏、成形修復材料の実習のうち、口腔保健衛生学専攻の学生と共同で行う実習

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

## **教科書**

「スタンダード歯科理工学 一生体材料と歯科材料」第5版 梶本貢三・岡崎正之・中島 裕・西山典宏・宮崎 隆・米山隆之 編 学研書院 2013

## **参考図書等**

- ・「コア歯科理工学」 小倉英夫・高橋英和・宮崎 隆・小田 豊・梶本貢三・小園凱夫 編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」 宮崎 隆・中島 裕・河合達志・小田 豊 編 医歯薬出版 2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会 編 医歯薬出版 2009
- ・新歯科技工士教本「歯科理工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2011

## **留意事項**

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

高橋英和 教授 メールにてあらかじめ面談時間を相談のこと takahashi.bmoe@tdm.ac.jp

岩崎直彦 助教 メールにてあらかじめ面談時間を相談のこと iwasaki.bmoe @tdm.ac.jp

科目名	精密鋳造学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

歯科精密鋳造の原理と注意点を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 鋳造用合金の特徴を説明する。
2. 鋳造用原型の素材と性質を説明する。
3. 埋没材の成分と特徴を説明する。
4. 金属の融解法を説明する。
5. 鋳造機の特徴を説明する。
6. 鋳造欠陥を説明する。
7. 鋳造体の寸法変化を説明する。
8. 金属の接合を説明できる。

**授業計画 2学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	5	17	鋳造用合金	鋳造概論、鋳造用合金の特徴	1	高橋
4	5	20	ワックス	歯科用原型材料の種類、用途、特徴	2	"
5-7	5	24	鋳造用埋没材	鋳造用埋没材の組成と特徴	3	"
8, 9	5	27	金属の融解	金属融解の熱源	4	"
10	5	31	金属の融解	金属融解の雰囲気	4	"
11	5	31	鋳造機の特徴	鋳込み方法、融解法との組合せ	5	"
12	6	7	鋳造欠陥・鋳造精度	鋳造欠陥の種類と原因、鋳造精度に及ぼす因子	6, 7	"
13	6	7	接合	埋没ろう付け、自在ろう付け	8	"
14	6	10	接合	レーザー溶接、鋳接	8	"
15	6	21	鋳造のまとめ	歯科精密鋳造のまとめ	1-8	"

## **評価方法**

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

## **教科書**

- ・「スタンダード歯科理工学 —生体材料と歯科材料—」第5版 鈴木一臣・榎本貢三・岡崎正之・中島 裕・西山 典宏編 学研書院 2013

## **参考図書等**

- ・「コア歯科理工学」小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」宮崎 隆、中島 裕、河合達志、小田 豊編 医歯薬出版 2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版 2009
- ・新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2011

## **留意事項**

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

高橋英和 教授 あらかじめメールにて面談時間を相談のこと takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

科目名	精密鋳造学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2学年前期・45時間・必修1単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦、安江透、富川紘一、竹内理恵子・中野文夫(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室・第1実習室・第4実習室

精密鋳造学実習は、精密鋳造学実習(1)および(2)により構成される。

### 精密鋳造学実習(1)

#### 学習目標(GIO)

歯科精密鋳造で使用する歯科材料を適切に扱え、鋳造手順を習得する。

#### 到達目標(SBOs)

1. 鋳造用原型を製作する。
2. 鋳造用原型の寸法変化を測定する。
3. 埋没材の硬化膨張を測定する。
4. 埋没材の熱膨張を測定する。
5. 歯科用合金を鋳造する。
6. 型ごと埋没法で鋳造する。
7. 鋳造体の寸法変化を測定する。
8. 歯科鋳造用金属材料製作工業を見学して製造過程を理解する。

#### 授業計画 2学年前期・30時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	5	20	ワックスの変形	ワックスの応力緩和による変形測定 冷却による寸法変化測定	2	高橋、岩崎
5-7	5	24	埋没材の硬化膨張	石膏系埋没材硬化時の寸法測定	3	"
8-10	5	27	埋没材の硬化膨張	リン酸塩系埋没材硬化時の寸法測定	3	"
11-15	5	31	埋没材の熱膨張	埋没材加熱時の寸法変化測定	4	"
16-17	6	3	ワックスパターン作製 埋没	ワックスパターンの製作、埋没	1, 5	岩崎、竹内
18-20	6	3	型ごと埋没	複模型の製作、ワックスアップ、埋没	1, 6	"
21-25	6	7	鋳造	鋳造、割り出し、寸法測定	1, 6, 7	"

26-30	7	12	工場見学	歯科鋳造用金属材料製作工業を見 学して製造過程を理解する	8	高橋、岩崎、 中野
-------	---	----	------	---------------------------------	---	--------------

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・精密鋳造学実習(2)の成績と合わせて精密鋳造学実習の最終判定を行う。

### 教科書

- ・「スタンダード歯科理工学 —生体材料と歯科材料—」第5版 鈴木一臣・榎本貢三・岡崎正之・中島 裕・西山典宏編 学研書院 2013

### 参考図書等

- ・「コア歯科理工学」小倉英夫・高橋英和・宮崎 隆・小田 豊・榎本貢三・小園凱夫 編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」宮崎 隆・中島 裕・河合達志・小田 豊 編 医歯薬出版 2007
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版 2009
- ・新歯科技工士教本「歯科理工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2011

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 あらかじメールにて面談時間を相談のこと takahashi.bmoe@tmd.ac.jp  
 岩崎 直彦 助教 あらかじメールにて面談時間を相談のこと iwasaki.bmoe @tmd.ac.jp

### 精密鋳造学実習(2)

#### 学習目標(GIO)

歯科精密鋳造に必要な石膏、ワックスを用いて所定の形に成形する。

#### 到達目標(SBOs)

1. 模刻による歯型彫刻法を習得する。
2. 歯冠から歯根への移行形態の重要性を説明する。
3. 上下顎臼歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
4. 上下顎大臼歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。

## 授業計画 2学年前期・15時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	6	11	1.2 倍歯模刻	上顎第一小臼歯	1-3	富川
2	6	17	"	"	"	安江、富川
3	6	17	"	上顎第二小臼歯	"	"
4, 5	6	18	"	"	"	富川
6, 7	6	25	"	下顎第一小臼歯	"	安江、富川
8, 9	7	2	"	下顎第二小臼歯	"	富川
10	7	9	"	"	"	"
11	7	9	"	上顎第一大臼歯	1, 2, 4	"
12, 13	7	16	"	"	"	"
14, 15	7	23	"	下顎第一大臼歯	"	安江、富川

### 評価方法

- ・彫刻作品、および平素の実習態度によって評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・精密铸造学実習の最終成績判定は精密铸造学実習(1)と精密铸造学実習(1)の評価を総合して行う。

### 教科書

「歯の解剖学」第22版 藤田恒太郎 原著、桐野 忠大 共著 金原出版 1995

### 参考図書等

- ・新歯科技工士教本「歯の解剖学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2009
- ・歯科技工別冊「審美歯科治療のための天然歯フォトギャラリー」Jan Hajtó著 大畠一成編 医歯薬出版 2009

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 月、火 16:00-18:00 yasue.fpoe@tmd.ac.jp  
 富川紘一 助教 月、火 16:00-18:00 fukawa.peoe@tmd.ac.jp

科目名	咬合学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、加藤 均(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

顎口腔系の形態と機能の特徴を理解し、それらを適切に回復、維持するための基礎となる咬合に関する学理と技法を習得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 顎口腔系の形態を説明する。
2. 顎口腔系の機能を説明する。
3. 下顎位の定義を説明し、その臨床的意義を理解する。
4. 下顎運動の種類と特徴を理解する。
5. 下顎運動範囲を説明する。
6. 咬頭嵌合位と偏心位における咬合接触を理解する。
7. 咬合干渉の種類と原因を説明する。
8. 咬合器の種類と特徴を理解する。
9. 咬合器の調節方法を理解する。
10. フェイスボウの意義を説明する。
11. 顎機能検査の種類と特徴を列挙する。
12. 顎機能障害の病因と病態を説明する。
13. 高齢者の口腔の特徴を理解する。
14. 口腔機能と全身との関わりを理解する。

**授業計画 2学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	11	顎口腔系の形態と機能	顎口腔系の概念、顎口腔系の形態的特徴と機能、基準点と基準面、咬合に関する平面	1, 2	加藤
3, 4	4	25	下顎位	各下顎位の定義 各下顎位の臨床的意義	3, 4	"
5, 6	5	9	下顎運動	下顎運動の種類と特徴、下顎運動範囲、切歯点の運動と顎頭運動の対応	4, 5	"

7, 8	5	16	歯の接触様式	咬合干渉の種類と原因、咬合干渉の種類と原因	6, 7	加藤
9	6	6	咬合器 1	咬合器の目的、咬合器の種類と特徴	8	鈴木
10	6	13	咬合器 2	咬合器の調節方法、フェイスボウの意義	9, 10	"
11	6	27	咬合検査と顎機能障害 1	咬合検査の目的・種類・特徴、	11	"
12	7	4	咬合検査と顎機能障害 2	顎機能障害への対応	12	"
13	7	11	高齢者の口腔	高齢者の口腔の特徴	13	"
14	7	18	口腔と全身	口腔機能と全身との関わり	14	"
15	7	25	総括	咬合に関わる要因の列挙	1-14	"

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・新歯科技工士教本「顎口腔機能学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2007
- ・「咬合学と歯科臨床～よく噛めて、噛み心地の良い咬合を目指して」 中野雅徳・坂東永一 編 医歯薬出版 2011

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tdm.ac.jp

科目名	咬合学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	咬合学実習(1) 2学年後期・15時間 咬合学実習(2) 3学年前期・30時間 } 必修1単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、安江透、富川紘一、上條真吾、堀部敬教・西尾政浩(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1実習室

咬合学実習は、咬合学実習(1)(2年次)および(2)(3年次)により構成される。

### 咬合学実習(1)

#### 学習目標(GIO)

顎口腔系の形態と機能の特徴を理解し、それらを適切に回復、維持するための基礎となる咬合に関する学理と技法を習得する。

#### 到達目標(SBOs)

- 下顎運動範囲を理解する。
- 下顎位の記録方法を説明する。
- 下顎位の記録装置を製作する。

#### 授業計画 2学年後期・15時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-6	1	28	ゴシックアーチトレー サーの製作	模型準備、ブロックアウト、リリー フ、常温重合レジン圧接	1-3	安江、富川、 上條、堀部、 西尾、鈴木
7-12	2	4	"	基礎床トリミング、下顎口ウ堤製作	"	"
13-15	2	6	"	描記板・描記針装着、完成	"	"

#### 評価方法

- 提出物(作品)を総合的に判断し評価する。
- 「咬合学実習」の成績判定は咬合学実習(1)および(2)の評価を総合して行う。

#### 参考図書等

- 「新歯科技工士教本顎口腔機能学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2007
- 「コンプリートデンチャー技術(第6版)」 細井紀雄 ほか編 医歯薬出版 2011

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

鈴木哲也 教授 隨時 suzuki.peoe@tdm.ac.jp

安江 透 講師 隨時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp

富川紘一 助教 隨時 fukawa.peoe@tdm.ac.jp

上條真吾 助教 隨時 s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp

科目名	有床義歯工学
ユニット名	全部床義歯工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・30時間・必修2単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、二川浩樹(広島大学)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

有床義歯工学は、ユニット「全部床義歯工学」(2年次)、「部分床義歯工学A」(2年次)および「部分床義歯工学B」(3年次)により構成される。

#### 学習目標(GIO)

無歯顎という特殊な口腔内状態を理解し、歯の喪失により生じた形態的、機能的变化を全部床義歯により、いかに回復し、維持するかを理解するとともに、全部床義歯製作に必要な知識と技法を習得する。

#### 到達目標(SBOs)

1. 無歯顎の特殊性を理解する。
2. 全部床義歯の製作の流れを診療室と技工室に分けて説明する。
3. 無歯顎の印象採得法とそれに必要な器材を説明する。
4. 無歯顎の咬合採得法とそれに必要な器材を説明する。
5. 人工歯の種類と特徴を列挙する。
6. 無歯顎の咬合理論を理解する。
7. 人工歯排列、歯肉形成法を理解し実施する。
8. 埋没と重合を理解し実施する。
9. 削合と研磨の重要性を理解し実施する。
10. 義歯装着の方法と義歯管理の重要性を理解する。
11. リライン、リベース、修理法を説明する。
12. 金属床義歯の製作法を説明する。
13. 特殊な全部床義歯を列挙する。

#### 授業計画 2学年前期・30時間・必修2単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	9	全部床義歯技工学概要	全部床義歯補綴の特徴、全部床義歯の構造、維持と安定、全部床義歯の製作の流れ	1, 2	鈴木
2, 3	4	11	無歯顎の印象採得 1	印象に必要な解剖学的基礎知識、予備印象採得と研究用模型、	3	"

4	4	16	無歯顎の印象採得 2	個人トレーの製作、精密印象採得、作業用模型	3	鈴木
5, 6	4	18	無歯顎の印象採得 3	特殊な印象法	3	"
7	4	23	無歯顎の咬合採得 1	無歯顎の対向関係、咬合床の製作 咬合平面、垂直的顎間関係記録法	4	"
8, 9	4	25	無歯顎の咬合採得 2	水平的顎間関係記録法、ゴシック アーチ描記法の意義、標示線	4	"
10	4	30	人工歯排列 1	審美的基礎知識、人工歯の種類	5	"
11	5	7	人工歯排列 2	前歯部人工歯の排列	5, 6	"
12, 13	5	9	人工歯排列 3	無歯顎の咬合理論	6	"
14	5	14	人工歯排列 4	臼歯部人工歯の排列	5-7	"
15, 16	5	16	歯肉形成	研磨面形態の意義、歯肉形成法、 ろう義歯の試適	7	"
17	5	21	埋没と重合	埋没、流ろう、重合	8	"
18, 19	5	23	削合	義歯の取り出しと咬合器再装着 選択削合の理論と実際、自動削合	9	"
20	5	28	研磨	研磨の意義と実際	9	"
21, 22	5	30	義歯の装着と管理	患者口腔内への装着、義歯管理の 必要性	10	"
23	6	4	リライン、リベース	使用材料の種類と特徴、リラインと リベース患者口腔内への装着	11	"
24, 25	6	6	修理	義歯修理法	11	"
26	6	11	金属床義歯	金属床の利点と欠点、铸造金属床 義歯の製作	12	"
27, 28	6	13	特殊な義歯	暫間義歯、即時義歯、治療義歯	13	"
29, 30	6	20	全部床義歯特論	全部床義歯に關わる基礎研究	1	二川

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 教科書

「無歯顎補綴治療学 第2版」 細井紀雄ほか編 医歯薬出版 2009年

### 参考図書

- ・新歯科技工士教本 「有床義歯技工学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2007

- ・「バウチャー無歯顎患者の補綴治療 原著第12版」田中久敏ほか監訳 医歯薬出版 2008
- ・「よい義歯 だめな義歯 鈴木哲也のコンプリートデンチャー17のルール」鈴木哲也 著 クインテッセンス出版 2011
- ・「コンプリートデンチャーの理論と臨床」早川 巍 著 クインテッセンス出版 1995

#### **留意事項**

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

#### **担当教員のオフィスアワー**

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

科目名	有床義歯工学
ユニット番号	部分床義歯工学 A
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・14時間 2学年後期・16時間 } 必修2単位
科目・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、若林則幸・笛木賢治(部分床義歯補綴学分野)、渡邊竜登美・大泉 誠・織田展輔(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室(前期)、第1講義室(後期)

有床義歯工学は、ユニット「全部床義歯工学」(2年次)、「部分床義歯工学 A」(2年次)および「部分床義歯工学 B」(3年次)により構成される。

#### 学習目標(GIO)

部分欠損患者の病因、病態を理解しその機能回復の手段となる部分床義歯の学理と技法を修得する。

#### 到達目標(SBOs)

1. 部分的な歯の欠損とその治療の目的と意義について理解する。
2. 歯の欠損に伴う顎口腔系の変化と治療への影響を理解する。
3. 欠損歯列の様々な分類法と臨床的意義を理解する。
4. 部分床義歯の構成要素を説明する。
5. 部分床義歯に加わる力への対応を理解する。義歯の構成要素を理解する。
6. 部分床義歯の支持の考え方を理解する。
7. 部分床義歯の把持の考え方を理解する。
8. 部分床義歯の維持の考え方を理解し、維持装置の種類、構造、機能などを修得する。
9. 部分床義歯の連結子と義歯床が果たす役割を理解する。
10. 部分床義歯の装着後の変化を生体と義歯に分けて説明する。
11. 部分床義歯製作のための前処置を列挙する。
12. 歯と粘膜により支持される部分床義歯の印象採得を理解する。
13. 部分床義歯の設計の基本原則と順序を理解する。
14. 部分床義歯の咬合採得の特徴を知り、術式を理解する。
15. 金属フレームワークの特徴と製作方法を理解する。
16. 人工歯排列の基本原則とろう義歯の試適時の診査項目を理解する。
17. 部分床義歯の埋没、重合方法を説明する。
18. 部分床義歯の破損や不適合と、それに対応する修理とリラインの技法を理解する。
19. 種々の状況における部分床義歯の役割について知り、治療法を理解する。

## 授業計画

### 2学年前期・14時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	6	18	欠損に由来する口腔の変化	歯の欠損による顎口腔系組織の障害	1, 2	鈴木
2	6	25	歯の欠損様式と義歯の分類	分類の必要性と臨床的意義、さまざまな分類法	3	"
3, 4	6	27	部分床義歯の構成要素、部分床義歯に加わる力	部分床義歯の構成要素、義歯に加わる力 支台歯と顎堤の負担能力	4, 5	"
5	7	2	支持 1	支持に関与する構成要素、レストの種類と機能	5	"
6	7	9	支持 2	義歯床による支持、	6	"
7, 8	7	11	把持、維持 1	把持に関与する構成要素、誘導面と隣接面板、部分床義歯の維持、支台装置の一般的所要条件、支台装置の種類、特徴	7, 8	"
9	7	16	維持 2	クラスプ、アタッチメント	7	"
10, 11	7	18	連結子と義歯床 1	連結装置の役割と所要条件、大連結子の種類、特徴	7, 8, 16	"
12	7	23	連結子と義歯床 2	義歯床の役割と要件	9	"
13	7	25	部分床義歯の装着後の変化	部分床義歯装着後の生体の変化と義歯の変化	9, 16	渡邊
14	7	25	総括	前期の講義を総括する	1-16	鈴木

### 2学年後期・16時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
15	10	4	前処置	広義の前処置と狭義の前処置	10	鈴木
16	10	11	印象採得	印象法の種類と特徴、印象材料、印象用トレー	10, 16	"
17	10	25	義歯の設計 1	義歯設計の原則	11	渡邊
18	11	1	義歯の設計 2	サベイングの目的と技法、支台歯選択と鉤間線	12	鈴木
19	11	8	咬合採得	歯列対向関係の違いと咬合採得の術式、咬合床の種類	13	織田
20	11	15	フレームワーク	フレームワークの構造と製作	14, 15	鈴木

21	11	22	有床義歯特論	部分床義歯の臨床症例	10, 20	大泉
22	12	13	人工歯排列とろう 義歯	人工歯の選択と排列、部分床義歯に付与する咬合、歯肉形成	16	鈴木
23	12	20	義歯の重合・研磨	埋没、流ろう、重合	17	"
24	1	10	義歯装着後の変化と対応	義歯装着後の口腔内の変化、人工歯の摩耗と対処法、義歯床の破損と対処法、リラインの適応と技法	18	"
25, 26	1	17	様々な部分床義歯の治療法とその特徴 1	コーヌスクローね義歯	19	若林
27, 28	1	24	様々な部分床義歯の治療法とその特徴 2	アタッチメント義歯、ノンクラスプデンチャー	19	笛木
29, 30	1	31	総括	部分床義歯補綴学を総括する	1-19	鈴木

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・科目「有床義歯工学」の最終成績判定は、ユニット「全部床義歯工学」、「部分床義歯工学 A」および「部分床義歯工学 B」の評価を総合して行う。

### 教科書

「スタンダード部分床義歯補綴学 第2版」藍 稔 編 学建書院 2010

### 参考図書

「パーシャルデンチャー・アトラス」大山喬史 編著 医歯薬出版 2005

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tdm.ac.jp

若林則幸 准教授 メールにて面談の日程を調整すること wakabayashi.rpro@tdm.ac.jp

笛木賢治 講師 メールにて面談の日程を調整すること kunfu.rpro@tdm.ac.jp

科目名	有床義歯工学実習
ユニット名	全部床義歯工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2学年前期・135時間・必修3単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、富川紘一、上條真吾、大泉 誠・得本佳代・堀部敬教・西尾政浩 (非常勤講師)、救命救急センター教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1実習室、

科目「有床義歯工学実習」は、ユニット「全部床義歯工学実習」、「部分床義歯工学実習 A」および「部分床義歯工学実習 B」より構成される。

#### 学習目標(GIO)

無歯頸の特徴を理解し、その損なわれた機能と審美を回復するために用いる全部床義歯の製作方法を理解し、技工室での製作を実施する。

#### 到達目標(SBOs)

1. スタディモデルからランドマークを読み取る。
2. リリーフとブロックアウトの意義を理解し実施する。
3. 印象採得の手順を説明し、そのための個人トレーを製作する。
4. ハンドピース・エンジンを使って切削作業を実施する。
5. 咬合採得の手順を説明し、咬合床を製作する。
6. 丁寧で正確なワックス操作を行う。
7. 模型を適切に咬合器に装着する。
8. 適切な人工歯配列をする。
9. 自然感と清掃性を考慮した歯肉形成を施すことができる。
10. 全部床義歯における咬合理論を理解し、適切な咬合を与えることができる。
11. 蝶義歯の埋没、流蝶、レジン填入および重合を適切に行うことができる。
12. 選択削合・自動削合を行う。
13. 義歯の形態修正、研磨を行う。

#### 授業計画 2学年前期・135時間・必修3単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	4	9	全部床義歯製作の概説、個人トレー製作 1	全部床義歯実習の概要説明、個人トレー外形線記入、ブロックアウト、リリーフ	1, 2	鈴木、富川 上條、大泉 堀部、西尾
6-9	4	11	個人トレー製作 2	オストロン圧接	3	"

10-14	4	16	個人トレー製作 3	トリミング、柄・フィンガーレスト付与	3, 4	鈴木、富川 上條、大泉 堀部、西尾
15-20	4	18	個人トレー製作 4	コンパウンド付与、完成	3	"
21-25	4	23	咬合床製作 1	外形線記入、ブロックアウト、リリーフ	5	"
26-29	4	25	咬合床製作 2	基礎床製作	5	"
30-34	5	7	咬合床製作 3	ロウ堤形成、完成	5, 6	"
35-38	5	9	咬合器装着	スピリットキャストの形成、咬合器装着	7	"
39-43	5	14	前歯部人工歯排列 1	前歯部人工歯排列(上顎①)	8	"
44-47	5	16	前歯部人工歯排列 2	前歯部人工歯排列(上顎②)	8	"
48-52	5	21	前歯部人工歯排列 3	前歯部人工歯排列(下顎)	8	"
53-58	5	23	臼歯部人工歯排列 1	臼歯部人工歯排列(下顎①)	8, 9	"
59-63	5	28	臼歯部人工歯排列 2	臼歯部人工歯排列(下顎②)	8, 10	"
64-69	5	30	臼歯部人工歯排列 3	臼歯部人工歯排列(上顎)	8, 10	"
70-74	6	4	歯肉形成 1	歯肉形成(上顎)	9	"
75-79	6	6	歯肉形成 2	歯肉形成(下顎)	9	"
80-84	6	11	蠶義歯埋没	一次埋没、二次埋没、三次埋没	11	鈴木、富川、 大泉、得本、 堀部、西尾
85-89	6	13	レジン填入・重合 1	流ろう・填入	11	"
90-94	6	18	レジン填入・重合 2	重合	11	"
95-100	6	20	模型の割り出し	模型の割り出し	11	鈴木、富川、 堀部、西尾
101-105	6	25	咬合器再装着	咬合器再装着	7	"
106-110	6	27	削合 1	選択削合	12	"
111-115	7	2	削合 2	自動削合	12	"
116-117	7	4	削合 3	咬合面修正		
118-122	7	9	形態修正・研磨	形態修正、荒研磨	13	"
123-127	7	11	形態修正・研磨	レーザ研磨、艶出し完成	13	"
128-135	7	31	総括 救急救命実習	全部床義歯製作過程を総括 救急救命の必要性と対応	1-13	鈴木、 救命救急セ ンター教員

## **評価方法**

- ・ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。
- ・出席状況、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・科目「有床義歯工学実習」の最終成績判定は、ユニット「全部床義歯工学実習」、「部分床義歯工学実習 A」および「部分床義歯工学実習 B」の評価を総合して行う。

## **参考図書等**

- ・「新歯科技工士教本 有床義歯技工学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2007
- ・「よい義歯だめな義歯 鈴木哲也のコンプリートデンチャー17 のルール」 鈴木哲也 著 クインテッセンス出版 2011
- ・「コンプリートデンチャー テクニック(第 6 版)」 細井紀雄 ほか編 医歯薬出版 2011

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

鈴木哲也	教授	随時	suzuki.peoe@tdm.ac.jp
富川紘一	助教	随時	fukawa.peoe@tdm.ac.jp
上條真吾	助教	随時	s-kamijoh.iteo@tdm.ac.jp

科目名	有床義歯工学実習
ユニット名	部分床義歯工学実習 A
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2学年前期・20時間 2学年後期・160時間 } 必修4単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也・安江透
授業担当者	安江透、富川紘一、堀部敬教・西尾政浩(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1実習室

有床義歯工学実習は下記の3つのユニットで構成される。

- 全部床義歯工学実習(2学年前期)
- 部分床義歯工学実習A(2学年前後期)
- 部分床義歯工学実習B(3学年前期)

#### 学習目標(GIO)

部分的歯牙欠損患者の口腔機能回復のための理論、および各種構成要素に用いる材料の諸性質を理解し、個々の臨床ケースに対応できる部分床義歯製作のための技法および技術を身につける。

#### 到達目標(SBOs)

1. 義歯の着脱方向を正確に設定して、的確にブロックアウトする。
2. 常温重合レジンの理工学的性質を理解して、的確に圧接する。
3. 歯科用エンジンおよびレーズを使用して、常温重合レジンを変形させることなく加工する。
4. 個人トレードが具備すべき形態および口腔内操作を考慮して、外形を形成する。
5. パラフィンワックスの理工学的特性を理解し、最適な堤を形成する。
6. スプリットキャストの意味を理解し、頸位を保持して正確に咬合器装着する。
7. 支台歯および粘膜を含む口腔内状況を考慮し、最適な支台装置の設計をする。
8. 外形線に沿って正確なワイヤークラスプの屈曲をする。
9. 直接法用光重合レジンパターンおよび鋳造用即時重合レジンで精密なパターンを採得する。
10. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、気泡を混入しない埋没をする。
11. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、的確な温度管理でリング焼却する。
12. 高周波鋳造機の特性を理解し、欠陥のない鋳造体を製作する。
13. 作業用模型への適合方法を理解し、的確なトリミングおよび研磨をする。
14. 正確な位置で仮着し、ろう付け用埋没材の理工学的特性を理解して正確に埋没する。
15. ろう付け用埋没材の理工学的特性を理解して、的確に加熱する。
16. ろう付けの基本原理を理解し、的確な炎管理でろう付けする。
17. 副印象用材料の理工学的特性および副印象システムの特徴を理解し、精密に印象採得する。
18. 副印象システムおよび耐火埋没材の理工学的特徴を理解し、精密な副模型を製作する。

19. クラスプ用ワックスパターンを用いて、正確なワックスアップをする。
20. 使用金属の理工学的特性を理解して、それぞれの支台装置に合った維持力を調整する。
21. 審美性に配慮して人工歯排列する。
22. 機能性に配慮して人工歯排列する。
23. 機能性および生体親和性に配慮して歯肉形成する。
24. パラフィンワックスを的確に操作し、滑沢な表面に仕上げる。
25. 支台装置の位置および人工歯排列状態を考慮して、的確なフラスコ埋没を立案し作業する。
26. 一次埋没した石膏表面を滑沢にし、強固な分離皮膜を生成する。
27. 気泡を入れることなく埋没する。
28. 埋没したフラスコの状態を考慮して、的確な温度管理で流ろうする。
29. 必要な範囲に十分な分離材を的確に塗布する。
30. 加熱重合レジンの理工学的特性を理解して、適正な混液比で予備重合する。
31. 加熱重合レジンの理工学的特性を理解して、予備重合したレジンを適正な圧力で填入する。
32. 適正な温度管理で加熱重合する。
33. 重合体および作業用模型に必要以上の外力を加えることなく、掘り出しする。
34. 早期接触部位を的確に判断して削合する。
35. 義歯を変形させることなく、作業用模型から取り外す。
36. 外形線に沿って的確に形態修正する。
37. 形態修正による切削傷を効率よく荒研磨する。
38. レーザ研磨の仕組みを理解し、効率よく艶出し研磨する。
39. バフを使用して鏡面研磨する。

### 授業計画

#### 2学年前期・20時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	7	16	部分床義歯製作の概説、個人トレー製作	部分床義歯実習の概要説明、個人トレー外形線記入 ブロックアウト、リリーフ	1	安江、富川
6-10	7	18	個人トレー製作	常温重合レジン圧接	2	"
11-15	7	23	"	常温重合レジン圧接、トリミング	2, 3	"
16-20	7	25	"	柄・フィンガーレスト付与、コンパウンド操作	4	"

#### 2学年後期・160時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
21-26	10	1	咬合床製作	外形線記入、ブロックアウト、リリーフ、常温重合レジン圧接	1, 2	安江、富川、西尾

27-32	10	3	咬合床製作	基礎床トリミング、ろう堤形成、咬合器装着	3, 5, 6	安江、富川、堀部
33-38	10	8	支台装置製作 (上顎)	サベイング、支台装置設計、ブロックアウト、ワイヤークラスプ屈曲	1, 7, 8	安江、富川、西尾
39-44	10	10	"	ワイヤークラスプ屈曲	8	安江、富川、堀部
45-50	10	15	"	鋳造レストパターン採得、埋没	9, 10	安江、富川、西尾
51-56	10	17	"	鋳造、研磨、ろう付け用埋没	11-14	安江、富川、堀部
57-62	10	22	"	ろう付け、研磨	13, 15, 16	安江、富川、西尾
63-68	10	24	予備日	予備日	13, 15, 16	安江、富川、堀部
69-74	10	29	支台装置製作 (下顎)	サベイング、支台装置設計、ブロックアウト、副印象準備	1, 7, 17, 18	安江、富川、西尾
75-80	10	31	"	副印象、耐火模型製作	17, 18	安江、富川、堀部
81-86	11	5	"	支台装置ワックスアップ	19	安江、富川、西尾
87-92	11	7	"	埋没	10	安江、富川、堀部
93-98	11	12	"	鋳造	11, 12	安江、富川、西尾
99-104	11	14	"	形態修正、適合、維持力調整	13, 20	安江、富川、堀部
105-110	11	19	"	研磨	13	安江、富川、西尾
111-116	12	3	予備日	予備日	13	"
117-122	12	5	人工歯排列	前歯部人工歯排列	21, 22	安江、富川、堀部
123-128	12	10	"	臼歯部人工歯排列	22	安江、富川、西尾
129-134	12	12	歯肉形成	歯肉形成	23, 24	安江、富川、堀部

135-140	12	17	埋没・重合	一次埋没	25, 26	安江、富川、西尾
141-146	12	19	"	二次・三次埋没、流ろう	27-29	安江、富川、堀部
147-152	1	7	"	填入、重合	30-32	安江、富川、西尾
153-157	1	9	咬合器再装着	掘り出し、咬合器再装着	33	安江、富川、堀部
158-163	1	14	削合	削合	34	安江、富川、西尾
164-167	1	16	研磨	形態修正、荒研磨	35-37	安江、富川、堀部
168-173	1	2	"	レーザ研磨	38	安江、富川、西尾
174-178	1	23	"	レーザ研磨、艶出し完成	38, 39	安江、富川、堀部
179-180	1	30	予備日	予備日	38, 39	安江、富川、西尾

### 評価方法

- 各製作ステップにおいてチェックを行い、進捗状況を評価する。また採点項目を設定し、完成した製作物を評価する。
- 出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- 科目「有床義歯工学実習」の最終成績判定は、ユニット「全部床義歯工学実習」、「部分床義歯工学実習 A」および「部分床義歯工学実習 B」の評価を総合して行う。

### 参考図書等

- 新歯科技工士教本「有床義歯技工学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2010
- 「パーシャルデンチャー・テクニック」 野首孝祠・井上 宏・細井紀雄・五十嵐順正 編 医歯薬出版 2006
- 「パーシャルデンチャー・アトラス」 大山喬史 編著 医歯薬出版 2005
- 「現代のパーシャルデンチャー -欠損補綴の臨床指針-」 野首孝祠・五十嵐順正 著 クインテッセンス出版 2008

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 随時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp  
富川紘一 助教 随時 fukawa.peoe@tdm.ac.jp

科目名	保存修復工学
授業形態	講義
開講時期・単位・時間数	2学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	池田正臣、二階堂徹(う蝕制御学分野)、和泉雄一・青木 章(歯周病学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

う蝕と歯の実質欠損病態およびその治療法、また、歯周病の原因、病態、治療法の概要について理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 保存修復の全体像を説明する。
2. う蝕の診断と処置が技工操作に与える影響について説明する。
3. 接着材料と技術について説明する。
4. 奢美修復材料について説明する。
5. 修復物の予後と2次う蝕の予防について説明する。
6. 歯周病の全体像を説明する。
7. 歯周病の診断と処置と歯科技工物との関係について説明する。

**授業計画 2学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	6	5	保存修復概論	硬組織疾患の診断と処置、窩洞の名称と分類、窩洞形態、不潔域、自浄作用	1	二階堂
2, 3	6	12	"	"	1	"
4, 5	6	19	う蝕	う蝕の診断と処置、切削装置	2	"
6, 7	6	26	接着性コンポジットレジン修復	材料、接着の基礎(歯質との接着)、臨床術式	3, 4	"
8, 9	7	3	審美性間接修復	材料、接着の基礎、レジンインレー、ポーセレンインレー、CAD/CAM、ラミネートベニア	3, 4	池田
10, 11	7	10	メインテナンス	う蝕予防、修復物の予後	3, 4, 5	二階堂
12, 13	7	17	歯周病学概論	歯周病の病因と病態	6	和泉
14, 15	7	24	歯周病	歯周病の治療法	7	青木

## **評価方法**

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

## **参考図書等**

- ・新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2007
- ・「接着歯学」 日本接着歯学会編 医歯薬出版 2002

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp

二階堂 徹 講師 月、火、金 16:30-18:30 nikaido.ope@tmd.ac.jp

和泉雄一 教授 メールにて面談の日程を調整すること y-izumi.peri@tmd.ac.jp

青木 章 講師 メールにて面談の日程を調整すること aoperi@tmd.ac.jp

科目名	歯冠修復工学
ユニット名	歯冠修復工学 A
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年後期・30時間・必修2単位
科目責任者・ユニット責任者	池田正臣
授業担当者	岡田大蔵(摂食機能保存学分野)、池田英治(歯髄生物学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

歯冠修復工学は、ユニット「歯冠修復工学 A」(2年次)および「歯冠修復工学 B」(3年次)により構成される。

### 学習目標(GLO)

各種の歯冠修復及び架工義歯に関する知識を修得する。

### 到達目標(SBOs)

1. 歯冠修復の適応、および意義を理解する。
2. う蝕治療の流れを理解する。
3. 歯冠修復物の特徴を理解する。
4. 築造の目的を説明する。
5. 仮封冠の目的を説明する。
6. 直接法と比較した間接法の特徴を理解する。
7. 歯冠修復に用いられる印象材について説明する。
8. 咬合探得の意義について説明する。
9. 作業用模型の種類と取り扱い方を理解する。
10. ろう型探得の方法について理解する。
11. 埋没、および鋳造の流れを説明する。
12. 研磨の手法を理解する。
13. 試適の手順を理解する。
14. 合着に用いるセメントについて理解する。
15. ブリッジの特徴とポンティック形態を説明する。

### 授業計画 2学年後期・30時間・必修2単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	10	2	歯冠修復工学総論	歯冠修復物の種類と目的	1-3	岡田
3, 4	10	9	全部鋳造冠	全部鋳造冠の特徴、支台形態	3	"
5, 6	10	16	歯内療法学概論 1	歯内療法学における病因、病態	2	池田(英)
7, 8	10	23	歯内療法学概論 2	歯内療法学における基本的な治療	2	"

9, 10	10	30	築造 仮封冠	築造の目的 仮封冠の目的	4, 5	岡田
11, 12	11	6	間接法 印象法	間接法の寸法精度、補償理論 印象に用いられる材料、必要性度、特徴	6, 7	"
13, 14	11	13	咬合採得 作業用模型	咬合採得に用いる材料と方法、注意点 各種模型の得失	8, 9	"
15, 16	11	20	ろう型採得	内面の適合精度、 外面形態：咬合面、隣接面、頬舌面	10	"
17, 18	12	4	埋没 鋳造	スプルーラインの植立、埋没操作 埋没材の変化、ワックスの焼却 鋳造用合金、鋳造体の熱処理	11	"
19, 20	12	11	研磨	研磨の目的、研磨器具の種類と特徴	12	"
21, 22	12	18	試適 合着	接触点の調整、咬合調整 セメントの種類、浮き上がり防止策	13, 14	"
23, 24	1	8	前装鋳造冠	前装冠の特徴、支台形態	2	"
25, 26	1	15	ポストクラウン 陶材ジャケット冠	ポストクラウンの特徴 陶材ジャケット冠の特徴、支台形態	2	"
27, 28	1	22	部分被覆冠	部分被覆冠の特徴、支台形態	2	"
29, 30	1	29	ブリッジ	ブリッジの構造と分類、特徴 ポンティックの形態、適応	2, 15	"

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・歯冠修復工学 A は 2 年後期に、歯冠修復工学 B は 3 年前期にそれぞれの試験を行い、全ての試験に合格しなければならない。
- ・科目「歯冠修復工学」の最終成績判定はユニット「歯冠修復工学 A」および「歯冠修復工学 B」の評価を総合して行う。

### 教科書

「クラウンブリッジ補綴学 第4版」石橋寛二ほか 編著 医歯薬出版 2009

### 参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会編集 医歯薬出版 2007
- ・「保存修復学 21」岩久正明・河野篤・千田彰・田上順二 監修 末永書店 1998

## **留意事項**

・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

池田 正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmr.ac.jp

岡田 大蔵 講師 メールにて面談の日程を調整すること d.okada.fpro@tmr.ac.jp

池田 英治 講師 メールにて面談の日程を調整すること hms-ikeda.endo@tmr.ac.jp

科目名	歯冠修復工学実習
ユニット名	歯冠修復工学実習 A
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2学年後期・225時間・必修5単位
科目責任者・ユニット責任者	池田正臣
授業担当者	池田正臣、安江透、富川紘一、上條真吾
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1実習室

歯冠修復工学実習は、ユニット「歯冠修復工学実習 A」(2年次)および「歯冠修復工学実習 B」(3年次)により構成される。

#### 学習目標(GIO)

各種の歯冠修復および架工義歯に関する知識及び技術について修得する。

#### 到達目標(SBOs)

1. 歯冠修復における治療の流れを理解し、技工作業を行う。
2. 技工器具を正しく使用する。
3. 模型の扱いを理解し、正確な操作を行う。
4. 最終補綴物の特徴を理解したうえで、コアを製作する。
5. 各種鋳造操作を行う。
6. 各種レジンの扱いを修得する。
7. 個歯トレーの利点を説明する。
8. 暫間被覆冠の特徴を説明する。
9. 適合精度の高いワックスパターンを製作する。
10. 辺縁形態、隣接面接触、咬合接触について適切な処理を行う。
11. 鏡面研磨を行う。
12. メタルインレーの特徴を理解する。
13. レジン前装冠の窓開けを行う。
14. 前装用レジンを操作する。
15. シェードティкиングについて説明する。
16. CR インレーを製作する。

#### 授業計画 2学年後期・225時間・必修5単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	9	30	実習の進め方	実習の進め方、実習室の使い方、技工器具・器機の使い方	1, 2	池田、安江、富川、上條

5-9	10	2	模型製作練習 1	印象への石膏注入、模型トリミング、ダウエルピン植立、二次石膏、三次石膏	3	池田、安江、上條、富川
10-15	10	4	模型製作練習 2	模型分割、歯型のマージン出し	3	"
16-19	10	7	模型製作	印象への石膏注入、模型トリミング、ダウエルピン植立、二次石膏、三次石膏	3	"
20-24	10	9	咬合器装着	咬合器装着、模型分割、歯型のマージン出し	3	"
25-30	10	11	メタルコアのワックスアップ	ワックスアップ	4	"
31-35	10	16	メタルコアの埋没	ワックスアップ、スプルーリング、埋没	4, 5	"
36-39	10	21	メタルコアの鋳造	鋳造	4, 5	"
40-44	10	23	メタルコアの研磨	形態修正、研磨、完成	4	"
45-50	10	25	個歯トレー製作	個歯トレー製作	6, 7	"
51-54	10	28	暫間被覆冠の歯冠形態回復	暫間被覆冠製作 歯冠形態回復	6, 8	"
55-59	10	30	暫間被覆冠の研磨	暫間被覆冠製作 形態修正、接触点調整、咬合調整、研磨、完成	6, 8	"
60-65	11	1	予備日	予備日	6, 8	"
66-70	11	6	クラウンのワックスアップ	ワックスアップ 概形製作	9	"
71-76	11	8	"	ワックスアップ 歯冠形態完成	9	"
77-80	11	11	"	ワックスアップ マージンのしめ直し	9	"
81-85	11	13	クラウンの埋没	スプルーリング、埋没	5, 9	"
86-90	11	15	クラウンの鋳造	鋳造	5, 9	"
91-94	11	18	クラウンの調整	内面調整	5, 9	"
95-99	11	20	"	接触点、咬合調整	10	"

100-105	11	22	クラウンの調整	形態修正	10	池田、安江、富川、上條
106-109	12	2	クラウンの研磨	研磨、完成	10, 11	"
110-114	12	4	予備日	予備日	10, 11	"
115-118	12	9	メタルインレーの模型製作	模型製作、咬合器装着	9, 12	"
119-123	12	11	メタルインレーのワックスアップ	ワックスアップ 概形製作	9, 12	"
124-130	12	13	"	ワックスアップ 歯冠形態完成	9, 12	"
131-134	12	16	メタルインレーの埋没	スプルーリング、埋没	3, 5, 9, 12	"
135-139	12	18	メタルインレーの鋳造	鋳造	3, 5, 9, 12	"
140-142	12	20	メタルインレーの調整	適合確認、内面調整、接觸点調整	10, 12	"
143-146	1	6	メタルインレーの研磨	咬合調整、研磨、完成	10-12	"
147-151	1	8	予備日	予備日	12	"
152-158	1	10	レジン前装冠の模型製作	模型製作、咬合器装着	9	"
159-163	1	15	レジン前装冠のワックスアップ	ワックスアップ 歯冠形態回復	9	"
164-169	1	17	レジン前装冠の窓開け	窓開け	13	"
170-173	1	20	レジン前装冠のワックスパターン完成	リテンションビーズ付与	13	"
174-178	1	22	レジン前装冠の埋没	スプルーリング、埋没	5	"
179-184	1	24	レジン前装冠の鋳造	鋳造	5	"
185-188	1	27	レジン前装冠の調整	適合確認、内面調整、接觸点調整、咬合調整	5	"
189-193	1	29	レジン前装冠の荒研磨	荒研磨	10	"
194-199	1	31	前装レジン築盛	デンティン築盛	13-15	"
200-203	2	3	"	エナメル築盛	13-15	"
204-210	2	5	レジン前装冠の形態修正、研磨	前装レジン築盛、形態修正、研磨、完成	13-15	"

211-218	2	7	CR インレーの築盛	ボディー、エナメル築盛	15,16	池田、安江、富川、上條
219-222	2	10	CR インレーの完成	調整、研磨、完成	15,16	"
223-225	2	12	予備日	予備日	15,16	"

### 評価方法

- ・歯冠修復工学実習は、2年後期に歯冠修復工学実習Aを、3年前期に歯冠修復工学実習Bを、それぞれ別の課題で評価し、全ての課題に合格しなければならない。
- ・出席状況、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・科目「歯冠修復工学実習」の最終成績判定は、ユニット「歯冠修復工学実習A」および「歯冠修復工学実習B」の評価を総合して行う。

### 参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会編集 医歯薬出版 2007
- ・「保存修復学 21」岩久正明・河野 篤・千田 彰・田上順二 監修 末永書店 1998
- ・「クラウンブリッジ補綴学 第4版」石橋寛二ほか 編著 医歯薬出版 2009

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tdm.ac.jp  
 安江 透 講師 随時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp  
 富川紘一 助教 随時 fukawa.peoe@tdm.ac.jp  
 上條真吾 助教 随時 s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp

科目名	プロセスデバイス工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年後期・30時間・選択2単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、大木明子、岩崎直彦、高久田和夫(生体材料工学研究所)、堀田康弘(昭和大学)、中口悦史(教養部数学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室・第4実習室、マシニング・センター

### 学習目標(GLO)

機械加工の原理を理解し、CAD/CAM/CAE の基礎的な知識を修得する。

### 到達目標(SBOS)

1. 機械加工の概念を説明する。
2. 3次元デジタルデータの収集方法ならびにその構造を説明する(計測機の種類や計測方法、その問題点について)。
3. 3次元デジタルデータの抽出、設計、加工の仕組みを説明する。
4. マシニング・センターについて説明する。
5. 3次元造形法について説明する。
6. 数値解析法の概要と有限要素法について説明する。

### 授業計画 2学年後期・30時間・選択2単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	3	オリエンテーション	プロセスデバイス概論	1-6	大木
2	10	3	CAD/CAM/CAE 総論	CAD/CAM/CAE とは	2, 3	"
3, 4	10	10	機械加工総論 1	構造物の作り方	1	高久田
5, 6	10	17	機械加工総論 2	安全の考え方	1	"
7, 8	10	24	切削加工実習 1	切削加工実習 1	1	高橋、岩崎
9, 10	10	31	切削加工実習 2	切削加工実習 2	1	"
11, 12	11	7	スキャニング	スキャニング法(接触・非接触)	2	堀田
13, 14	11	14	デジタルデータの抽出・設計・加工	3次元デジタルデータの抽出・設計・加工	3	"
15, 16	12	5	データの転送 マシニング・センター	加工データの転送 マシニング・センター	3, 4	"
17-19	12	12	企業見学1	マシニング・センター見学	4	高橋、大木

20, 21	1	9	3 次元造形法	3 次元造形法の種類、材料と方法、製造業・医療における応用	5	大木
22-24	1	16	企業見学2	CAD/CAM ショールーム見学	5	高橋、大木
25, 26	1	23	CAE・数値解析法概論	CAE・数値解析法概論	6	中口
27, 28	1	30	数値解析法演習 1	有限要素法の概要と演習 1	6	"
29, 30	2	6	数値解析法演習 2	有限要素法の概要と演習 2	6	"

### 評価方法

- ・提出レポート、製作作品、筆記試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 教科書

「CAD/CAM デンタルテクノロジー」日本歯科 CAD/CAM 学会・全国歯科技工士教育協議会監修 末瀬一彦、宮崎隆編 医歯薬出版 2012

### 参考図書等

- ・「図解メカトロニクス入門シリーズ CAD/CAM/CAE 入門」改訂 2 版 雨宮好文監修 オーム社 1999
- ・「3次元 CAD 実践活用法」日本設計工学会編 コロナ社 2006
- ・「JSME テキストシリーズ 材料力学」日本機械学会編 丸善 2006

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

高橋英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tdm.ac.jp

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tdm.ac.jp

中口悦史 准教授 木(11/28~2/6 のみ) 11:45-12:45 nakaguti.las@tdm.ac.jp

# 第3学年 履修科目

科目名	口腔保健材料力学
ユニット名	口腔保健材料力学 B
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・必修1単位
科目・ユニット責任者	高橋英和・杉本久美子
授業担当者	口腔保健工学専攻教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

本ユニットでは卒業研究への導入を行う。

### 学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性に沿った歯科技工領域の研究のテーマ検討、実施に向けて、基本的な研究の進め方、先行研究の検索方法を理解する。

### 到達目標

1. 研究の進め方を理解する。
2. EBM の概念を説明する。
3. 論文の構成を理解する。
4. 歯科技工領域の研究の概要を把握する。
5. 自己の興味に基づいた論文の検索と科学的吟味を行い、今日までの知見を整理、発表する。

### 授業計画 3学年後期・15時間・必修1単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	10	4	卒業研究オリエンテーション	卒業研究の概要、研究テーマの設定と研究デザイン、データ処理の方法、研究計画書について	1	杉本
4-6	10	11	文献検索とEBM	Evidence-based Medicine (EBM)とは、論文の基本的構成、文献の検索方法と批判的吟味について、Endnote の使い方	2, 3	"
7-9	10	25	歯科技工関連研究について	歯科技工領域の研究検索と分類(本学卒業研究、歯科技工学会論文、国際歯科技工学会演題等)	4	口腔保健工学専攻教員
10-12	11	1	文献検索と論文読解	文献検索の実施と論文読解、統計方法の理解	5	杉本

13-15	11	8	論文紹介	グループにおける論文紹介	5	口腔保健工学専攻教員
-------	----	---	------	--------------	---	------------

### 評価方法

- ・出席状況、授業態度、レポート課題および発表の内容から総合的評価を行う。
- ・ユニット「口腔保健材料力学 A」(1年次)の成績と合わせて、科目「口腔保健材料力学」の評価を行う。

### 参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」、朝倉隆司監訳、協同医書出版社 2001
- ・「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」 金澤紀子・武井典子・合場千佳子・岩久正明 編 医歯薬出版 2007
- ・「Excel による統計学入門」 繩田和満 著 朝倉書店 2007
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第2版 石村貞夫ほか 著 東京図書 2011

### 留意事項

- ・事前の資料配付および e-learning 上へのアップロードがあった場合には、予習をして授業に臨むこと。
- ・主体的に卒業研究に取り組み、英語論文も積極的に検索するよう心掛けること。

### 担当教員のオフィスアワー

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健材料力学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	3学年後期・45時間・必修1単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	口腔保健工学専攻教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室、海外研修先

本授業は、卒業研究実施の準備を整える内容とする。

### 学習目標

各学生の知的興味、将来の方向性ならびに海外研修を通して見いたした課題に沿ってテーマを選択し、研究の計画・立案を行い、実施する。研究結果を論文にまとめるまでの過程を通して、研究への理解と意欲を培う。

### 到達目標

- 海外研修等を通して課題を発見し、自身の知的興味、将来の方向性に沿って研究テーマを設定する。
- 研究実施にあたって必要となる倫理的配慮、個人情報保護を理解し、実践する。
- 研究テーマに関連した論文の検索と科学的吟味を行い、今までの知見を整理する。
- 研究テーマ、目的に基づいた研究の計画を作成する。

### 授業計画 3学年後期・45時間・必修1単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-8	11	11	特別研修	海外研修	1	口腔保健工学専攻教員
9-16	11	12	特別研修	海外研修	1	"
17-22	11	13	特別研修	海外研修	1	"
23-26	12	6	特別研修報告会	海外研修報告会	1	"
27	1	10	研究実施の流れ	研究計画の立て方、倫理的配慮・個人情報の管理等の留意点等について	2	杉本
28-30	1	10	研究テーマの検討	研究テーマの検討と絞り込み、研究計指導者の決定	1	"

31-34	1	17	関連文献の再検討、研究方法検討	テーマ関連文献の網羅的検索、研究方法の検討	3	口腔保健工学専攻教員
35-38	1	24	研究計画の検討	研究計画の検討、研究計画書の作成	4	"
39-43	1	31	研究計画の決定	研究計画の決定、研究計画書完成、発表会のスライド準備	4	"
44, 45	2	7	研究計画報告	研究計画発表会	4	"

### 評価方法

- ・文献報告、研究計画書、研究計画発表の内容から総合的評価を行う。
- ・海外における特別研修は本科目の 22 時間分の履修として認定する。
- ・本授業の海外研修に参加できない場合は他の同等の研修をもって履修を認定する。

### 参考図書等

- ・「保健・医療のための研究法入門」朝倉隆司監訳 協同医書出版社 2001
- ・「歯科衛生研究の進め方、論文の書き方」金澤紀子・武井典子・合場千佳子・岩久正明 編 医歯薬出版 2007
- ・「Excel による統計学入門」繩田和満著 朝倉書店 2007
- ・「SPSS による医学・歯学・薬学のための統計解析」第 2 版 石村貞夫他著 東京図書 2011

### 留意事項

- ・e-learning (Web Class) を連絡等に利用するので、チェックを怠らないこと。
- ・常に研究指導教員と密接な連絡をとり、助言を得ながら研究を進め、研究進行表に認印をもらうこと。

### 担当教員のオフィスアワー

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

科目名	科学英語Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	大木明子
授業担当者	大木明子
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

歯科で使われる英語について、英論文を読みながら基本的な知識を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 歯学系研究英論文や英語の教科書を読んで内容を理解する。
2. 英論文の要点をまとめ、わかりやすい日本語抄録を作成する。
3. 英語で抄録を作成する。

**授業計画 3学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	12	英語の教科書 1	概説、教科書(義歯)	1	大木
2	4	19	英語の教科書 2	教科書(義歯)	1	"
3	4	26	英語の教科書 3	教科書(顎顔面補綴)	1	"
4	5	10	英論文を読む 1	概説、科学論文の構成	1, 2	"
5	5	17	英論文を読む 2	論文 1	1, 2	"
6	5	24	英論文を読む 3	論文 2	1, 2	"
7	5	31	英論文を読む 4	論文 3	1, 2	"
8	6	7	英論文を読む 5	論文 4	1, 2	"
9	6	14	英論文を読む 6	論文 5	1, 2	"
10	6	28	抄録の作成 1	概説、論文 6、英文抄録の作成	1-3	"
11	7	12	抄録の作成 2	論文 7、英文抄録の作成	1-3	"
12, 13	7	19	抄読会 1	抄読、プレゼンテーション	1-3	"
14, 15	7	26	抄読会 2	抄読、プレゼンテーション	1-3	"

**評価方法**

出席状況、授業態度、課題レポート等を総合的に評価し、合否を判定する。

## **参考図書等**

「日本人のための医学英語論文執筆ガイド」 Amanda Tompson・相川直樹 著 医学書院 2008

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	咬合学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	咬合学実習(1) 2学年後期・15時間 咬合学実習(2) 3学年前期・30時間 } 必修1単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、大木明子、安江透、上條真吾、富川紘一、得本佳代(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健学科 相互実習室(1号館8階)(4月15、22日) 口腔保健工学専攻 第2実習室(7月以降)

咬合学実習は、咬合学実習(1)(2年次)および咬合学実習(2)(3年次)により構成される。

### 咬合学実習(2)

#### 学習目標(GIO)

咬合器付着模型を用いた学生相互実習により、下顎運動と歯の咬合接触を中心とした咀嚼と咬合のメカニズムを理解する。

#### 到達目標(SBOS)

1. 予備印象採得の方法を知る。
2. 研究用模型を製作する。
3. 半調節性咬合器の種類を説明する。
4. フェイスボウトランクスファーの方法を理解する。
5. チェックバイトを説明する。
6. 顆路調整を行う。
7. インプラントの埋入手術を擬似体験する。
8. インプラント用個人トレーの特徴を説明する。
9. インプラント模型の製作方法を説明する。
10. 各種 CAD/CAM システムを体験する。

#### 授業計画 3学年前期・30時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-6	4	15	予備印象採得と研究用模型	アルジネート印象材による予備印象採得、研究用模型の製作	1, 2	鈴木、大木、得本

7-12	4	22	フェイスボウトランスマーと顆路調整	半調節性咬合器の種類と取り扱い、フェイスボウトランスマー、咬合器装着、チェックバイト法、顆路調整	3-6	鈴木、大木、得本、安江、上條、富川
13-18	7	22	インプラントの埋入	模型によるインプラント埋入術式の体験、オーブントレーの製作	7-9	鈴木、安江、上條、富川
19-24	7	25	CAD/CAM システム	各種 CAD/CAM ソフトウェアのトレーニング	10	"
25-30	7	29	インプラント作業用模型	インプラント作業用模型の製作	7-9	"

### 評価方法

- ・毎回の提出物(作品)を総合的に判断し、評価する。
- ・出席状況、授業態度を評価に加味する。
- ・咬合学実習の最終成績判定は咬合学実習(1)および(2)の評価を総合して行う。

### 参考図書等

- ・「必ず上達歯冠修復(上)」 萩原芳幸 著 クインテッセンス出版 2009
- ・「よくわかる口腔インプラント学」 赤川安正ら 編 医歯薬出版 2005

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也	教授	隨時	suzuki.peoe@tdm.ac.jp
大木明子	准教授	隨時	moki.mfoe@tdm.ac.jp
安江 透	講師	隨時	yasue.fpoe@tdm.ac.jp
富川紘一	助教	隨時	fukawa.peoe@tdm.ac.jp
上條真吾	助教	隨時	s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp

科目名	有床義歯工学実習		
授業形態	実習		
開講時期・時間数・単位	有床義歯工学実習(1) 2学年前期・130時間 有床義歯工学実習(2) 2学年前後期・170時間 有床義歯工学実習(3) 3学年前期・60時間	必修 8 単位	
科目責任者	鈴木哲也		
授業担当者	安江 透、富川紘一、沖本祐真(非常勤講師)		
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室		

有床義歯工学実習は有床義歯工学実習(1)、(2)(2年次)および(3)(3年次)により構成される。

### 有床義歯工学実習(3)

#### 学習目標(GIO)

部分的歯牙欠損患者の口腔機能回復のための理論と、各種構成要素に用いる材料の諸性質を理解、および補綴装置の構造力学的安定を考慮し、個々の臨床ケースに対応できる部分床義歯製作のための技法および技術を身につける。

#### 到達目標(SBOs)

1. 構造力学的安定と、適合精度向上を考慮した設計をする。
2. 各支台歯に適切な維持力と維持装置を設計する。
3. 義歯の着脱方向を正確に設定して、的確にブロックアウトする。
4. 錫造床製作上不要な部分は後の複印象の精度を考慮してブロックアウトする。
5. リリーフ部のワックス表面に必要な外形線を再描記する。
6. シリコーン印象材の理工学的特性および複印象システムの特徴を理解し、精密に印象採得する。
7. シリコーンモールドに変形を伴うような外力を与えないよう留意しながら作業、保管する。
8. 複印象システムおよび耐火埋没材の理工学的特徴を理解し、精密な複模型を製作する。
9. 耐火模型を作業し易い適切な大きさにトリミングし、表面処理を行う。
10. 耐火模型へ傷を付けないように設計した外形線を再描記する。
11. 力学的安定を考慮し、構造設計を行う。
12. ワックスパターンは、厚み、デザインの変形を避け、切削、追加、加熱コントロールを行う。
13. フィニッシングラインは人工歯との位置、歯肉形成を考慮した形態にする。
14. 耐火模型からワックスが剥離しないように圧接、固定する。
15. 錫造機の特性を理解し、適切な位置、形状のスプルーリングを行う。
16. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、気泡を混入しない埋没をする。
17. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、適切な環境で焼却時まで保管する。
18. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、的確な温度管理でリング焼却する。

19. 高周波鋳造機の特性を理解し、欠陥のない鋳造体を製作する。
20. 外形線に沿って正確なワイヤークラスプを屈曲する。
21. 高速レーザーの仕組みを理解し、鋳造体の加熱を避け安全にスプルーカットする。
22. 作業用模型への適合方法を理解し、的確なトリミングおよび研磨をする。
23. 各工程における研削材の性質を理解し、工程終了毎に表面荒さを確認しながら研磨をする。
24. ハンドピースの回転数、加重をコントロールし、鋳造体の加熱を避けながら研磨する。
25. 使用金属の理工学的特性を理解して、それぞれの支台装置に合った維持力を調整する。
26. パラフィンワックスの理工学的特性を理解し、最適なろう堤を形成する。
27. 審美性に配慮して人工歯排列する。
28. 機能性に配慮して人工歯排列する。
29. 機能性および生体親和性に配慮して歯肉形成する。
30. パラフィンワックスを的確に操作し、滑沢な表面に仕上げる。
31. 流し込みレジンの特性を理解し、気泡を混入しないスプレーイングをする。
32. シリコーン印象材の理工学的特性を理解し、精密に印象採得する。
33. マスター モデルの状態を考慮して、的確な条件、温度管理で流口ウする。
34. 分離材の特性を理解し、必要な範囲に的確に塗布する。
35. 即時重合レジンの理工学的特性を理解し、適正な時間で完了するように注入する。
36. 適正な温度管理で加熱重合する。
37. 重合体および作業用模型に必要以上の外力を加えることなく、掘り出しする。
38. 義歯、維持装置を変形させることなく、作業用模型から取り外す。
39. 外形線に沿って的確に形態修正する。
40. 形態修正による切削傷を効率よく荒研磨する。
41. レーザー研磨の仕組みを理解し、効率よく艶出し研磨する。
42. バフを使用して鏡面研磨する。

#### 授業計画 3 学年前期・60 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	4	8	義歯の設計 サベイイング ブロックアウト・リリーフ	支台装置の概略と構成要素、金属床外形線の記入 ブロックアウトおよびリリーフ	1-5	安江、富川、 沖本
4-6	4	8	耐火模型の製作	複印象採得 鋳造床製作術式の講義	6, 7	"
7-9	5	13	"	耐火模型材注入 耐火模型の表面処理	8, 9	"
10-12	5	13	ワックスアップ	力学的構造設計 ワックスアップ	10-12	"
13-18	5	20	"	"	12-14	"

19-24	5	27	埋没	スプルーリング、埋没	15-17	安江、富川、沖本
25-27	6	3	鋳造	鋳造、スプルーカット	17-19	"
28-30	6	3	形態修正 研磨	形態修正 内面研磨	20-24	"
31-36	6	10	研磨・適合	クラスプの維持力調整 仕上げ研磨 作業用模型への適合	23-25	"
37-39	6	17	人工歯排列	臼歯部人工歯排列	26-28	"
40-42	6	17	歯肉形成	歯肉形成	29, 30	"
43-45	6	24	レジン重合	コア採得 流し込みレジン重合	31-36	"
46-48	6	24	形態修正	咬合調整、形態修正	37-39	"
49-54	7	1	研磨	レジン研磨、完成	40-42	"
55-60	7	30	予備日	予備日	40-42	"

### 評価方法

- ・有床義歯工学実習は、2年前期に有床義歯工学実習(1)を、後期に有床義歯工学実習(2)を、3年前期に有床義歯工学実習(3)を、それぞれ別の課題を行い、全ての課題に合格しなければならない。
- ・出席状況、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・有床義歯工学実習の最終成績判定は有床義歯工学実習(1)～(3)の評価を総合して行う。

### 参考図書等

- ・「新1週間でマスターするキャストパーシャル」 川島哲 医歯薬出版 東京 2012
- ・「デジタルサベヤーによるキャストクラスプの設計と製作」 野首孝祠・小野高裕・奥野善彦 著 デンタルエコー Vol.66 SHOFU.Inc. 京都 1984
- ・「コバルトクロム合金を用いたキャストクラスプの合理的な製作法」 野首孝祠・小野高裕・守光隆・奥野善彦著 デンタルエコー Vol.71 SHOFU.Inc. 京都 1986
- ・「パーシャルデンチャーの設計・製作によりよい環境を求めて」 野首孝祠・安井栄・喜多誠一・奥野善彦 著 デンタルエコー Vol.89 SHOFU.Inc. 京都 1992
- ・「合理的で確実なパーシャルデンチャーの製作方法」 池邊一典・野首孝祠 著 デンタルエコー Vol.109 SHOFU.Inc. 京都 1997
- ・「TKM キャストデンチャーのすべて」 川島哲 著 医歯薬出版 東京 2005
- ・「金属床と構造設計進化論-軽くて薄くて壊れない金属床義歯の設計と製作」 古賀壯一 歯科技工 Vol.33 No.4 pp.409-433 医歯薬出版 東京 2005
- ・「義歯に血の通うまで～アルプス歯科の総義歯製作技法」 中込敏夫・向井道夫 著 サンバレー書房 2011

- ・「Fundamentals of Esthetic Dental Technology」 齢科技工別冊 医歯薬出版 2009
- ・「パーシャルデンチャー製作のための設計/構造」 齢科技工別冊 医歯薬出版 2000

#### **留意事項**

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

#### **担当教員のオフィスアワー**

安江 透 講師 隨時 [yasue.fpoe@tdm.ac.jp](mailto:yasue.fpoe@tdm.ac.jp)

富川紘一 助教 隨時 [fukawa.peoe@tdm.ac.jp](mailto:fukawa.peoe@tdm.ac.jp)

科目名	欠損再建工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、塩田 真(インプラント・口腔再生医学分野)、救命救急センター教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

歯および口腔周囲組織の欠損の病態およびその治療法について、インプラント義歯および可撤性義歯を中心に理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 口腔インプラントの発展とオッセオインテグレーションについて説明する。
2. インプラント治療に必要な診察と検査項目を列挙する。
3. インプラント体の生体力学的特異性を説明する。
4. 補綴デザインの原則を列挙する。
5. 様々な半調節性咬合器の相違点と使用法を説明する。
6. フェイスボウの意義と使用法を説明する。
7. インプラントの外科手術の流れを説明する。
8. インプラントの補綴治療の流れを説明する。
9. 上部構造の製作法を説明する。
10. 全部床義歯の至適形態を説明する。
11. インプラントの印象採得法とそれに用いる器具について説明する。
12. インプラントアナログとアバットメントアナログを説明する。
13. 救急救命について理解する。

**授業計画 3学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	8	口腔インプラントのための基礎科学	現代の口腔インプラントシステム、インプラントに対する生体反応	1	塩田
3, 4	4	15	口腔インプラントの診断と治療学	生体力学と補綴デザインの原則、治療計画の立案	2-4	"
5, 6	4	22	半調節咬合器とフェイスボウ	半調節性咬合器の使用法、フェイスボウの意義と使用法	5, 6	鈴木

7, 8	5	13	口腔インプラントの 外科手術と補綴術 式、	インプラント埋入手術とその関連手 術、作業用模型の製作、アバットメン トの選択と調整、上部構造の製作	7-9	塩田
9, 10	5	20	全部床義歯を見る 眼	全部床義歯の至適形態とその判断 基準	10	鈴木
11, 12	7	22	インプラント体の埋 入と作業用模型	インプラント体埋入法の理解、オーブ ントレードとクローズドトレード、インプラ ント模型製作時の留意点、インプラン トアナログとアバットメントアナログ	3, 4, 8, 11, 12	"
13-15	7	31	救急救命	救急救命の必要性と対応	13	救命救急 センター 教員

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「必ず上達歯冠修復(上)」 萩原芳幸 著 クインテッセンス出版 2009
- ・「よくわかる口腔インプラント学」 赤川安正ほか 編 医歯薬出版 2005
- ・「写真でマスターする顎関節症治療のためのスプリントのつくり方・つかい方」 鰐見 進一ほか 編 ヒヨーロン・  
パブリッシャー 2011

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 隨時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp  
 塩田 真 准教授 メールにて面談の日程を調整すること mshioota.impl@tmd.ac.jp

科目名	歯冠修復工学
ユニット名	歯冠修復工学 B
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年前期・30時間・必修2単位
科目責任者・ユニット責任者	池田正臣
授業担当者	池田正臣、岡田大蔵・駒田亘(摂食機能保存学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

歯冠修復工学はユニット「歯冠修復工学 A」(2年次)および「歯冠修復工学 B」(3年次)により構成される。

### 学習目標(GIO)

各種の歯冠修復及び架工義歯に関する知識を修得する。

### 到達目標(SBOs)

1. 生体と間接法による模型の咬合接触の違いを理解する。
2. 術前のテンポラリークラウンの製作方法について理解する
3. ブリッジの構造と支台歯形成および印象について理解する。
4. ブリッジワックスアップについて理解する。
5. 術前のテンポラリークラウンの調整について理解する。
6. 各種修復物の支台歯・窩洞形態を理解する。
7. 各種修復物のマージン形態を理解する。
8. ファイバーコアとメタルコアの違いを理解する。
9. 歯根破折の原因を説明する。
10. ファイバーコアの製作方法を理解する。
11. 分割コア製作方法を理解する。
12. CR インレーとメタルインレーの違いを説明する。
13. CR インレーの製作方法を理解する。
14. 間接法用コンポジットレジンについて説明する。
15. 硬質レジンジャケットクラウンの製作方法を理解する。
16. ファイバーブリッジの製作方法を理解する。

### 授業計画 3学年前期・30時間・必修2単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	9	間接法と生体	顎骨の歪みや歯の微小変位が間接法に与える影響	1	岡田

3, 4	4	10	ブリッジ	術前 Tek 製作方法(デモ)	2	池田
5, 6	4	16	ブリッジ	ブリッジの構造、支台歯形成と印象	3	岡田
7, 8	4	17	ブリッジ	ブリッジのワックスアップ(デモ)	4	池田
9, 10	4	23	ブリッジ	術前 Tek 調整、ブリッジの調整とセット	5	岡田
11, 12	4	24	支台歯・窩洞形態	各種修復物の支台歯・窩洞形態	6	駒田
13, 14	5	7	マージン形態	各種修復物のマージン形態	7	"
15, 16	5	8	ファイバーコア	ファイバーコアの特徴、歯根破折	8, 9	"
17, 18	5	14	ファイバーコア	間接法ファイバーコア製作方法(デモ)	10	池田
19, 20	5	15	分割コア	分割コアの製作方法(デモ)	11	"
21, 22	5	21	CR インレー	CR インレーの形態と製作方法(デモ)	12, 13	"
23, 24	5	22	硬質レジン	間接法の材料と接着操作	14	"
25, 26	5	28	レジンジャケット クラウン	レジンジャケットクラウン製作方法(デモ)	15	"
27, 28	5	29	ファイバーブリッジ	ファイバーブリッジ製作方法	15	"
29, 30	6	4	予備日	予備日	16	"

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・歯冠修復工学 A は 2 年後期に、歯冠修復工学 B は 3 年前期にそれぞれ試験を行い、全ての試験に合格しなければならない。
- ・歯冠修復工学の最終成績判定はユニット「歯冠修復工学 A」と「歯冠修復工学 B」の評価を総合して行う。

### 教科書

- ・「クラウンブリッジ補綴学 第4版」石橋寛二他 編著 医歯薬出版 2009

### 参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2007
- ・「保存修復学 21」岩久正明・河野 篤・千田 彰・田上順二 監修 末永書店 1998
- ・「接着歯学」日本接着歯学会編 医歯薬出版 2002

### 留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### **担当教員のオフィスアワー**

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmr.ac.jp

岡田大蔵 講師 メールにて面談の日程を調整すること d.okada.fpro@tmr.ac.jp

駒田 亘 講師 メールにて面談の日程を調整すること w.komada.fpro@tmr.ac.jp

科目名	歯冠修復工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	歯冠修復工学実習(1) 2学年後期・210時間 歯冠修復工学実習(2) 3学年前期・150時間 } 必修8単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	池田正臣、富川紘一、堀部敬教・西尾政浩(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室

歯冠修復工学実習は、歯冠修復工学実習(1)(2年次)および歯冠修復工学実習(2)(3年次)より構成される。

### 歯冠修復工学実習(2)

#### 学習目標(GIO)

各種の歯冠修復及び架工義歯に関する知識及び技術について修得する。

#### 到達目標(SBOs)

1. ブリッジ模型の扱いを理解し、正確に模型を製作する。
2. 術前のテンポラリーブリッジ(Br-Tek)を製作する。
3. ブリッジ模型の扱いを理解し、分割、トリミングする。
4. 適合精度の高いワックスパターンを製作する。
5. ポンティックの基底面形態を理解する。
6. ポンティックを窓開けする理由を理解する。
7. 単冠とブリッジのスプルーリング・鑄造の違いについて理解する。
8. 適切な辺縁形態、隣接面接触、咬合接触を付与する。
9. 鏡面研磨する。
10. ファイバーコアを製作する。
11. 分割コアをワックスアップする。
12. CR インレーを製作する。
13. 硬質レジンジャケットクラウンを製作する。

#### 授業計画 3学年前期・150時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	4	9	模型製作	ブリッジ Tek、メタルブリッジ、CR インレー、レジンコア、レジンジャケットクラウンに使用する模型の製作	1	池田、富川 堀部、西尾

6-10	4	10	模型製作	ブリッジ Tek、メタルブリッジ、CR インレー、レジンコア、レジンジャケットクラウンに使用する模型の製作	1	池田、富川 堀部、西尾
11-15	4	11	ブリッジ Tek 完成	常温重合レジン注入、調整 研磨、完成	2	"
16-21	4	12	咬合器装着	咬合器装着、模型分割 歯型のマージン出し	3	"
22-26	4	16	ブリッジのワックスアップ	支台歯のワックスアップ	4	"
27-31	4	17	"	"	4	"
32-36	4	18	"	ポンティックのワックスアップ	5, 6	"
37-42	4	19	"	ワックスパターンの連結	5, 6	"
43-47	4	23	ポンティック粘膜面形態付与	粘膜面形態付与、	5, 6	"
48-52	4	24	ポンティック窓開け	窓開け、リテンションビーズ付与	5, 6	"
53-57	4	25	スプルーリング	スプルーリング、埋没	7	"
58-63	4	26	鋳造	鋳造	7	"
64-68	5	7	内面調整	適合確認、内面調整	8	"
69-73	5	8	調整	接触点調整、咬合調整、 荒研磨、窓開け部辺縁調整	8	"
74-78	5	9	メタルブリッジの完成	前装レジン築盛、最終研磨 完成	9	"
79-84	5	10	予備日	予備日	9	"
85-89	5	14	ファイバーコアの築盛、完成	ファイバーポストの調整 レジン築盛、形態修正、完成	10	"
90-94	5	15	分割コア	ワックスアップ	11	"
95-99	5	16	予備日	予備日	10, 11	"
100-105	5	17	CR インレーの築盛	ボディー築盛	12	"
106-110	5	21	"	エナメル築盛	12	"

111-115	5	22	CR インレーの完成	調整、研磨、完成	12	池田、富川 堀部、西尾
116-120	5	23	予備日	予備日	12	"
121-126	5	24	硬質レジンジャケットクラウンの築盛	ボディー築盛	13	"
127-131	5	28	"	エナメル築盛	13	"
132-136	5	29	硬質レジンジャケットクラウンの調整	形態修正	13	"
137-140	5	30	"	接触点調整、咬合調整	13	"
141-146	5	31	硬質レジンジャケットクラウンの完成	研磨、完成	13	"
147-150	6	4	予備日	予備日	13	"

### 評価方法

- ・歯冠修復工学実習は、2 年後期に歯冠修復工学実習(1)を 3 年前期に歯冠修復工学実習(2)を、それぞれの課題で評価し、全ての課題に合格しなければならない。
- ・出席状況、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・歯冠修復工学実習の最終成績判定は歯冠修復工学実習(1)および (2)の評価を総合して行う。

### 参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2007
- ・「保存修復学 21」 岩久正明・河野 篤・千田 彰・田上順二 監修 末永書店 1998
- ・「クラウンブリッジ補綴学 第4版」 石橋寛二ほか 編著 医歯薬出版 2009
- ・「接着ここが知りたい 歯科技工士編」 日本接着歯学会 編 財団法人口腔保健協会 2008

### 留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp

科目名	CAD/CAM システム工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、上條真吾、三浦宏之(摂食機能保存学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

歯科用陶材を応用した審美修復物、とりわけ金属冠およびジルコニアに焼き付けて製作する陶材焼付金属冠およびオールセラミックスの理工学的特徴ならびにその製作法を習得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 陶材焼付金属冠の臨床的意義を説明する。
2. 陶材焼付金属冠の適応症を説明する。
3. 陶材と金属の接合について説明する。
4. 陶材焼付金属冠の製作法を説明する。
5. 陶材焼付を応用したブリッジの製作法を説明する。
6. 陶材を応用した修復物の特徴ならびに製作法を説明する。
7. 歯科用 CAD/CAM を用いたスキャニングの特徴ならびに注意点を説明する。
8. ジルコニアの理工学的特徴を説明する。
9. ジルコニアを臨床応用する際の注意点について説明する。
10. 歯科用陶材の種類および特徴について説明する。
11. 歯科用陶材を用いた各種築盛方法を説明する。
12. 天然歯の光学的特徴について説明する。
13. シェードガイドの取り扱い方について説明する。
14. シェードマッチングの方法ならびに使用する機器に関する注意点を説明する。
15. 歯科に応用されている CAD/CAM システムの特徴を説明する。

**授業計画 3学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	6	5	陶材焼付金属冠の基礎	陶材焼付金属冠の特徴、製作法	1-4	安江、上條
2	6	11	陶材焼付金属冠の製作	単冠、ブリッジの製作法、臨床例	4, 5	"

3	6	12	陶材を応用した修復物	インプラント上部構造、オールセラミックス	6	安江、上條
4	6	18	CAD/CAM の操作	LAVA SCAN ST でのダブルスキヤニング法	7	"
5	6	25	ジルコニア修復	歯科用ジルコニアの基本的性質と臨床応用	8, 9	三浦
6	7	2	歯科用陶材	歯科用陶材の種類、築盛用陶材の種類と操作法	10, 11	安江、上條
7	7	9	シェードマッチング	天然歯の光学的要素、シェードの基礎、シェードマッチング法	12-14	"
8	7	16	歯科用 CAD/CAM	各種歯科用 CAD/CAM の特徴	15	"

### 評価方法

出席状況、授業態度、筆記試験を総合的に評価し合否を判定する。

### 参考図書等

- ・「CAD/CAM デンタルテクノロジー」末瀬一彦・宮崎隆 編 医歯薬出版 2012
- ・「最新 CAD/CAM レストレーション」補綴臨床別冊 三浦宏之・宮崎隆 編 医歯薬出版 2008
- ・「ザ・メタルセラミックス」山本眞 著 クインテッセンス出版 1982
- ・「メタルセラミックス築盛の基礎」山本眞 著 クインテッセンス出版 1989
- ・「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」細川隆司・山下恒彦 編 歯科技工別冊 医歯薬出版 2007

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 隨時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp

上條真吾 助教 隨時 s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp

三浦宏之 教授 メールにて面談の日程を調整すること h.miura.fpro@tdm.ac.jp

科目名	CAD/CAM システム工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	3学年前期・45時間・必修1単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、富川紘一、上條真吾
主な授業場所	口腔保健工学専攻第2実習室・ポーセレン室1

**学習目標(GIO)**

- 審美歯冠修復に用いられるメタルセラミックスのフレームおよびオールセラミックスのジルコニアフレームが備えるべき理工学的条件および形態的特徴を理解し、後に行う陶材築盛作業を踏まえたフレーム形態を製作できる技術を習得する。
- 歯科用セラミック材料の特性と築盛原理、色調表現と築盛技術の理論を理解した上で、歯冠用セラミック材料の築盛操作工程を実習し、色調表現法や形態修正による天然歯の質感表現の実際を習得する。

**到達目標(SBOs)**

1. CAD を使用し理想的なフレームワークを設計する。
2. ジルコニアコーピングを製作する際の歯科用 CAM の特性を説明できる。
3. 鋳造体を支台歯模型に正確に適合させる。
4. サポートエリアを十分確保した陶材築盛面を調整および形成する。
5. ジルコニアフレームを支台歯模型に正確に適合させる。
6. 歯科用陶材の特性を説明する。
7. 歯科用陶材の特徴を理解し、それぞれ製品別の色調再現法を説明し実践する。
8. 複数の陶材を混ぜることなく、且つ緻密に積層する。
9. 陶材を盛り上げることによって歯冠形態を再現する。
10. ステインによる色調表現法を理解し、説明し実践する。

**授業計画 3学年前期・45時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	6	20	CAD 操作	下顎大臼歯フレームオーダー	1	安江、富川、 上條
4-6	6	20	CAM 見学	LAVA (白鵬 D.T.I)	2	"
7-12	6	21	フレーム調整	上顎中切歯 メタルフレーム調整	3, 4	"
13-16	6	25	"	下顎大臼歯 ジルコニアフレーム調整(LAVA)	4, 5	"

16-21	6	26	予備日	予備日	4, 5	安江、富川、上條
22-24	6	27	フレーム調整	ジルコニアフレーム調整	4, 5	"
25-27	6	27	CAM 見学	Proceria (幕張プラント)	2	"
28-32	6	28	陶材築盛	パウダーの種類、水分コントロール、コンデンス	6-8	"
33-36	7	2	陶材築盛	築盛練習 ① 前歯部	7-9	"
37-41	7	3	"	築盛練習 ② 臼歯部	"	"
42-45	7	9	"	色調表現練習 (内部ステイン法)	8-10	"

### 評価方法

製作作品、出席状況、実習態度により総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」 新歯科技工士教本 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2009
- ・「CAD/CAM デンタルテクノロジー」 末瀬一彦・宮崎 隆 編 医歯薬出版 2012
- ・「最新 CAD/CAM レストレーション」 補綴臨床別冊 三浦宏之・宮崎 隆 編 医歯薬出版 2008
- ・「ザ・メタルセラミックス」 山本 真 著 クインテッセンス出版 1982
- ・「メタルセラミックス築盛の基礎」 山本真 著 クインテッセンス出版 1989
- ・「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」 細川隆司・山下恒彦 編 歯科技工別冊 医歯薬出版 2007

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

- |      |    |    |                          |
|------|----|----|--------------------------|
| 安江 透 | 講師 | 隨時 | yasue.fpoe@tdm.ac.jp     |
| 富川紘一 | 助教 | 隨時 | fukawa.peoe@tdm.ac.jp    |
| 上條真吾 | 助教 | 隨時 | s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp |

科目名	先進修復工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	3学年前期・45時間・必修1単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、富川紘一、上條真吾
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室・ポーセレン室1・材料室1

**学習目標(GIO)**

- ・歯科医療に多く取り入れられてきている CAD/CAM システムの概要と利点を把握し、歯冠修復や咬合学の基礎知識を基に、自ら CAD システムを設定して修復物をデザイン・製作する基本的な技術力を養う。
- ・審美歯冠修復に用いられるメタルセラミックスのフレームおよびオールセラミックスのジルコニアフレームが備えるべき理工学的条件および形態的特徴を理解し、後に行う陶材築盛作業を踏まえたフレーム形態を製作できる技術を習得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 審美歯冠修復に関する概要を説明する。
2. 高精度な歯冠修復物を製作するための精密な作業用模型が製作する。
3. 正確なマージンラインを明瞭に形成する。
4. 審美的および機能的に考慮された歯冠回復をする。
5. サポートエリアおよび陶材築盛量を考慮したフィニッシングライン設計および窓開けをする。
6. 変形がない精密なワックスパターンが採得する。
7. リン酸塩系埋没材の特徴を理解し、気泡を混入しない埋没操作をする。
8. 理工学的欠陥がないメタルフレームを鋳造する。
9. CAD を使用し理想的なフレームワークを設計する。

**授業計画 3学年前期・45時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	6	5	審美修復実習の概要	実習内容説明	1	安江、富川、上條
2-4	6	5	作業用模型製作	トリミング、ダウエルピン植立、2次石膏	2	"
5-7	6	6	"	3次石膏、スプリットキャスト付与、歯型分割	2	"
8-10	6	6	咬合器装着	咬合器装着、マージントリミング	3	"

11-15	6	7	ワックスアップ	上顎中切歯 メタルセラミックス(歯冠回復→フィニッシュライン設計)	4	安江、富川、上條
16-19	6	11	ワックスアップ	下顎大臼歯 オールセラミックス(歯冠回復→フィニッシュライン設計)	4	"
20-24	6	12	"	上顎中切歯 メタルセラミックス(カットバック) 下顎大臼歯 オールセラミックス(カットバック)	5, 6	"
25-30	6	13	埋没	上顎中切歯 メタルセラミックス(埋没)	7	"
31-35	6	14	鋳造	上顎中切歯 メタルセラミックス(鋳造)	8	"
36-39	6	18	CAD 操作	Lava scan ST 概要説明、下顎大臼歯フレームオーダー	9	"
40-45	6	19	"	下顎大臼歯フレームオーダー	9	"

### 評価方法

出席状況、実習態度、製作作品により総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」 新歯科技工士教本 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2009
- ・「CAD/CAM デンタルテクノロジー」 末瀬一彦・宮崎隆 編 医歯薬出版 2012
- ・「最新 CAD/CAM レストレーション」 補綴臨床別冊 三浦宏之・宮崎隆 編 医歯薬出版 2008
- ・「ザ・メタルセラミックス」 山本 真 著 クインテッセンス出版 1982
- ・「メタルセラミックス築盛の基礎」 山本 真 著 クインテッセンス出版 1989
- ・「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」 細川隆司・山下恒彦 編 歯科技工別冊 医歯薬出版 2007

### 留意事項

- ・事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 随時 yasue.fpoe@tdm.ac.jp  
 富川紘一 助教 随時 fukawa.peoe@tdm.ac.jp  
 上條真吾 助教 随時 s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp

科目名	セラミック加工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、橋本典也(愛知学院大学)、飛田 滋(明倫短期大学)、別部尚司・樋口鎮央・青木智彦・高橋勇治(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

セラミックを用いた最新の歯科補綴装置に接し、それに関わる材料、機器、歯科技工技術について理解し、歯科技工士としての習得すべき技術と将来性を考える。

**到達目標(SB0s)**

1. 補綴装置の審美性に関わる要因を列挙する。
2. 各種セラミック材料の特性を説明する。
3. セラミック材料の歯科技工上の扱い方、基本原則を説明する。
4. 各種 CAD/CAM 機器の相違を説明する。
5. CAD/CAM への歯科技工士の関わり方について考える。
6. 補綴装置のデザインを決定する要素を列挙する。
7. 補綴治療が全身の健康に及ぼす影響について知る。
8. 各種 CAD/CAM ソフトの使用法を理解する。

**授業計画 3学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	5	27	補綴装置の審美性	セラミックを用いた補綴装置の審美性	1	高橋(勇)
3, 4	6	3	セラミック材料の特性	各種セラミック材料の特性、セラミック材料の最新トピック	2	橋本
5, 6	6	10	セラミック技工技術の原則	セラミックを用いた技工技術の原則	3	飛田
7, 8	6	17	CAD/CAM 最新技工技術	最新の CAD/CAM 機器の相違と将来性、レーザーシンタリング	4, 5	樋口
9, 10	6	24	補綴装置のデザイン	機能性と審美性から考える補綴装置のデザイン	3, 6	青木

11, 12	7	1	補綴治療と生体反応	補綴治療が全身の健康に及ぼす影響	7	別部
13-15	7	24	CAD/CAM システム	各種 CAD/CAM ソフトの体験	8	鈴木

### 評価方法

- ・レポートおよび筆記試験を総合的に評価し合否を判定する。
- ・出席状況、授業態度を評価に加味する。

### 参考図書等

「CAD/CAM デンタルテクノロジー」末瀬一彦、宮崎 隆 編 医歯薬出版 2012

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

科目名	セラミック加工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	3学年前期・45時間・必修1単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、富川紘一、上條真吾
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室、ポーセレン室1

**学習目標(GIO)**

歯科用セラミック材料の特性と築盛原理、色調表現と築盛技術の理論を理解した上で、歯冠用セラミック材料の築盛操作工程を実習し、色調表現法や形態修正による天然歯の質感表現の実際を習得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 複数の陶材を混ぜることなく、且つ緻密に積層する。
2. 陶材を盛り上げることによって歯冠形態を再現する。
3. スteinによる色調表現法を理解し、説明実践する。
4. 天然歯の複雑な色調を正確に判断し、多種類の陶材を的確に積層することにより色調再現する。
5. 天然歯の持つ質感を、形態修正および艶出しによって表現する。
6. シードガイドの仕組みを理解して、口腔内で正確なシードマッチングをする。
7. 光学式測色器の特徴を理解して、口腔内測色をする。
8. 修復物製作に重要な資料となる口腔内写真を撮影する。

**授業計画 3学年前期・45時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	7	10	陶材築盛	色調表現練習(多色築盛法)	1, 2, 4	安江、富川、 上條
6-11	7	11	シードマッチング 口腔内撮影	シードガイド、クリスタルアイ、 口腔内カメラ撮影	6-8	"
12-16	7	12	陶材築盛	上顎中切歯 メタルセラミックス AAA (内部ステイン法)	1-3	"
17-21	7	16	"	上顎中切歯 メタルセラミックス AAA (内部ステイン法)	1-3	"
22-25	7	17	"	下顎大臼歯 オールセラミックス ヴィンテージ ZR	1, 2, 4	"

26-31	7	18	陶材築盛	下顎大臼歯 オールセラミックス ワインテージ ZR	1, 2, 4	安江、富川、 上條
32-37	7	19	形態修正	上顎中切歯、下顎大臼歯の形態修 正	5	"
38-40	7	23	形態修正、艶出し	形態修正、ステイン、グレーズ、機 械研磨	5	"
41-45	7	26	予備日	予備日	5	"

### 評価方法

製作作品、出席状況、実習態度により総括的評価を行う。

### 参考図書等

- ・新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2009
- ・「CAD/CAM デンタルテクノロジー」 末瀬一彦・宮崎 隆 編 医歯薬出版 2012
- ・「最新 CAD/CAM レストレーション」 補綴臨床別冊 三浦宏之・宮崎 隆 編 医歯薬出版 2008
- ・「ザ・メタルセラミックス」 山本 真 著 クインテッセンス出版 1982
- ・「メタルセラミックス築盛の基礎」 山本 真 著 クインテッセンス出版 1989
- ・「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」 細川隆司・山下恒彦 編 歯科技工別冊 医歯薬出  
版 2007

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

- |      |    |    |                          |
|------|----|----|--------------------------|
| 安江 透 | 講師 | 隨時 | yasue.fpoe@tdm.ac.jp     |
| 富川紘一 | 助教 | 隨時 | fukawa.peoe@tdm.ac.jp    |
| 上條真吾 | 助教 | 隨時 | s-kamijoh.itoe@tdm.ac.jp |

科目名	口腔外科工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	吉増秀實(健康支援口腔保健衛生学分野)、木野孔司(顎関節治療部)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

本科目は口腔保健衛生学専攻2年生と合同で授業を実施する。

### 学習目標

口腔外科領域の疾患と診断、治療法の基礎的知識を修得する。

### 到達目標

1. 口腔外科の概要、口腔外科疾患の種類と診断法について理解する。
2. 顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、その治療法を理解する。
3. 顎口腔領域の損傷の診断と治療法を理解する。
4. 顎口腔領域の炎症の診断と治療法を理解する。
5. 顎口腔領域の囊胞の診断と治療法を理解する。
6. 顎口腔領域の腫瘍の診断と治療法を理解する。
7. 口腔粘膜疾患の診断と治療法を理解する。
8. 口腔顎顔面領域の神経疾患の診断および治療法を理解する。
9. 唾液腺疾患の診断と治療について理解する。
10. 顎口腔領域に症状を現す血液疾患、出血性素因について理解する。
11. 代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した疾患について理解する。
12. 口腔外科疾患に関連する補綴治療について説明する。
13. 顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を理解する。

### 授業計画 3学年後期・15時間・必修1単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	4	口腔外科の概要	口腔外科とは、口腔外科疾患の種類、口腔外科診断法	1	吉増
2	10	4	先天異常	口唇口蓋裂の診断、治療、その他 の顔面奇形	2	"
3	10	4	顎発育異常	顎変形症の診断と治療	2	"
4	10	18	外傷	軟組織損傷、顎骨骨折、歯の外傷	3	"

5	10	18	炎症	炎症の診断と治療、歯性炎症、炎症の波及	4	吉増
6	10	18	囊胞	歯原性囊胞、非歯原性囊胞、軟組織囊胞の診断と治療	5	"
7	10	25	良性腫瘍・腫瘍類似疾患	良性腫瘍・腫瘍類似疾患の診断と治療	6	"
8	10	25	悪性腫瘍	悪性腫瘍の診断と治療	6	"
9	10	25	口腔粘膜疾患	口腔粘膜疾患の診断と治療	7	"
10	11	1	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液腺疾患	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液腺疾患の診断と治療	8, 9	"
11	11	1	血液疾患、出血性素因	血液疾患、出血性素因の診断と治療	10	"
12	11	1	代謝性疾患の口腔症状・症候群	代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患	11	"
13	11	8	口腔外科と補綴治療	口腔外科疾患術後患者に対する補綴治療、補綴に関連した口腔外科手術	12	"
14,15	11	8	顎関節疾患	顎関節症の診断と治療、顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療	13	木野

### 評価方法

筆記試験および出席状況、授業態度により総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・最新歯科衛生士教本「口腔外科・歯科麻酔」歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 2011
- ・「歯科衛生士のための口腔外科学」古森孝秀 編著 永末書店 2011
- ・「臨床病態学 3」北村 聖 総編集 ヌーヴェルヒロカワ 2010
- ・「口腔外科疾患医療従事者のための－カラーアトラス」道 健一 編 永末書店 2005
- ・「最新口腔外科学 第4版」富田喜内 監修 塩田重利ほか 編 医歯薬出版 1999

### 留意事項

事前に資料の配布および e-learning 上へのアップロードがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

**担当教員のオフィスアワー**

吉増秀實 教授 隨時 h-yoshimasu.ocsh@tm.ac.jp

杉本久美子 教授 隨時 ksugimoto.bohs@tm.ac.jp

科目名	人間工学デザイン論
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・選択1単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	品田佳世子(口腔疾患予防学分野)、田中 茂(十文字学園女子大学)、小林明子・日高豊彦(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

作業環境の健康に及ぼす影響および作業環境の改善方法について学ぶ。

**到達目標(SBOs)**

1. 作業環境の健康に及ぼす影響を説明できる。
2. 作業環境の測定方法について説明できる。
3. 粉じん、アスベスト、その他の有害物質について説明できる。
4. 作業環境の改善方法について説明できる。
5. 安全対策について説明できる。
6. チェアサイド、ラボサイドの作業環境について説明できる。
7. 歯科技工所の設備構造について説明できる。
8. 歯科技工物の安全性、トレーサビリティーについて説明できる。

**授業計画 3学年後期・15時間・選択1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	10	10	作業環境が健康に及ぼす影響 作業環境の測定	作業環境が健康に及ぼす影響と作業環境測定	1, 2	品田
4, 5	10	17	粉じんとアスベスト及び有害物質について	粉じんとアスベスト及び有害物質について	3	田中
6, 7	10	24	保護具および排気装置について	保護具および排気装置について	4	"
8, 9	10	31	安全対策について	安全対策の計画(グループワーク)	5	品田
10, 11	11	7	チェアサイドでの作業環境	印象材・石膏の取り扱いと保管方法	6	小林
12, 13	12	5	ラボサイドでの作業環境	歯科技工材料の取り扱いと保管方法	6	日高

14, 15	12	12	歯科技工所の設備構造基準と歯科技工物の安全性およびトレーサビリティ	歯科技工所の設備構造基準 歯科技工指示書とトレーサビリティ	7, 8	池田
--------	----	----	-----------------------------------	----------------------------------	------	----

### 評価方法

筆記試験およびレポートで総括的に評価する。

### 参考図書等

- ・「労働衛生のしおり」 中央労働災害防止協会 2013
- ・「GP のための金属アレルギー臨床」 井上昌幸・中山秀夫・松村光明著 デンタルダイアモンド社 2003

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

池田正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp

品田佳世子 教授 メールにて面談の日程を調整すること shinada.pvoh@tmd.ac.jp

科目名	バイオデザイン学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・選択1単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、杉本久美子、鈴木哲也
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

生体と調和した歯科医療機器の開発・研究に必要な知識を修得する。

**到達目標(SBOs)**

1. 生体組織の力学に関する研究について説明する。
2. 細胞の力学に関する研究について説明する。
3. レギュラトリーサイエンスの必要性について説明する。
4. 医療機器の安全性について説明する。
5. 医療機器の有効性について説明する。
6. 歯科用医療機器の特徴を説明する。
7. 医療機器の認証・承認について説明する。
8. 実際の歯科医療機器製作現場を理解する。

**授業計画 2学年後期・15時間・選択1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	1	9	生体と細胞の力学	生体と細胞の材料学的定数 生体と細胞の力学に関する文献的検索	1, 2	高橋
4-6	1	23	生体と細胞の力学	生体と細胞の力学に関する文献調査の報告	1, 2	高橋
7-9	1	30	医療機器の安全性と有効性	レギュラトリーサイエンスとは何か 医療機器の安全性 医療機器の有効性 歯科用医療機器の特徴	3-6	杉本
10-12	2	6	医療機器の認証と承認	医療機器のクラス別分類 医療機器の認証のために手続 医療機器の承認のために手續 リスクの定量的評価	7	高橋

13-15	2	13	歯科医療機器製作の 実際	歯科医療機器製作工場の見学	8	鈴木
-------	---	----	-----------------	---------------	---	----

### 評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

### 参考図書等

- ・「スタンダード歯科理工学 一生体材料と歯科材料」第5版 鈴木一臣・榎本貢三・岡崎正之・中嶌 裕・西山 典宏 編 学研書院 2013
- ・一般用医薬品製造販売承認基準(2012) 日本OTC医薬品情報研究会 著 じほう 2012
- ・「医薬品の開発と生産—レギュラトリーサイエンスの基礎 薬学教育モデル・コアカリキュラム C17 分野国家試験」(学教育モデル・コアカリキュラム C17 分野国家試験対応テキスト) 芦澤一英ほか 著 じほう 2010

### 留意事項

事前に資料の配付、e-learningへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

- 高橋英和 教授 メールにてあらかじめ面談時間を相談のこと takahashi.bmoe@tdm.ac.jp  
 杉本久美子 教授 メールにてあらかじめ面談時間を相談のこと ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp  
 鈴木哲也 教授 メールにてあらかじめ面談時間を相談のこと suzuki.peoe@tdm.ac.jp

科目名	発育口腔工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	今井俊行(非常勤講師)、高齢者施設見学先指導者、杉本博子ほか(東京都心身障害者口腔保健センター)、口腔保健工学専攻教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室、高齢者施設、東京都心身障害者口腔保健センター

**学習目標(GIO)**

訪問歯科診療、高齢者施設および障害者口腔保健センターの見学を通して、患者の口腔内状況、治療内容と口腔内装置の実際を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 訪問歯科診療に同行し、在宅患者の口腔内と装着装置の実際を理解する。
2. 高齢者施設を訪問し、利用者の口腔内と装着装置の実際を理解する。
3. 障害者に対する歯科治療と口腔内装置の実際を理解する。
4. 見学実習を通して歯科技工のニーズを把握する。

**授業計画 3学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	9	30	ガイダンス	体験学習ガイダンス	1-4	今井
2-5	10	2	高齢者施設見学	訪問歯科診療・高齢者施設見学実習	1, 2	見学先指導者
6-9	10	3	"	"	1, 2	"
10-13	1	8	障害者歯科見学	障害者歯科と歯科技工士、東京都心身障害者口腔保健センター見学	3	杉本(博)、見学先指導者
14,15	1	15	見学実習報告	見学実習発表会	1-4	口腔保健工学専攻教員

**評価方法**

出席状況、授業態度、発表内容およびレポートにより総括的評価を行う。

## **参考図書等**

- ・最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 森戸光彦・向井美恵ほか 著 医歯薬出版 2003
- ・最新歯科衛生士教本「障害者歯科」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 森崎市治郎・向井美恵ほか 著 医歯薬出版 2003

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

科目名	小児歯科工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	石川雅章(歯学部附属病院)、三輪全三・小野芳明(小児歯科学分野)、遠藤圭子(口腔疾患予防学分野)
主な授業場所	口腔保健学科 第3講義室(1号館7階)

本科目は口腔保健衛生学専攻2年生と合同で授業を実施する。

### 学習目標

小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。

### 到達目標

1. 出生から青少年期までの心身の成長・発達を理解する。
2. 小児の情緒と社会性の発達を理解する。
3. 小児の健康を育む食生活と支援の重要性を理解する。
4. 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を理解する。
5. 頸・顔面頭蓋の成長過程を理解する。
6. 齒列咬合の発育過程を理解する。
7. 小児期の口腔疾患とその治療法、チーム医療を理解する。
8. 歯科治療時的小児の行動への対応法を理解する。
9. 小児に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。

### 授業計画 3学年後期・15時間・必修1単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1,2	10	9	小児の成長発育、機能の発達、情緒・社会性の発達	成長発育の特徴、身体の発育とその評価、器官の発育、運動・感覚機能の発達、情緒・社会性の発達	1, 2	石川
3,4	10	16	小児の生理的特徴、摂食機能と言語の発達	原始反射、哺乳に関する反射、小児の生理的特徴、栄養摂取と摂食機能の発達、哺乳期、離乳期、幼児期、児童・生徒期、発達期の食の問題、言語の基礎知識、言語の発達、発達期にみられる構音障害	1, 3	"

5,6	10	23	顎・顔面頭蓋、歯列・咬合の発育	頭蓋の構成要素と相対的発育、頭蓋発育の機構と評価法、側貌頭部エックス線規格写真計測による日本人小児の平均身長、歯列咬合の発育(無歯期、乳歯萌出期、乳歯列期、混合歯列前期、混合歯列後期、永久歯列期)、歯列発育の評価法	4-6	石川
7,8	10	30	発達期の口腔疾患と歯科的対応 1	乳歯・幼弱永久歯の特徴、歯・歯数・萌出の異常、乳歯う蝕の特徴、小児う蝕の実態、重症乳歯う蝕の為害作用、青少年期のう蝕	4-7	三輪
9,10	11	6	発達期の口腔疾患と歯科的対応 2	発達期の歯周疾患、不正咬合、口腔軟組織疾患の原因と予防、不良習癖、咬合誘導	4-7	"
11,12	12	4	歯科治療時的小児行動への対応法	小児の歯科診療時の留意事項(診療環境の整備、小児歯科治療三角、コミュニケーションの確立)、小児の情動の特徴、行動変容法、強制的な行動抑制	8	小野
13,14	12	11	小児歯科の症例紹介	小児歯科の症例紹介(酸蝕、外傷を含む)、治療における歯科医療従事者の役割・チーム医療	7,8	"
15	12	11	発達期の口腔保健まとめ	全体のまとめ	1-9	遠藤

### 評価方法

筆記試験および授業態度により総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・新歯科技工士教本「小児歯科技工学」全国歯科技工士教育協議会 編 河野壽一・内川喜盛・尾崎順男 著 医歯薬出版 2006
- ・最新歯科衛生士教本「小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会 監修 松井恭平ほか 編 医歯薬出版 2009

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

石川雅章 教授 随時 (必ず事前に連絡すること) [ishikawa.pohc@tmd.ac.jp](mailto:ishikawa.pohc@tmd.ac.jp)

三輪全三 講師 随時 (必ず事前に連絡すること) [miwa.dohs@tmd.ac.jp](mailto:miwa.dohs@tmd.ac.jp)

小野芳明 講師 隨時（必ず事前に連絡すること）y-ono.dohs@tm.ac.jp

遠藤圭子 准教授 隨時（必ず事前に連絡すること）usagi.pvoh@tm.ac.jp

杉本久美子 教授 隨時 ksugimoto.bohs@tm.ac.jp

科目名	小児歯科工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	小児歯科工学実習(1) 3学年後期・20時間 小児歯科工学実習(2) 3学年後期・25時間 } 必修1単位
科目責任者	杉本久美子、大木明子
授業担当者	小野芳明(小児歯科学分野)、大木明子
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室

小児歯科工学実習は小児歯科工学実習(1)および小児歯科工学実習(2)から構成され、小児歯科工学実習(2)は顎補綴工学実習に割り当てる。

### 小児歯科工学実習(1)

#### 学習目標

小児歯科治療に用いられる修復物、保隙装置およびスペースリゲイナー等の製作に関する知識と技術を修得する。

#### 到達目標

1. 小児歯科治療の概要を理解する。
2. 小児歯科治療に用いる装置の目的および構成を説明する。
3. 小児歯科治療に用いる装置の製作法を理解し、製作する。

#### 授業計画 3学年後期・20時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	9	小児の治療	治療の目的、乳歯う蝕の特徴とその処置	1	小野
2	10	9	小児の歯冠修復	歯冠修復の特徴と種類(成形修復・インレー・被覆冠)	1, 2	"
3	10	9	咬合誘導装置	咬合誘導の概念と装置の種類(保隙装置、スペースリゲイナー、口腔習癖除去装置)	1, 2	"
4-6	10	16	保隙装置・スペースリゲイナー	保隙の意義と目的、保隙装置の種類と分類(ディスタルシュー、舌側弧線型保隙装置、クラウンループ)、スペースリゲイナーの目的、装置の構成	1, 2	"
7-9	10	23	保隙装置・スペースリゲイナーの製作	クラウンループ・スペースリゲイナー装置の製作法	3	"

10	10	30	動的咬合誘導	動的咬合誘導の意義と目的、口腔習癖除去装置の目的・構造・製作法	1- 3	小野
11,12	10	30	動的咬合誘導装置の製作	動的咬合誘導装置の製作法	3	"
13-15	11	6	口腔習癖除去装置の製作	口腔習癖除去装置の製作法	2	"
16	12	4	動的咬合誘導床	誘導床の目的、装置の構造	1, 2	"
17, 18	12	4	動的咬合誘導床の製作	誘導床の製作	3	"
19, 20	12	11	咬合誘導装置に用いる維持装置	咬合誘導装置に用いる維持装置の種類と製作法	2, 3	"

### 評価方法

- 提出作品および授業態度により総合的に評価する。
- 小児歯科工学実習の成績判定は、小児歯科工学実習(1)および(2)の評価を総合して行う。

### 参考図書等

新歯科技工士教本「小児歯科技工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 河野壽一・内川喜盛・尾崎順男 著  
医歯薬出版 2006

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

小野芳明 講師 随時（必ず事前に連絡すること） y-ono.dohs@tmd.ac.jp  
杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.bohs@tmd.ac.jp

### 小児歯科工学実習(2)

#### 学習目標(GIO)

顎口腔および顔面の欠損に適用される治療用装置の構造と製作法を理解する。

#### 到達目標(SB0s)

- エピテーゼに用いられる材料について説明する。
- エピテーゼを製作する。

### **授業計画 3学年後期・25時間・必修**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	1	7	エピテーゼ 1	エピテーゼワックスアップ	1, 2	大木
6-10	1	14	エピテーゼ 2	エピテーゼワックスアップ	1, 2	"
11-15	1	21	エピテーゼ 3	エピテーゼワックスアップ、埋没	1, 2	"
16-20	1	28	内部彩色、シリコーン加硫	内部彩色、シリコーン填入、加硫	1, 2	"
21-25	2	6	外部彩色	形態修正、外部彩色、完成	1, 2	"

### **評価方法**

- ・出席状況、授業態度、製作作品を総合的に評価し、合否を判定する。
- ・小児歯科工学実習の成績判定は、小児歯科工学実習(1)および(2)の評価を総合して行う。

### **参考図書等**

- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口尚 編 医学情報社 2006
- ・「口腔顎顔面技工」 文部科学省委託事業 平成20年度専修学校教育重点支援プラン
- ・「口腔顎顔面技工 実習帳」 文部科学省委託事業 平成20年度専修学校教育重点支援プラン

### **留意事項**

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### **担当教員のオフィスアワー**

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	矯正歯科工学
授業の形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・30時間・必修2単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	松本芳郎(咬合機能矯正学)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室・第2実習室

### 学習目標

顎顔面頭蓋の成長発育ならびに不正咬合の原因・診断・治療について理解し、矯正歯科治療に必要な装置製作に関する知識と基本的技能を修得する。

### 到達目標

1. 顎顔面の成長発育と正常な歯列咬合の状態を理解する。
2. 不正咬合の分類・種類・原因とその影響を理解する。
3. 矯正歯科の診断・治療法を概説する。
4. 矯正歯科装置の必要条件・分類・種類と使用法を説明する。
5. 矯正歯科装置の製作法を理解し、製作する。
6. 歯科矯正治療におけるチーム医療を理解する。

### 授業計画 3学年後期・30時間・必修2単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	9	30	矯正歯科工学科序論	1. 歯科矯正学の歩み 2. 不正咬合による障害と矯正歯科治療の意義 3. 矯正歯科治療における矯正歯科技工の意義	1-6	松本
2	9	30	成長発育	1. 成長発育概論 2. 顎顔面頭蓋の成長発育 3. 歯列・咬合の成長発育	1	"
3	9	30	正常咬合と不正咬合	1. 正常咬合 2. 不正咬合とその分類	1, 2	"
4	10	21	不正咬合の原因・予防と生物学的背景	1. 不正咬合の原因 2. 不正咬合の予防 3. 矯正力に伴う生体反応	2, 3	"

5	10	21	矯正歯科治療の進め方	1.矯正歯科治療の流れと歯科技工の関わり 2. 形態分析・機能分析 矯正用口腔模型、口腔内写真、顔面規格写真、各種 X 線写真、頭部 X 線規格写真(セファログラム)、各種機能検査、各種検査の分析 3.矯正診断 4.矯正力と固定 5.後戻り・再発と保定	3	松本
6	10	21	矯正装置の必要条件と分類	1.矯正装置の必要条件 2.矯正装置の分類	4	"
7	10	24	矯正用口腔模型の製作法	矯正用口腔模型(平行模型・顎態模型・セットアップモデル)	5, 6	"
8,9	10	24	矯正用口腔模型の製作	印象採得、石膏注入(模型、セットアップ、保定装置)	5	"
10	10	28	矯正技工用器具と材料	矯正技工用器具と材料	4	"
11,12	10	28	歯科技工の基本的手技 1	ワイヤーベンディング		"
13	12	2	各種固定式矯正装置の使用法、製作法	舌側弧線装置、顎間固定装置、リップバンパー、ナスのホールディングアーチ、側方拡大装置	5,6	"
14,15	12	2	矯正技工の基本的手技 2、舌側弧線装置(リンガルアーチ)の製作 1	自在ろう着、ST ロック維持管ろう着	5	"
16-18	12	9	舌側弧線装置の製作 2	ST ロック維持管ろう着、ST ロック脚部屈曲	5	"
19-21	12	16	舌側弧線装置の製作 3	ST ロック脚部屈曲、主線屈曲、ろう着	5	"
22	1	6	各種床矯正装置、保定装置の使用法、製作法	咬合拳上板、咬合斜面板、スライディングプレート、ホーレーの保定装置、トゥースポジショナー、ラップアラウンドリテナー、犬歯間リテナー、FSW リテナー	5, 6	"
23,24	1	6	保定装置の製作 1	ワイヤー屈曲	5	"

25-27	1	20	保定装置の製作2	ワイヤー屈曲・ろう着、即重レジン重合	5	松本
28-30	1	27	保定装置の製作3	即重レジン重合、研磨	5	"

### 評価方法

筆記試験、製作作品および授業態度により総合的に評価する。

### 参考図書等

- ・新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 後藤尚昭・宇都宮宏充・横山和良 著 医歯薬出版 2006
- ・「最新歯科矯正アトラス」 井上直彦・鈴木祥井 著 医歯薬出版 1984
- ・「最新歯科矯正アトラス臨床編I」 井上直彦 著 医歯薬出版 1982
- ・「歯科矯正学」 第5版 相馬邦道ほか 編著 医歯薬出版 2008
- ・「Contemporary Orthodontics」 5th Ed. W. R. Proffit ほか著 MOSBY 2012

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

松本芳郎 講師 随時 y.matsumoto.orts@tdm.ac.jp

杉本久美子 教授 随時 ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp

科目名	矯正歯科工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	矯正歯科工学実習(1) 3学年後期・9時間 矯正歯科工学実習(2) 3学年後期・36時間 } 必修1単位
科目責任者	杉本久美子、安江 透
授業担当者	松本芳郎(咬合機能矯正学)、安江 透、林 政利(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室

本科目は矯正歯科工学実習(1)および(2)より構成され、矯正歯科工学実習(2)はインプラント実習に割り当てる。

### 矯正歯科工学実習（1）

#### 学習目標（GIO）

顎口腔と歯列の形態異常の矯正的治療法について理解し、治療に必要な装置の製作法の知識と技術を修得する。

#### 到達目標（SBOs）

- 矯正歯科装置の必要条件・分類・種類と使用法を説明する。
- 矯正歯科装置の製作法を理解する。
- 歯科矯正治療におけるチーム医療を理解する。

#### 授業計画 3学年後期・9時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	2	3	各種機能的装置の使用法、製作法	アクチバトル、バイオネーター、ビムラーのアダプター、フレンケルの装置他	1, 2	松本
3	2	3	FKO(アクチバトル)の製作1	構成咬合器装着	2	"
4-6	2	10	FKOの製作2	誘導線屈曲、ワックス床形成	2	"
7, 8	2	17	FKOの製作3	即重レジン重合、研磨	2	"
9	2	17	まとめ	矯正歯科工学のまとめ	1-3	"

## 評価方法

- ・製作作品および授業態度により総合的評価を行う。
- ・矯正歯科工学実習の成績判定は矯正歯科工学実習(1)および(2)の評価を総合して行う。

## 参考図書等

- ・新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 後藤尚昭・宇都宮宏充・横山和良 著 医歯薬出版 2006
- ・「最新歯科矯正アトラス」 井上直彦・鈴木祥井 著 医歯薬出版 1984
- ・「最新歯科矯正アトラス臨床編Ⅰ」 井上直彦 著 医歯薬出版 1982
- ・「歯科矯正学」 第5版 相馬邦道他 編著 医歯薬出版 2008
- ・「Contemporary Orthodontics」 5th Ed. W. R. Proffit ほか 著 MOSBY 2012

## 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## 担当教員のオフィスアワー

松本芳郎 講師 随時 y.matsumoto.orts@tdm.ac.jp  
杉本久美子 教授 随時 ksugimoto.bohs@tdm.ac.jp

## 矯正歯科工学実習（2）

### 学習目標（GIO）

歯科用 CAD/CAM システムを応用して、インプラントアバットメントおよび上部構造の設計製作を行うことにより、インプラント治療の基礎および生体親和性に優れた修復物を製作する基本的な技術力を養う。また、インプラントシステムに数多くある技工パーツの、それぞれの使用目的と使用法および材料特性を理解する。

### 到達目標（SBOs）

1. インプラント修復物製作に必要な高精度の作業用模型を製作する。
2. インプラント修復物に与えるべき咬合関係を説明する。
3. インプラント修復物に与えるべき歯冠形態を再現する。
4. 上部構造体の形態を考慮したアバットメントを設計する。
5. 気泡を混入しない正確な埋没をする。
6. 欠陥がない鋳造体を製作する。
7. ミリングマシンを用いて精密なミリング加工をする。
8. サポートエリアおよび陶材築盛量を考慮したフィニッシングライン設計および窓開けをする。
9. 歯科用 CAD システムを用いて、ダブルスキヤンによるコーピングを設計する。
10. ジルコニアを加工する際の切削用ポイントを適切に選択し使用する。
11. ジルコニアコーピングをカスタムアバットメントに精密に調整適合させる。
12. サポートエリアを十分確保した陶材築盛面を調整および形成する。

13. 修復物の最終歯冠形態をイメージして、陶材を築盛する。
14. 異なる種類の陶材を混ぜあうことなく積層する。
15. 陶材の特徴を理解して、目標とする色調を表現する。
16. 隣接面コンタクト調整および咬合調整を行い歯列模型に正確に適合させる。
17. インプラント上部構造に与えるべき歯冠形態を形態修正で表現する。
18. 生体親和性を考慮した表面性状を艶出し操作によって与える。

### 授業計画 3 学年後期・36 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	9	30	作業用模型製作	ダウエルピン植立、二次石膏操作	1	安江、林
5-8	10	7	ワックスアップ	下顎大臼歯(歯冠回復→カスタムアバットメント設計→カットバック)	2-4	"
9-12	10	21	埋没・鋳造	カスタムアバットメント(埋没→鋳造)	5, 6	"
13-16	10	28	鋳造・ミリング	カスタムアバットメント調整(内面調整・軸面ミリング)、ミリングマシン使用説明・操作	7	"
17-20	12	2	ワックスアップ	上部構造体(歯冠回復→フィニッシュライン設計→カットバック)	2, 3, 8	安江
21-24	12	9	CAD 操作	Aadva システム(GCコーポレートセンター)フレームオーダー	9	"
25-28	12	16	フレーム調整	ジルコニアフレーム調整	10-12	"
29-32	1	6	陶材築盛	イニシャル築盛(単色築盛法)	13-15	"
33-36	1	20	形態修正・研磨	形態修正、ステイン、セルフグレーズ、機械研磨	16-18	"

### 評価方法

- ・出席状況、授業態度、レポート、筆記試験を総合的に評価し合否を判定する。
- ・矯正歯科工学実習の成績判定は矯正歯科工学実習(1)および(2)の評価を総合して行う。

### 参考図書等

- ・「インプラント歯学の実際」 Ashok Sethi・Thomas Kaus 著 瀬戸 皖一・佐藤 淳一訳 クインテッセンス出版 2006
- ・新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2009
- ・歯科技工別冊「インプラントの技工」 市川哲雄・渡邊文彦 編 医歯薬出版 2004
- ・歯科技工別冊「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」 細川隆司・山下恒彦 編 医歯薬出

版 2007

・「ザ・メタルセラミックス」 山本眞 著 クインテッセンス出版 1982

#### **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

#### **担当教員のオフィスアワー**

安江 透 講師 隨時 [yasue.fpoe@tdm.ac.jp](mailto:yasue.fpoe@tdm.ac.jp)

科目名	顎補綴工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	大木明子
授業担当者	大木明子、吉岡 文(愛知学院大学)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

顎口腔および顔面の欠損の病態と治療法、特に治療用装置の構造と製作法を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 顎顔面補綴の治療範囲、原因、分類を説明する。
2. 上顎欠損症例の特徴と欠損の病態、治療法、治療用装置について説明する。
3. 上顎欠損に用いられる補綴装置の構造と製作過程を説明する。
4. 下顎欠損症例の特徴と欠損の病態、治療法、治療用装置について説明する。
5. 舌欠損症例の特徴と欠損の病態、治療法、治療用装置について説明する。
6. 放射線治療補助装置の種類と放射線治療法について説明する。
7. 外傷後の補綴と小口症、開口障害への対応について説明する。
8. 顔面、体幹欠損症例の欠損の病態、材料、治療用装置について説明する。
9. 脣顎口蓋裂の病態と特徴、治療用装置について説明する。
10. 言語治療補助装置と治療法を説明する。
11. 外科治療補助装置について説明する。
12. その他の補助装置について説明する。

**授業計画 3学年後期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	1	顎顔面補綴学とは	定義、分類、歴史	1	大木
2	10	1	上顎欠損と上顎顎義歯 1	上顎欠損の特徴、有歯顎症例	2, 3	"
3	10	8	上顎欠損と上顎顎義歯 2	無歯顎症例	2, 3	"
4	10	8	下顎欠損と下顎顎義歯	下顎欠損の特徴、有歯顎・無歯顎症例	4	"
5	10	15	舌欠損	舌欠損の特徴、舌欠損症例	5	"

6	10	15	放射線治療と補綴	口腔咽頭腫瘍に対する放射線治療、放射線治療補助装置、放射線治療後の補綴	6	大木
7	10	22	外傷後の補綴	顎顔面部外傷後特徴、症例	7	"
8	10	22	小口症、開口障害の補綴	小口症・開口障害の特徴、印象採得・技工の工夫について	7	"
9	10	29	顔面・体幹補綴	顔面補綴治療、体幹補綴、頭蓋・顔面インプラント、エピテーゼ材料	8	"
10	10	29	顔面補綴	顔面補綴の症例	8	吉岡
11	11	5	唇顎口蓋裂と補綴	唇顎口蓋裂の特徴、チームアプローチと補綴	9	大木
12	11	5	構音障害と構音訓練	口腔腫瘍や口蓋裂に対する構音障害と訓練	9, 10	"
13	12	3	言語治療用補助装置	スピーチエイド、軟口蓋拳上床と症例	10	"
14	12	3	外科治療用補助装置	外科治療用補助装置(ステント、スプリント)	11	"
15	12	10	開口訓練・身体障害者用装置	開口障害のための開口訓練装置、身体障害者用装置	12	"

### 評価方法

出席状況、授業態度、筆記試験を総合的に評価し合否を判定する。

### 参考図書等

- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口 尚 編 医学情報社 2006
- ・「口腔顎顔面技工」 文部科学省委託事業 平成20年度専修学校教育重点支援プラン 2009
- ・「口腔顎顔面技工」 実習帳 文部科学省委託事業 平成20年度専修学校教育重点支援プラン 2009
- ・「口唇口蓋裂のチーム医療」 高戸 毅 監修 金原出版 2005
- ・「顎口腔外傷のチーム医療」 高戸 毅 監修 金原出版 2005
- ・「口唇裂口蓋裂の補綴」 大山喬史 編 医歯薬出版 1997

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	顎補綴工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	3学年後期・45時間・必修1単位
科目責任者	大木明子
授業担当者	大木明子
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第2実習室

**学習目標(GLO)**

顎口腔および顔面の欠損に適用される治療用装置の構造と製作法を理解する。

**到達目標(SBOs)**

1. 上顎顎義歯の構造について説明する。
2. 栓塞部の製作法を理解して上顎顎義歯を製作する。

**授業計画 3学年後期・45時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	1	顎補綴工学実習概説	顎補綴工学実習内容説明	1, 2	大木
2-5	10	1	個人トレー	模型調整、サベイング、ブロックアウト、リリーフ、常温重合レジン圧接、トリミング	1, 2	"
6-10	10	8	咬合床	作業用模型調整、サベイング、ブロックアウト、リリーフ、常温重合レジン圧接、トリミング、ワイヤークラスプ屈曲、ワックスリム追加	1, 2	"
11-15	10	15	咬合器装着	咬合採得、咬合器装着	1, 2	"
16-20	10	22	支台装置 1	外形線記入、サベイング、ブロックアウト、リリーフ、副印象	1, 2	"
21-25	10	29	支台装置 2	耐火模型製作、ワックスアップ 埋没、鋳造、研磨	1, 2	"
26-30	11	5	人工歯排列 1	人工歯排列	1, 2	"
31-35	12	3	人工歯排列 2	歯肉形成	1, 2	"
36-40	12	10	埋没、欠損部修正、重合	埋没、欠損部修正、レジン填入、重合	1, 2	"
41-45	12	17	研磨	割り出し、削合、研磨	1, 2	"

## **評価方法**

出席状況、授業態度、製作作品を総合的に評価し合否を判定する。

## **参考図書等**

- ・「顎顔面補綴の臨床」 大山喬史・谷口尚 編 医学情報社 2006
- ・「口腔顎顔面技工」 文部科学省委託事業 平成20年度専修学校教育重点支援プラン 2009
- ・「口腔顎顔面技工 実習帳」 文部科学省委託事業 平成20年度専修学校教育重点支援プラン 2009

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tdm.ac.jp

科目名	口腔リハビリテーション工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年後期・15時間・必修1単位
科目責任者	大木明子
授業担当者	大木明子、杉本久美子、鈴木哲也、岩佐康行・猪原健(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

**学習目標(GIO)**

摂食嚥下障害など口腔機能障害の病態と、その機能訓練・回復治療法について理解する。

**到達目標(SBOS)**

1. 摂食・嚥下障害の病因、病態、障害を説明する。
2. 摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションの流れを説明する。
3. 摂食・嚥下障害に対する補綴的対応を説明する。
4. 誤嚥性肺炎と口腔ケア、口腔ケア用品について説明する。
5. 摂食・嚥下障害に対するチーム医療を説明する。

**授業計画 3学年後期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	12	10	摂食・嚥下障害とは	摂食・嚥下障害の概要、背景、原因	1	大木
2	12	17	摂食・嚥下のメカニズム	摂食・嚥下の解剖・生理とその障害	1	杉本
3	12	17	摂食・嚥下障害の評価法	問診、観察、スクリーニングテスト、検査	2	鈴木
4	1	7	摂食・嚥下障害の治療の流れ	摂食・嚥下リハビリテーション	2	岩佐
5	1	7	摂食・嚥下訓練	摂食・嚥下訓練の実際、間接訓練、直接訓練	2	"
6	1	14	脳血管疾患と摂食・嚥下障害	脳血管障害と摂食・嚥下リハビリテーション	3	猪原
7	1	14	介護と摂食・嚥下障害	介護保険、在宅・施設における摂食・嚥下障害の対応	3	"
8	1	21	口腔腫瘍と摂食・嚥下障害	口腔腫瘍と摂食・嚥下リハビリテーション	3	大木

9	1	21	上顎・軟口蓋欠損への対応	上顎欠損への対応(上顎顎義歯、軟口蓋挙上装置)	3	大木
10	1	28	舌欠損への補綴的対応	舌接触補助装置の構造と製作法	3	"
11	1	28	摂食・嚥下障害と栄養管理	摂食・嚥下障害の患者の食事の考え方	1, 2	"
12	2	4	言語障害	言語障害と言語訓練	3	"
13	2	4	口腔ケアと誤嚥性肺炎予防	口腔細菌と誤嚥性肺炎、誤嚥性肺炎の予防	4	"
14	2	18	誤嚥性肺炎への対応	誤嚥性肺炎の治療法、口腔ケア、口腔ケア用品	4	"
15	2	18	チームアプローチ、まとめ	摂食・嚥下障害に対するチームアプローチ、栄養サポートチームや呼吸サポートチームにおける歯科の果たす役割	5	"

### 評価方法

出席状況、授業態度、筆記試験を総合的に評価し、合否を判定する。

### 参考図書等

- ・「摂食・嚥下リハビリテーション第2版」才藤栄一ほか 監修 医歯薬出版 2007
- ・「歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学」向井美恵ほか 監修 医歯薬出版 2008
- ・「セミナー わかる！摂食・嚥下リハビリテーション」1巻、2巻、3巻 植松宏 監修 医歯薬出版 2005～2006
- ・「動画でわかる摂食・嚥下リハビリテーション」藤島一郎・柴本 勇 監修 中山書店 2004
- ・「DVD版 動画でマスター リハビリテーション口腔ケア」金子芳洋 監修 医歯薬出版 2006
- ・「口腔ケア基礎知識」日本口腔ケア学会編 2008
- ・「顎顔面補綴の臨床」大山喬史・谷口 尚 編 医学情報社 2006

### 留意事項

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

### 担当教員のオフィスアワー

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	キャリアマネージメント学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	3学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	池田正臣
授業担当者	池田正臣、西澤隆廣(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

**学習目標(GIO)**

衛生行政の概要と歯科技工士法を理解し、歯科技工士免許の位置づけを学ぶ。

**到達目標(SBOs)**

1. 卫生行政の概要を把握し、法律と厚生労働省を中心とした国の仕組みを説明する。
2. 歯科技工士免許について説明する。
3. 歯科技工士試験について説明する。
4. 歯科技工士業務について説明する。
5. 歯科技工所の開設について説明する。
6. 雜則、罰則、附則について説明する。
7. 医療法、歯科医師法、歯科衛生士法との係りについて説明する。

**授業計画 3学年前期・15時間・必修1単位**

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	11	衛生行政の概要	衛生行政の概要	1	池田
3, 4	4	18	歯科技工士法 1	総則と歯科技工士免許	2	"
5, 6	4	25	歯科技工士法 2	歯科技工士試験	3	"
7, 8	5	9	歯科技工士法 3	"	3	"
9, 10	5	16	歯科技工士法 4	歯科技工士業務	4	"
11, 12	5	23	歯科技工士法 5	"	4	"
13-15	5	30	歯科技工士法とその他の関係法規	歯科技工所について 歯科技工士法の雑則、罰則、附則 医療法、歯科医師法、歯科衛生士法	5-7	池田、西澤

**評価方法**

筆記試験およびレポートで総括的に評価する。

## **教科書**

新歯科技工士教本 「歯科技工士関係法規」 全国歯科技工士教育協議会 編 医歯薬出版 2007

## **留意事項**

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

## **担当教員のオフィスアワー**

池田 正臣 講師 メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp

科目名	再建工学包括臨床実習
ユニット名	再建工学包括臨床実習 A
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	3学年後期・180時間・必修4単位
科目責任者・ユニット責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、土平和秀、口腔保健工学専攻教員、歯学科教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第3実習室、歯学部附属病院 各診療科(Phase II)

再建工学包括臨床実習は、ユニット「再建工学包括臨床実習 A」(3年次)および「再建工学包括臨床実習 B」(4年次)により構成される。

### 学習目標(GIO)

歯科医療チームの一員として診療参加型臨床実習を円滑に実践、遂行するための準備段階として必要な基本的態度・知識・技能を習得する。

### 到達目標(SBOs)

1. 医療人としての倫理観を身につける。
2. 多職種との連携に必要な事項を列挙する。
3. 臨床模型による歯科技工操作の留意点を説明する。
4. 臨床実習に必要となる基本的歯科技工技術を確実にする。
5. 歯学部附属病院における各診療科の特徴を理解する。
6. 製作上に必要な情報を取得し、整理する。
7. 症例に応じた補綴デザインを選択する。

### 授業計画 3学年後期・180時間・必修4単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	10	7	再建工学包括臨床実習 オリエンテーション	オリエンテーション、臨床実習	1-3	鈴木、土平、口腔保健工学専攻教員
4-7	10	10	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要となる基本的歯科技工技術の確認	3, 4	"
8-9	10	24	"	"	3, 4	"
10-14	10	31	"	"	3, 4	"
15-19	11	7	"	"	3, 4	"

20-59	11	18-29	再建工学包括臨床実習 Phase II	歯学部附属病院の各診療科での臨床実習	1-5	鈴木、歯学科教員
60-80	12	5-19	再建工学包括臨床実習 Phase III	臨床模型を使った歯科技工技術の習得	3, 4, 6, 7	口腔保健工学専攻教員
81-139	1	8-31	"	"	3, 4, 6, 7	"
140-180	2	3-17	"	"	3, 4, 6, 7	"

### 評価方法

- ・毎回の課題への取り組み、提出物を総合的に評価する。
- ・必要に応じて指導教員が適宜口頭試問を行う。
- ・出席状況、授業態度を評価に加味する。
- ・再建工学包括臨床実習の最終成績判定はユニット「再建工学包括臨床実習 A」および「再建工学包括臨床実習 B」の評価を総合して行う。
- ・本学海外研修奨励制度に基づく奨学生の海外研修は本科目の 45 時間分の履修として認定する。

### 留意事項

- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。
- ・再建工学包括臨床実習 Phase II の具体的な班分け、詳細な日程は別に定める。

### 担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

土平和秀 講師 随時 tsuchihira.peoe@tmd.ac.jp